CMES ANNUAL REPORT 2019

Vol. 020

愛媛大学 沿岸環境科学研究センター 年報

愛媛大学沿岸環境科学研究センター
年　報

（第 20 号）

2019年

ま　え　が　き

愛媛大学沿岸環境科学研究センター（CMES）の年報2019年度版を出版しましたので，お届けします。この年報は，2018年度の活動内容をまとめていますが，「まえがき」に関しては2018年度下期と2019年度上期の主な出来事について取り上げました。

まずは訃報です。2019年2月にCMES設立に多大な貢献を果たされた遊子漁業協同組合元組合長の古谷和夫さんが逝去されました。漁場環境の保全には科学的根拠が重視されねばならないことを提唱し，行動した古谷さんの熱意は地元漁民ばかりでなく研究者の奮起を促し，その動勢はCMES（1999年）や南予水産研究センターの設立（2008年）に繋がりました。CMESでは，2017年5月に同センター設立に尽力された立川　涼愛媛大学名誉教授を喪っており，引き続きの重鎮のご逝去は，発展途上のCMESにとって大きな痛手です。ご両人のご冥福を心よりお祈り申し上げます。なお，古谷さんご逝去の訃報については，2019年7月15日発行のCMESニュースレターに，南予水産研究センター長の武岡英隆教授が寄稿されておりますのでご参照ください。

さて，愛媛大学の共同利用・共同研究拠点「化学汚染・沿岸環境研究拠点（LaMer）」は事業4年次の採択件数が59件に上り，1年次（49件）および2年次（55件）を上回り，3年次（63件）とほぼ同数を達成するなど順調な進展がみられました。また，環境学・海洋学分野で定評のあるIF>3以上のハイインパクトファクター誌掲載論文数も2018年は31報に達し，2017年の32報とほぼ同数を得たことは，引き続き高質な研究水準を維持できたものと考えています。

また，今期も多数の教員やPD研究員・大学院生が学会等で受賞し，表彰されました。2018年度下期～2019年度上期には5件の奨励賞（大学院生）・優秀発表賞（大学院生）・優秀ポスター賞（大学院生）・Best Paper Award（PD研究員）の受賞がありました。さらに，2019年2月に2名の教員が「遠山椿吉記念第6回食と環境の科学賞」および「第15回三浦保環境賞特別賞」を受賞しました。

LaMerの中間評価におけるコメントで女性教員の増員が要望されたこともあり，CMESは2019年に2名の女性教員（特任助教・特定助教）を採用しました。さらに，女性の兼任教員（農学部専任准教授）1名を任用し，組織のジェンダーバランス問題の解消に努めてきました。国立大学には高度な研究を推進し，国際競争力のある事業展開が期待されています。そのためには，組織に革新的・創造的な人材と斯界を導入して硬直化を防ぎ，多様性を確保する必要があります。今回の女性優遇人事には，今後CMESが直面するであろう多様な社会変動や可能性に柔軟に対応しうるパワーの源泉となることを期待しています。関係各位には，引き続きご支援・ご協力をお願い申し上げます。

2019年10月

愛媛大学沿岸環境科学研究センター長

田　辺　信　介

目　　次

まえがき…… 1
1.　総　説 …… 4
1. 1　組　織（平成31年4月現在） …… 4
1. 2　各部門の概要 …… 5
2.　研究者要覧（平成31年4月現在）…… 7
3.　研究プロジェクト（平成30年度） ……18
3. 1　科学研究費等 ……18
3. 2　共同研究 ……20
3. 3　受託研究 ……20
3. 4　各種研究助成金（民間・財団等），奨学寄付金等 ……21
3. 5　受託事業 ……21
4.　研究成果（暦年で2018に出版，掲載されたもの） ……22
4. 1　著　書 ……22
4. 2　学協会誌等 ……22
4. 3　学内，所内誌等 ……27
4. 4　一般誌等 ……27
4. 5　報告書等 ……27
4. 6　学会発表等 ……28
5.　学会及び社会における活動（平成30年度） ……44
5. 1　併任・委員会委員等 ……44
5. 2　学協会委員等 ……45
5. 3　学会，講演会などの開催（センター主催または共催）……47
5. 4　学会，講演会などの開催（個人）……48
5. 5　学会賞等 ……48
6.　国際的活動（平成30年度） ……50
6. 1　国際研究プロジェクト ……50
6. 2　在外研究等 ……52
6. 3　海外調査・国際学会等 ……52
6. 4　外国人客員研究員等 ……54
6. 5　海外からの訪問者 ……54
6. 6　招聘研究員 ……56
6. 7　留学生 ……56
7.　教育活動（平成30年度） ……57
7. 1　卒業論文・修士論文・博士論文　題目 ……57
7. 2　講義・集中講義 ……58
8.　設　備（平成30年度導入） ……62
9.　広　報（平成30年度） ……63
9. 1　CMES ニュース ……63
9. 2　報道関係 ……64
9. 3　講座，講演会等 ……65
10.　調査実習船「いさな」運航状況（平成30年度）……67
11.　研究員名簿（平成30年度）……68
12.　客員研究員名簿（平成30年度）……69
13.　運営委員会（平成30年度）……71
14.　センター規則および運営委員会規程……72

1．総　説

1．1　組　織（平成31年4月現在）

センター長　：田辺　信介

環境動態解析部門

教授　：郭　　新宇
教授　：森本　昭彦
准教授　：加　三千宣
講師　：吉江　直樹
兼任教員（社会連携推進機構 特命教授）：武岡　英隆
兼任教員（理工学研究科 教授）　：日向　博文
* 研究員　：柴野　良太（平成31年3月退職）
研究補助員　：Ji Fei（平成30年7月着任）
事務補佐員　：宮地　　順

化学汚染・毒性解析部門

特別栄誉教授　：田辺　信介
教授　：岩田　久人
教授　：国末　達也
准教授　：野見山　桂
講師　：仲山　　慶
助教　：田上　瑠美（平成31年4月着任）
特任助教　：落合　真理（平成31年1月着任）
兼任教員（農学研究科 教授）　：高橋　　真
兼任教員（農学研究科 准教授）　：石橋　弘志
兼任教員（農学研究科 准教授）　：水川　葉月（平成31年4月着任）
研究員　：Nguyen Minh Tue
研究員　：後藤　哲智
研究員　：Bak Su-Min
研究員　：Nguyen Thanh Hoa（平成31年4月着任）
日本学術振興会外国人特別研究員　：Kanerva Mirella Maria
* 研究員　：Guo Jiahua（平成30年9月退職）
研究補助員　：満汐　美穂
研究補助員　：松田　昌子
研究補助員　：倉田　智美（平成30年10月着任）
* 研究補助員　：野口　陽子（平成30年9月退職）
* 技術補佐員　：渡部はる江（平成30年12月退職）
技術補佐員　：仲山　教子
技術補佐員　：田中　順子
事務補佐員　：中村絵理日
事務補佐員　：里本　　彩

生態系解析部門

教授	：鈴木　　聡
准教授	：北村　真一
助教	：大林由美子
兼任教員（社会共創学部 教授）	：大森　浩二
兼任教員（理工学研究科 教授）	：渡辺　幸三
兼任教員（理工学研究科 准教授）	：三宅　　洋
兼任教員（農学研究科 教授）	：渡辺　誠也
研究補助員	：門屋　　綾
研究補助員	：村上　祥子（平成30年10月着任）
事務補佐員	：金谷　由美

国際・社会連携部門

客員教授	：高菅　卓三（株式会社島津テクノリサーチ 取締役）
客員教授	：Kurunthachalam Kannan（State University of New York at Albany 教授）
客員教授	：呉　　明柱（韓国国立全南大学校水産生命医学科 教授）
客員教授	：金　　恩英（韓国慶熙大学 教授）

共　通

技術専門職員	：大西秀次郎
技術専門職員	：小川　次郎

研究支援部研究支援課

研究支援部長	：長谷川和彦
* 研究支援部研究支援課長	：石田　昭夫（平成31年4月配置換）
* 研究支援部研究支援課副課長	：猪野　周宣（平成31年4月配置換）
研究支援部研究支援課研究拠点第一チーム TL	：黒石　俊輔（平成31年4月着任）
研究支援部研究支援課研究拠点第一チーム SL	：山田　道子
事務補佐員	：渡部江利子
事務補佐員	：中山　真理

* は転任または退職した職員

1．2　各部門の概要

環境動態解析部門

研究内容：沿岸海域の環境は，様々な人間活動や気候変動などの影響によって変動する。これらの変動の実態やメカニズムを解明し，将来の沿岸環境の変動を予測することが本部門の目標である。調査船や各種モニタリングシステムによる現地調査，数値シミュレーションなどの手法を用い，他部門とも連携しながらこの目標に向けた各種の課題に取り組んでいる。また，現在の様々な沿岸環境問題のメカニズムを物理学的側面から解明していくことも当部門の研究課題である。

主な研究テーマ：瀬戸内海の栄養塩環境の長期モニタリングと将来予測，高解像度数値生態系モデルによる瀬戸内海の環境変動機構の解明，豊後水道の急潮および底入り潮の発生機構とそれらの環境への影響の解明，宇和海水温情報システムの開発，瀬戸内海の物質循環と生物生産機構の解明，赤潮や貧酸素水塊の物理機構の解明，養殖漁場の物質循環と環境保全，クラゲ類の大量発生と集群メカニズム，黄海・東シナ海の海洋循環，長江河川水プリュームの挙動，海岸漂着ゴミの予報実験，黒潮による栄養塩輸送，日本海におけるスルメイカとズワイガニのふ化幼生の経年変動，大気海洋結合相互作用，宇和海の環境変遷史解明，力学現象に対する生物学的応答の非線形性，海洋堆積物変質過程の数理構造，分野横断的な数理モデリング

化学汚染・毒性解析部門

研究内容：生物蓄積性有害化学物質の汚染モニタリングとリスク評価を通して，生態系を保全する方途を提言する。具体的には，内分泌かく乱物質（環境ホルモン）やその代謝物など生物やヒトの健康に悪影響を及ぼす化学物質に注目して，環境や生態系汚染の現状と推移，分布・挙動・ゆくえ，生物蓄積の特徴を地域的・地球的視点で解明することを目的としている。また，無脊椎動物・魚類・両生類・爬虫類・鳥類・哺乳類などの野生生物や実験動物を対象に，異物代謝酵素や脂溶性リガンドレセプターの機能特性を分子レベルで解析し，毒性発現の種多様性や感受性の種差を評価する研究（敏感・鈍感のサイエンス），多次元オミクス（トランスクリプトーム・プロテオーム・リピドーム・メタボローム）解析による包括的な毒性影響・作用機序を解明する研究にも取り組んでいる。

主な研究テーマ：地球規模での大気，水質，堆積物（土壌），生態系汚染の実態解明と動態解析，途上国（とくにアジア）の陸域および沿岸海洋汚染の実態解明と動態解析，廃棄物投棄場やリサイクル施設の化学汚染と影響の解明，野生生物（プランクトン，両生類，爬虫類，魚類，鳥類・哺乳類）の汚染実態の解明と生物濃縮機構の解析およびリスク評価，ヒトの汚染実態解明と健康影響評価，海洋汚染および陸域汚染の過去復元と将来予測，化学物質汚染による野生生物個体群の異物代謝酵素への影響，脂溶性リガンドレセプターの比較機能学的研究，シトクロム P450およびメタロチオネインの比較機能学的研究，多元的オミクス解析による生物の遺伝子ネットワーク撹乱のモニタリングと新規バイオマーカーの探索，化学物質暴露による胚発生への毒性影響とその作用機序の解明，毒性影響の感受性を支配する分子機構の解明，野生生物による化学物質の代謝能を評価する研究，*in silico* ドッキングシミュレーションによる有害化学物質のハイスループットスクリーニング手法の開発

生態系解析部門

研究内容：海洋および陸水を含めた水圏における生物過程の研究を行っている。海洋での物質循環と遺伝子伝播過程における微生物機能に関する研究，海洋微生物・魚病ウイルスの分子生態学的研究，魚類感染症の発症と環境汚染の関連性の研究などに取り組んでいる。また，安定同位体解析による瀬戸内海生態系構造と化学物質の生物濃縮の研究も行なっている。

主な研究テーマ：環境微生物の抗生物質耐性に関する研究，微生物間での遺伝子伝播の研究，魚介類の日和見・再興感染症ウイルスの生態，重油汚染の魚類生体防御系への影響，瀬戸内海の生態系構造解析，海洋での生物間相互作用，微生物の新規機能の開発，河川環境の保全

2．研究者要覧

（平成31年4月現在）

環境動態解析部門

郭　　新宇　GUO　Xinyu

【職名】教授　理学部地球学科・スーパーサイエンス特別コース地球惑星科学コース・理工学研究科数理物質科学専攻及び先端科学特別コース兼担　**【電話】**089-927-9824　**【FAX】**089-927-9846　**【E-mail】**guoxinyu@sci.ehime-u.ac.jp　**【学歴】**昭和63年7月 中国天津大学海洋船舶工学科卒業，平成3年1月 中国ハルビン船舶工程学院修士課程海洋流体力学専攻修了，平成9年3月 愛媛大学理工学研究科博士後期課程生産工学専攻修了　**【学位】**平成9年3月　愛媛大学博士（工学）　**【所属学会】**1. 日本海洋学会，2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会，3. 日本地球惑星科学連合，4. American Geophysical Union，5. American Meteorological Society　**【専門分野】**1. 海洋物理学，2. 沿岸海洋学　**【主な研究テーマ】**1. 東シナ海の流動構造と栄養塩の動態，2. 瀬戸内海の流動構造と栄養塩の動態，3. 黒潮流域における栄養塩輸送，4. 瀬戸内海及び黒潮内側域における水温の経年変動，5. 日本海スルメイカ・ズワイガニ幼生の輸送生残モデリング，6. 残留性有機汚染物質の輸送循環モデリング　**【受賞歴】**2014年6月 Reviewing Excellence Award for Continental Shelf Research，2016年度 愛媛大学理学部ベストティーチャー賞

森本　昭彦　MORIMOTO　Akihiko

【職名】教授　理学部地球科学科・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理工学研究科数理物質科学専攻及び先端科学特別コース兼担　**【電話】**089-927-9674　**【FAX】**089-927-9846　**【E-mail】**morimoto.akihiko.cl@ehime-u.ac.jp　**【学歴】**平成6年愛媛大学工学部海洋工学科卒業，平成8年愛媛大学大学院工学研究科博士前期課程土木海洋工学専攻修了　**【学位】**平成12年9月 九州大学博士（理学）　**【所属学会】**日本海洋学会，日本海洋学会沿岸海洋研究会　**【専門分野】**1. 沿岸海洋学，2. 海洋物理学　**【主な研究テーマ】**1. 対馬暖流流路の変動に関する研究，2. 東シナ海から日本海への栄養塩供給が低次生態系に与える影響，3. 北部タイランド湾の貧酸素の挙動，4. 分散型海洋レーダの開発

加　三千宣　KUWAE　Michinobu

【職名】准教授　理学部地球科学科・スーパーサイエ ンス特別コース環境科学コース・理工学研究科数理物質科学専攻及び先端科学特別コース兼担　**【電話】**089-927-9654　**【FAX】**089-927-9654　**【E-mail】**mkuwae@sci.ehime-u.ac.jp　**【学歴】**平成14年3月 大阪市立大学大学院理学研究科後期博士課程（生物地球系専攻）修了　**【学位】**平成14年3月 大阪市立大学大学博士（理学）　**【所属学会】**1. 日本第四紀学会，2. 日本海洋学会，3. 日本地球化学会，4. 日本珪藻学会，5. 日本水産海洋学会，6. 日本海洋学会沿岸海洋研究会，7. 地球環境史学会，8. 日本地球惑星科学連合，9. American Geophysical Union　**【専門分野】**1. 第四紀学，2. 古陸水学，3. 古海洋学　**【主な研究テーマ】**1. 琵琶湖湖底堆積物の珪藻化石を用いた過去40万年間の環境変遷史，特に古気候変動記録の復元に関する研究，2. 珪藻及び安定同位体比を用いた西南日本沿岸浅海域における基礎生産の気候変動に対する応答，3. 魚鱗を用いた多獲性小型浮魚類のバイオマスの長期変動に関する研究，4. 浮遊性有孔虫及び底生有孔虫殻の Mg/Ca 比を用いた西南日本沿岸浅海域の海洋温暖化に関する研究，5. 日本沿岸域における高解像度古海洋変動の解明　**【受賞歴】**2008年日本海洋学会日高論文賞受賞，2004年日本第四紀学会日本第四紀学会論文賞

吉江　直樹　YOSHIE　Naoki
【職名】講師　理学部地球科学科・工学部環境建設工学科兼担　**【電話】**089-927-9839 **【FAX】**089-927-9846　**【E-mail】**yoshie.naoki.mm@ehime-u.ac.jp **【学歴】**平成9年3月 北海道大学水産学部水産化学科卒業，平成14年9月 北海道大学大学院地球環境科学研究科博士課程大気海洋圏環境科学専攻修了　**【学位】**平成14年9月 北海道大学博士（地球環境科学）**【所属学会】**1. 日本海洋学会，2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会，3. 日本地球惑星科学連合，4. 水産海洋学会，5. Association for the Sciences of Limnology and Oceanography　**【専門分野】**1. 生物地球化学，2. 海洋生態系モデリング，3. 海洋学，4. 海洋生物学　**【主な研究テーマ】**1. 瀬戸内海における低次生態系・物質循環の現場モニタリングおよび数値モデリング，2. 沿岸域への外洋水進入現象に伴う生態系応答の現場モニタリングおよび数値モデリング，3. 超高解像度観測と数値モデルを組み合わせた沿岸域における栄養塩動態に関する研究，4. 瀬戸内海における藻場の時空間分布に関する研究，5. 瀬戸内海における有害赤潮の時空間分布に関する研究，6. 東シナ海におけるサブメソスケール渦が海洋生態系に及ぼす影響に関する研究，7. トカラ周辺海域における栄養塩・低次生態系動態に関する研究，8. 栄養塩等の水質環境が小型浮魚生産量に及ぼす影響に関する研究　**【受賞歴】**2010年　日本海洋学会岡田賞，2011年　北太平洋海洋科学機構（PICES）Best Presentation Award

武岡　英隆　TAKEOKA　Hidetaka
【職名】兼任教員（社会連携推進機構南予水産研究センター　教授・センター長）**【電話】**089-927-8513 0895-82-1025　**【FAX】**089-927-8820 0895-82-1026　**【E-mail】**takeoka.hidetaka.mx@ehime-u.ac.jp **【学歴】**昭和49年3月 京都大学理学部卒業，昭和51年3月 京都大学大学院理学部研究科修士課程地球物理学専攻修了　**【学位】**昭和59年3月京都大学理学博士　**【所属学会】**1. 日本海洋学会，2. 日本海洋学会沿岸海洋研究会，3. 水産海洋学会　**【専門分野】**1. 沿岸海洋学，2. 海洋物理学　**【主な研究テーマ】**1. 沿岸海域の流動と物質輸送，2. 豊後水道の急潮と底入り潮，3. 瀬戸内海の物質循環と生物生産機構，4. 養殖場の物質循環と環境保全，5. 地球環境変動の沿岸域への影響，6. クラゲ類の大量発生機構と移動集積機構　**【受賞歴】**1999年　日本海洋学会日高論文賞，2003年　愛媛県政発足記念日知事表彰，2003年瀬戸内法30周年記念環境大臣表彰，2009年原子力安全功労者表彰（経済産業大臣），2016年　日本海洋学会宇田賞

日向　博文　HINATA　Hirofumi
【職名】兼任教員（大学院理工学研究科生産環境工学専攻 教授）**【電話】**089-927-9835 **【FAX】**089-927-9851　**【E-mail】**hinata.hirofumi.dv@ehime-u.ac.jp / hinata@cee.ehime-u.ac.jp **【学歴】**東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻修了（1991）**【学位】**平成12年1月　東京工業大学博士（工学）**【所属学会】**土木学会，日本海洋学会，水産海洋学会　**【専門分野】**沿岸海洋学，海岸工学　**【主な研究テーマ】**海洋プラスチックの海岸—沿岸域における挙動の解明，海洋レーダを用いた津波計測に関する研究，黒潮変動が沿岸域の物質輸送に与える影響に関する研究　**【受賞歴】**土木学会論文奨励賞（2001），日本港湾協会論文賞（2013），土木学会四国支部研究・論文賞（2018）

化学汚染・毒性解析部門

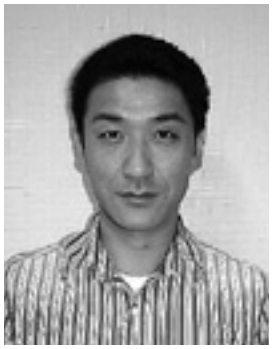
田辺　信介　TANABE　Shinsuke
【職名】教授（特別栄誉教授）・センター長 **【電話】**089-927-8171 **【FAX】**089-927-8171 **【E-mail】**shinsuke@agr.ehime-u.ac.jp **【学歴】**昭和50年3月 愛媛大学大学院農学研究科農芸化学専攻修士課程修了 **【学位】**昭和60年2月 名古屋大学農学博士 **【所属学会】**1. 日本海洋学会，2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会，3. 日本極地研究振興会，4. 日本環境科学会，5. 日本環境化学会，6. 日本環境毒性学会，7. 日本内分泌撹乱化学物質学会，8. 日本化学会，9. 日本微量元素学会，10. 日本セトロジー研究会，11. ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議，12. 環境放射能除染学会，13. Society of Environmental Toxicology and Chemistry（SETAC），14. American Chemical Society（ACS） **【専門分野】**環境化学 **【主な研究テーマ】**1. 生物蓄積性有害物質（PTS）による地球規模の海洋汚染とその動態，ゆくえおよび歴史トレンドに関する環境化学的研究，2. PTS による海棲哺乳動物の汚染と毒性影響に関する研究，3. PTS による北海の汚染とアザラシへの蓄積および毒性影響に関する研究，4. PTS による鳥類の汚染と毒性影響に関する研究，5. PTS による深海生物の汚染と毒性影響に関する研究，6. マッセルウオッチ：二枚貝を生物指標としたアジアの海洋汚染モニタリング，7. 魚介類を指標にした有害物質の蓄積および毒性影響に関するモニタリング手法の開発，8. 海棲哺乳動物における重金属の蓄積特性に関する研究，9. 鳥類における重金属の蓄積特性に関する研究，10. 野生高等動物におけるヒ素の蓄積特性に関する研究，11. 環境保全型漁業をめざした有害物質のリスク評価と管理に関する研究，12. 途上国の廃棄物投棄場におけるダイオキシン類，農薬，重金属類等有害物質の汚染と毒性影響に関する研究，13. 途上国におけるヒ素の地下水汚染とヒトへの影響に関する研究，14. 有機臭素化合物等難燃剤による環境汚染，生物蓄積，経年変化，生態影響に関する研究，15. 水酸化代謝物の生物蓄積特性と影響評価に関する研究，16. 生活関連物質（PPCP）による環境と生物の汚染，17. 生物環境試料バンクを基盤とした国際的・学際的研究 **【受賞歴】**1985年4月 日本海洋学会岡田賞，1999年3月 日産科学賞，2000年10月 ISI 引用最高栄誉賞，2003年12月 ベトナム政府フレンドシップメダル，2004年7月 日本環境化学会学術賞，2004年10月 日本環境科学会学術賞，2005年11月 The 2005 SETAC（Society of Environmental Toxicology and Chemistry）Founders Award 国際賞，2006年6月 日本環境化学会環境化学論文賞，2007年11月 Excellence in Review Award for Environmental Science & Technology 国際賞，2007年11月 SETAC/Menzie-Cura Environmental Educational Award 国際賞，2009年11月 日本学術振興会科学研究費補助金第一段審査貢献表彰，2010年6月 Marine Pollution Bulletin Highly Cited Author Award 2005-2009，2010年11月 Environmental Pollution Highly Cited Author Award 2007-2010（2編），2011年4月 紫綬褒章，2012年1月 愛媛大学特別栄誉教授称号，2015年2月 Fellow of the Society of Environmental Toxicology and Chemistry Award, 2015年4月 愛媛大学理学部ベストレクチャー賞，2015年5月 廃棄物資源循環学会 Best Paper Award，2015年6月 日本環境化学会第24回環境化学功績賞，2016年3月 愛媛大学永年勤続者表彰，2016年4月 愛媛大学名誉教授称号，2017年1月 愛媛新聞賞

岩田　久人　IWATA　Hisato
【職名】教授　スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理学部生物学科・理工学研究科環境機能科学専攻生物環境科学コース及び先端科学特別コース・大学院医学系研究科兼担 **【電話】**089-927-8172 **【FAX】**089-927-8172 **【E-mail】**iwata.hisato.mz@ehime-u.ac.jp **【学歴】**平成6年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 **【学位】**平成6年3月　愛媛大学博士（学術） **【所属学会】**1. 日本環境科学会，2. 日本環境会議，3. 日本環境化学会，4. 日本 BICER 協議会，5. 日本環境毒性学会，6. 日本獣医学会，7. 日本内分泌撹乱化学物質学会，8. 日本生化学会，9. 日本分子生物学会，10. Society of Environmental Toxicology and Chemistry（SETAC），11. Society of Toxicology **【専門分野】**環境毒性学 **【主な研究テーマ】**1. 環境汚染物質による生態系の汚染とその毒性影響の解明，2. 多次元オミクス（トランスクリプトーム・プロテオーム・リピドーム・メタボローム）解析による包括的な毒性影響・作用機序の解明，3. 異物代謝酵素や脂溶性リガンドレセプターの機能特性を分子レベルで解析し，毒性発現の種多様性や感受性の種差を評価する研究（敏感・鈍感のサイエンス），4. 異物代謝酵素シトクロム P450を指標とした化学物質暴露および毒性影響の評価，5. 野生生物のリスク評価を目指した脂溶性リガンドレセプターの網羅的解析法の開発 **【受賞歴】**1994年9月 QUINTESSENCE Excellence in Environmental Contamination and Toxicology，2011年7月 第16回生態学琵琶湖賞

国末　達也　KUNISUE　Tatsuya
【職名】教授　スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理学部化学科・理工学研究科環境機能科学専攻分子科学コース及び先端科学特別コース兼担 **【電話】**089-927-8162 **【FAX】**089-927-8171 **【E-mail】**kunisue.tatsuya.ew@ehime-u.ac.jp **【学歴】**平成16年3月　愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 **【学位】**平成16年3月　愛媛大学博士（農学） **【所属学会】**1. 日本内分泌撹乱化学物質学会，2. 日本環境化学会，3. 日本廃棄物資源循環学会，4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry（SETAC），5. American Chemical Society（ACS） **【専門分野】**環境化学，機器分析化学 **【主な研究テーマ】**1. 多様な動物種に対する化学物質の曝露とリスクの評価，2. 新規環境汚染物質の探索とアジア地域の汚染，3. ホルモン様物質の分析法開発と環境毒性学への応用 **【受賞歴】**2018年5月日本環境化学会学術賞

野見山　桂　NOMIYAMA　Kei
【職名】准教授　理学部化学科・理工学研究科環境機能科学専攻分子科学コース兼担 **【電話】**089-927-8196 **【FAX】**089-927-8196 **【E-mail】**keinomi@agr.ehime-u.ac.jp **【学歴】**平成19年3月 熊本県立大学大学院環境共生学研究科環境共生学専攻博士課程修了 **【学位】**平成19年3月 熊本県立大学博士（環境共生学） **【所属学会】**1. Society of Environmental Toxicology and Chemistry（SETAC），2. 日本環境化学会，3. 日本水環境学会，4. 日本セトロジー研究会，5. American Chemical Society（ACS），6. 日本内分泌撹乱化学物質学会 **【専門分野】**1. 水環境化学，2. 環境分析化学，3. 異物代謝学 **【主な研究テーマ】**1. 有機ハロゲン化代謝物の分析法開発と代謝物をマーカーとした比較生物学的研究，2. 野生高等生物の肝ミクロゾームを用いた有機ハロゲン化合物の / *in vitro* / 代謝系の確立，3. 哺乳類に残留する有機ハロゲン代謝物の脳移行と甲状腺ホルモンへの影響評価，4. 野生生物に残留する医薬品類および生活関連化学物質（PPCPs）の蓄積特性に関する研究，5. 極性環境汚染物質の新規分析法開発 6. メタボロミクス，プロテオミクスによる有機ハロゲン代謝物の生体影響評価，7. ペット動物の汚染実態解明とリスク評

価，8. 神経伝達物質の高感度分析法の開発，9. 臓器・組織中内因性ホルモンの高感度分析法の開発 **【受賞歴】**2007年11月日本水環境学会博士研究奨励賞（オルガノ賞），2009年10月 第15回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会奨励賞，2016年4月 ソニー・ワールドフォトグラフィーアワード2016，2018年2月第14回三浦保環境賞奨励賞，2018年3月 愛媛大学理学部ベストレクチャー賞



仲山　　慶　NAKAYAMA　Kei
【職名】講師　理学部生物学科・理工学研究科環境機能科学専攻兼担 **【電話】**089-927-8132 **【FAX】**089-927-8133 **【E-mail】**kei_n@ehime-u.ac.jp **【学歴】**平成15年9月 九州大学大学院生物資源環境科学府生物機能科学専攻博士（後期）課程修了 **【学位】**平成15年9月　九州大学博士（農学） **【所属学会】**1. 日本環境毒性学会，2. 日本水産学会，3. 日本環境化学会，4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry（SETAC） **【専門分野】**1. 環境毒性学，2. 水産化学 **【主な研究テーマ】**1. トキシコゲノミクスおよびメタボロミクスによる化学物質の毒性影響の評価およびメカニズムの解明，2. 化学物質の複合暴露による毒性影響の評価手法の開発，3. 複合的な環境要因の変化に対する生体応答の詳細解析，4. 有機汚染物質が魚類の発生や脳神経系および行動に及ぼす影響の **【受賞歴】**2006年9月第12回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会奨励賞，2015年9月平成27年度日本環境毒性学会 CERI 学会賞.

田上　瑠美　TANOUE　Rumi
【職名】助教（特定教員） **【電話】**089-927-8174 **【FAX】**089-927-8174 **【E-mail】**tanoue.rumi.lw@ehime-u.ac.jp **【学歴】**平成27年3月 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程修了 **【学位】**平成27年3月 愛媛大学博士（理学） **【所属学会】**日本環境化学会，日本水環境学会 **【専門分野】**1. 環境分析化学，2. 環境科学，3. 水環境科学，4. 薬物動態学 **【主な研究テーマ】**1. 微量環境汚染化学物質の分析法開発，2. 生活雑排水・し尿排水由来の生理活性化学物質による野生生物汚染の実態調査，3. 生活雑排水・し尿排水由来の生理活性化学物質の魚類への移行・残留性とその影響評価に関する研究，4. アジア途上国の水圏環境における化学物質汚染の実態解明と影響評価，5. 内分泌かく乱化学物質のヒト尿中レベルと曝露量の推定 **【受賞歴】**2010年3月 熊本県立大学「学長賞」，2011年7月 第20回環境化学討論会「優秀学生賞」（博士前期課程の部），2012年7月 第21回環境化学討論会「優秀学生賞」（博士後期課程の部），2013年8月 第22回環境化学討論会「最優秀学生賞」（博士後期課程の部），2014年11月 SETAC North America 35th Annual Meeting Student Travel Award（USA），2016年9月 第22回日本環境毒性学会研究発表会若手研究奨励賞，2016年9月 平成28年度日本水環境学会博士研究奨励賞（オルガノ賞）優秀賞，2017年6月 第26回環境化学討論会「優秀発表賞」（35 歳以下の社会人，若手研究者，および博士後期課程学生の部） **【資格】**公害防止管理者（水質関係），環境計量士（濃度関係）

落合　真理　OCHIAI　Mari
【職名】特任助教　**【電話】**089-927-8194　**【FAX】**089-927-8187　**【E-mail】**ochiai@agr.ehime-u.ac.jp　**【学歴】**平成26年3月 愛媛大学大学院理工学研究科環境機能科学専攻博士後期課程修了　**【学位】**平成26年3月　愛媛大学博士（理学）**【所属学会】**1. 日本環境化学会，2. 日本セトロジー研究会，3. Society of Environmental Toxicology and Chemistry（SETAC），4. The Endocrine Society，5. The Society for Marine Mammalogy，6. 日本組織培養学会　**【専門分野】**1. 環境化学，2. 環境毒性学　**【主な研究テーマ】**鯨類由来細胞を用いた環境汚染物質の毒性影響評価　**【受賞歴】**2015年6-7月　第65回リンダウ・ノーベル賞受賞者会議　選抜派遣（文部科学省），2013年8月　第22回環境化学討論会　優秀学生賞，2013年12月　20th Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals, Student Travel Grant（US$400），2013年2月　SETAC 3rd Young Environmental Scientists（YES）Meeting, Travel Grant（€1100），2017年10月　The Best Oral Presenter Award, 10th International Meeting of Asian Society of Conservation Medicine, 2015年7月　第26回日本セトロジー研究会，最優秀発表賞

高橋　　真　TAKAHASHI　Shin
【職名】兼任教員　（大学院農学研究科生物環境学専攻　教授）**【電話】**089-946-9907　**【E-mail】**takahashi.shin.mu@ehime-u.ac.jp　**【学歴】**平成12年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了　**【学位】**平成12年3月　愛媛大学博士（農学）**【所属学会】**1. 日本環境科学会会員，2. 日本環境毒性学，3. 日本内分泌撹乱化学物質学会，4. 日本環境化学会，5. 廃棄物資源循環学会，6. American Chemical Society（ACS），7. Society of Environmental Toxicology and Chemistry（SETAC）　**【専門分野】**1. 環境化学，2. 環境計測学，3. 資源循環工学　**【主な研究テーマ】**1. POPs およびその関連物質による地球環境汚染の実態と時空間分布の解明，2. アジア途上国等における非制御的廃棄物処理に伴う環境負荷および生体影響の評価，3. 先端機器分析と生物学的検定法を統合した影響指向の環境評価法の確立と応用　**【受賞歴】**2014年7月京都大学環境衛生工学研究会最優秀プロジェクト賞，2015年5月 廃棄物資源循環学会 Best Paper Award

石橋　弘志　ISHIBASHI　Hiroshi
【職名】兼任教員（大学院農学研究科生物環境学専攻　准教授）**【電話】**089-946-9583　**【FAX】**089-946-9583　**【E-mail】**hiroishi@agr.ehime-u.ac.jp　**【学歴】**平成15年3月　長崎大学大学院生産科学研究科海洋資源学専攻博士課程修了　**【学位】**平成15年3月　長崎大学博士（学術）**【所属学会】**1. 日本内分泌撹乱化学物質学会，2. 日本環境毒性学会，3. 日本水環境学会　**【専門分野】**生態毒性学　**【主な研究テーマ】**1. 環境汚染物質による生態毒性影響とその発現機序の解明，2. 核内受容体―リガンド相互作用の統合ケミカルスクリーニング評価系の開発，3. 医薬品・生活関連物質による環境汚染と水生生物に対する毒性影響およびリスク評価に関する研究，4. 造礁サンゴの白化メカニズム解明と生態系保全に関する研究　**【受賞歴】**2001年1月 日本水環境学会九州支部学術奨励賞，2008年3月 International Symposium on Biological Response to Chemical Pollutants Best Poster Award，2011年7月 日本環境化学会第18回環境化学論文賞，2012年7月 日本毒性学会第2回ファイザー賞

水川　葉月　MIZUKAWA　Hazuki
【職名】兼任教員　（大学院農学研究科生物環境学専攻　准教授）**【電話】**089-946-9908 **【E-mail】**mizukawa.hazuki.jg@ehime-u.ac.jp **【学歴】**平成25年3月愛媛大学大学院理工学研究環境機能科学専攻博士後期課程修了 **【学位】**平成25年3月　愛媛大学博士（理学）**【所属学会】**1. 日本環境化学会，2. 日本毒性学会，3. 日本内分泌撹乱化学物質学会，4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry（SETAC） **【専門分野】**1. 環境化学，2. 環境計測学，3. 環境毒性学 **【主な研究テーマ】**1. 有害化学物質の汚染の実態と毒性影響評価，2. ペット動物や野生動物に蓄積した有害化学物質の汚染実態と代謝機構の解明およびリスク評価，3. 野生高等生物の肝ミクロゾームを用いた有機ハロゲン化合物の / *in vitro* / 代謝系の確立 **【受賞歴】**2011年7月第20回環境化学討論会最優秀学生賞，2012年7月第21回環境化学討論会最優秀学生賞，2012年8月32nd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants（DIOXIN 2012）OTTO HUTZINGER Student Presentation Award

グエン・ミン・トゥエ　Nguyen Minh Tue
【職名】研究員 **【電話】**089-927-8196 **【FAX】**089-927-8196 **【E-mail】**nguyen.minh_tue.vp@ehime-u.ac.jp **【学歴】**平成17年3月 スイス連邦工科大学大学院環境科学修士課程修了 **【学位】**平成22年9月 愛媛大学博士（理学）**【専門分野】**1. 環境化学，毒性学 **【主な研究テーマ】**1. アジア地域の廃棄物処理活動に由来する内分泌撹乱化学物質の曝露影響評価，2. バイオアッセイおよび GC（LC）–TOFMS を用いた内分泌撹乱化学物質の毒性同定・評価手法の確立

後藤　哲智　GOTO Akitoshi
【職名】研究員 **【電話】**089-927-8174 **【FAX】**089-927-8174 **【E-mail】**goto.akitoshi.xn@ehime-u.ac.jp **【学歴】**平成30年3月 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程修了 **【学位】**平成30年3月 愛媛大学博士（理学）**【所属学会】**日本環境化学会，日本質量分析学会 **【専門分野】**1. 環境化学，2. 質量分析学 **【主な研究テーマ】**1. 日本沿岸におけるハロゲン化ダイオキシン類の時空間分布と発生起源の解明 **【受賞歴】**2014年5月 第23回環境化学討論会「最優秀学生賞」（博士後期課程の部），2015年6月 第24回環境化学討論会「最優秀学生賞」（博士後期課程の部），2017年5月 第65回質量分析総合討論会「ベストプレゼンテーション賞・優秀賞」（口頭発表部門）

パク・スミン　Bak Su-Min
【職名】研究員 **【電話】**089-927-8194 **【FAX】**089-927-8187 **【E-mail】**bak.sumin.vk@ehime-u.ac.jp **【学歴】**平成29年2月 University of Kyung Hee（Korea），Department of Life and Nanopharmaceutical Sciences 博士課程修了 **【学位】**平成29年2月 Ph.D University of Kyung Hee, Doctor of Philosophy in Nanopharmaceutical Science **【専門分野】**1.Ecotoxicology 2. molecular toxicology 3.environment risk assessment **【受賞歴】**2017年 Outstanding Graduate Student Award 2016; BK21 PLUS Integrated Education and Research Center for Nature-Inspired Drug Development Targeting Healthy Aging, 2017, 2012 年 Best Presentation Award; Evaluation of dioxin susceptibility by using isoform specific-TCDD equivalency features and *in silico* analysis of aryl hydrocarbon receptor from red sea bream, The Korean Society of Environmental Health and Toxicology, 2012

グエン・タン・ホア　Nguyen Thanh Hoa
【職名】研究員　**【電話】**089-927-8194　**【FAX】**089-927-8187　**【E-mail】**nguyen.thanh_hoa.ft@ehime-u.ac.jp　**【学歴】**平成30年3月 Ehime University, Graduate School of Science and Engineering, Special Graduate course on Advance Sciences 博士課程修了　**【学位】**平成30年3月 PhD Ehime University　**【専門分野】**1. Environmental Toxicology; 2. Omics; 3. Molecular Toxicology;　**【受賞歴】**平成29年9月 Student Poster Award in the 14th International Symposium on Persistent Toxic Substances（ISPTS2017）；平成29年7月 Best Student Presentation Award in the 19th International Symposium on Pollutant Response in Marine Organisms（PRIMO19）

カネルバ・ミレラ・マリア　Kanerva Mirella Maria
【職名】日本学術振興会外国人特別研究員　**【電話】**089-927-8194　**【FAX】**089-927-8187　**【E-mail】**kane-207@dpc.ehime-u.ac.jp　**【学歴】**平成28年8月 University of Turku（Finland）, Department of Biology, Division of Physiology and Genetics, Laboratory of Animal Physiology　**【学位】**平成26年12月 PhD University of Turku（Finland）　**【専門分野】**1.Ecophysiology 2. Ecotoxicology 3.Oxidative stress 4. Omics 5.non-model organisms　**【受賞歴】**travel grants from: 2012 University of Turku, travel grant, 2011 Society for experimental Biology, travel grant, 2011 Biological interactions graduate school, grant for course, 2010 University of Turku foundation, travel grant, 2010 Finnish Concordia Fund, travel grant

生態系解析部門

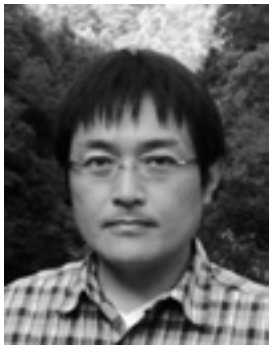
鈴木　　聡　SUZUKI　Satoru
【職名】教授　農学部生物環境学科・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・農学研究科生物環境学専攻・連合農学研究科生物環境保全学専攻兼担　**【電話】**089-927-8552　**【FAX】**089-927-8552　**【E-mail】**ssuzuki@ehime-u.ac.jp　**【学歴】**昭和60年9月 北海道大学大学院薬学研究科博士課程製薬化学専攻修了　**【学位】**昭和60年9月 北海道大学薬学博士　**【所属学会】**1. 日本微生物生態学会，2. 国際微生物生態学会，3. 日本海洋学会，4. 日本細菌学会　**【専門分野】**1. 環境微生物学，2. 環境分子生物学，　3. 環境衛生学　**【主な研究テーマ】**1. 薬剤耐性遺伝子の環境での伝播と変異の研究，2. 海洋中溶存態タンパク質の形成と分解過程に関する研究，3. 貧栄養環境での微生物生態　**【受賞歴】**1999年 日本魚病学会研究奨励賞，2001年 日本微生物生態学会論文賞，2017年度 愛媛大学農学部ベストティーチャー賞，2018年度遠山椿吉記念第6回食と環境の科学賞

北村　真一　KITAMURA　Shin-Ichi
【職名】准教授　理学部生物学科・理工学研究科環境機能科学専攻兼担　**【電話】**089-927-8998　**【FAX】**089-927-8998　**【E-mail】**kitamura@ehime-u.ac.jp　**【学歴】**平成11年 高知大学大学院農学研究科栽培漁業学専攻修士課程修了　**【学位】**平成15年3月　北海道大学博士（水産科学）　**【所属学会】**1. 日本魚病学会，2. 韓国魚病学会，3. 日本水産学会　**【専門分野】**魚病学　**【主な研究テーマ】**1. スクーチカ症に関する研究，2. マボヤの被嚢軟化症に関する研究，3. リンホシスチス病に関する研究　**【受賞歴】**2012, 2013, 2017年度 愛媛大学理学部ベストティーチャー賞

大林由美子　OBAYASHI　Yumiko
【職名】助教　農学部生物環境学科・農学研究科生物環境学専攻兼担　**【電話】**089-927-8551　**【FAX】**089-927-8551　**【E-mail】**obayashi.yumiko.nn@ehime-u.ac.jp　**【学歴】**平成14年 名古屋大学大学院理学研究科博士課程後期課程地球惑星理学専攻修了　**【学位】**平成14年12月　名古屋大学博士（理学）**【所属学会】**1. 日本海洋学会，2. Association for the Sciences of Limnology and Oceanography，3. 日本微生物生態学会，4. 日本地球惑星科学連合，5. 日本分析化学会　**【専門分野】**1. 生物地球化学，2. 微生物生態学　**【主な研究テーマ】**1. 海洋での有機物の微生物分解に関する研究，2. 水圏生態系における微生物間相互作用に関する研究　**【受賞歴】**2016年度 愛媛大学農学部ベストティーチャー賞

大森　浩二　OMORI　Koji
【職名】兼任教員（社会共創学部環境デザイン学科　教授）**【電話】**089-927-9643　**【FAX】**089-927-9630　**【E-mail】**omori.koji.mj@ehime-u.ac.jp　**【学歴】**昭和58年3月 九州大学理学研究科修士課程修了　**【学位】**昭和60年1月 九州大学理学博士　**【所属学会】**1. 日本生態学会，2. 日本ベントス学会，3. 日本海洋学会沿岸海洋部会，4. 個体群生態学会　**【専門分野】**1. 水域生態学，2. 生態系生態学　**【主な研究テーマ】**1. 基礎生態学解析，2. 河川・流域生態系の解析，3. 沿岸海洋生態系の解析

渡辺　幸三　WATANABE　Kozo
【職名】兼任教員（大学院理工学研究科生産環境工学専攻　教授）**【電話】**089-927-9847　**【FAX】**089-927-9847　**【E-mail】**watanabe_kozo@cee.ehime-u.ac.jp　**【学歴】**平成17年東北大学大学院工学研究科博士課程後期修了　**【学位】**平成17年3月　東北大学博士（工学）**【所属学会】**1. 土木学会，2. 応用生態工学会，3. 日本熱帯医学学会，4. 日本水環境学会　**【専門分野】**1. 応用生態工学，2. 分子進化生物学，3. 生態疫学　**【主な研究テーマ】**1. DNA 情報を活用した正確・迅速・安価な河川生態系の種多様性評価技術の開発，2. 適応進化の観点から流域環境変化が遺伝子・種レベルの生物多様性に及ぼす影響評価，3. 熱帯ベクター感染症制御を目的とした分子生物学的調査（例，フィリピンとインドネシアのデング熱媒介蚊調査）**【受賞歴】**平成26年度地球環境優秀講演賞，日本水環境学会平成21年年間優秀論文賞（メタウォーター賞），平成16年度東北大学総長賞，平成15年度土木学会論文奨励賞



三宅　　洋　MIYAKE　Yo
【職名】兼任教員（大学院理工学研究科生産環境工学専攻　准教授）**【電話】**089-927-9836　**【FAX】**089-927-9836　**【E-mail】**miyake@cee.ehime-u.ac.jp　**【学歴】**平成14年3月 京都大学大学院理学研究科博士後期課程生物科学専攻修了　**【学位】**平成14年3月　京都大学博士（理学）**【所属学会】**1.　日本生態学会，2.　Society for Freshwater Science，3. 応用生態工学会，4. Ecological Society of America，5. 日本陸水学会，6. 土木学会　**【専門分野】**1.　応用生態工学，2.　河川生態学　**【主な研究テーマ】**1.　流況が河川生物の広域分布に及ぼす影響の解明，2.　干上がりが河川生物分布・動態に及ぼす影響の解明，3. 河川性底生動物を指標とした河川環境の評価．4. 集水域特性が河川性底生動物群集に及ぼす影響の解明．**【受賞歴】**2002年3月生態学会日本生態学会ポスター発表優秀賞

渡辺　誠也　WATANABE　Seiya
【職名】兼任教員（大学院農学研究科生命機能学専攻　教授）【電話】089-946-9848 【FAX】089-946-9848 【E-mail】irab@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年3月北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻修了 【学位】平成15年3月 北海道大学博士（理学）【所属学会】1. 日本生化学，2. 日本農芸化学会，3. 日本生物工学会 【専門分野】1. 生化学，2. 分子生物学，3. タンパク質工学 【主な研究テーマ】1. 微生物の新規代謝経路の解明，2. 微生物酵素の産業応用 【受賞歴】日本農芸化学会2018年度中四国支部奨励賞

国際・社会連携部門

高菅　卓三　TAKASUGA　Takumi
【職名】客員教授（株式会社島津テクノリサーチ　執行役員　環境事業部事業部長）【電話】075-811-3183 【FAX】075-821-7837 【E-mail】t_takasuga00@shimadzu-techno.co.jp 【学歴】昭和60年3月 愛媛大学大学院農学研究科環境化学専攻修士課程修了 【学位】平成13年5月 東京大学博士（農学），平成15年2月 スウェーデン Örebro 大学名誉博士 【所属学会】1. 日本環境化学会，2. 日本分析化学会，3. 日本内分泌撹乱化学物質学会，4. 廃棄物資源循環学会 【専門分野】1. 環境化学，2. 分析化学，3. 環境分析化学，4. 廃棄物処理 【主な研究テーマ】1. 廃棄物関連試料及び環境試料中の微量有機ハロゲン化合物の分析化学的研究，2. POPs モニタリングにおける大気・生物試料の超高感度分析方法の最適化に関する研究，3. 臭素化ダイオキシン類及び臭素系難燃剤の超微量測定方法の開発，4. GC/MS（EI 及び NCI）法を用いた生物試料中有機臭素化合物の調査研究，5. GC-HR-TOFMS を用いた環境試料の微量有機ハロゲン化合物の検索と同定および高感度・高精度スクリーニング分析，6. 新規 POPs を含む各種有機ハロゲン化合物等の測定分析法開発 【受賞歴】1994年6月 日本環境化学会技術賞，1997年6月 日本環境化学会学術賞，1999年11月 環境測定分析功労者賞（社団法人日本環境測定分析協会），2003年2月 スウェーデン Örebro 大学名誉博士，2009年5月 協会功労者賞（社団法人日本環境測定分析協会）

クルンタチャラム・カンナン　KANNAN　Kurunthachalam
【職名】客員教授（State University of New York at Albany 教授）【学歴】平成6年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程修了 【学位】平成6年3月　愛媛大学博士（学術）【所属学会】1. Society of Environmental Toxicology and Chemistry（SETAC），2. American Chemical Society（ACS），USA，3. Society of Toxicology（SOT），USA，4. American Society for the Advancement of Science, USA 【専門分野】環境化学 【主な研究テーマ】有機フッ素化合物による環境汚染の実態解明 【受賞歴】Thomson ISI, Highly Cited Researcher in Environment/Ecology in 2005, ranked #8 in 2005, #7 in 2007，Thomson ISI, Highly Cited Researcher- Special Topics- PCBs, ranked #17 in 2003，United States Society of Environmental Toxicology and Chemistry（SETAC）/Weston F. Roy Award in Environmental Chemistry in 1999，Excellence in Review Award by American Chemical Society Journal – Environmental Science and Technology in 2004, ISI Highly Top 10 Highly Cited Researcher in Environment/Ecology in 2012, ES&T Super Reviewer Award in 2013

呉　　明柱　OH　Myung-Joo
【職名】客員教授（韓国国立全南大学校水産生命医学科教授）**【電話】**+82-61-659-3173 **【FAX】**+82-61-659-3173 **【E-mail】**ohmj@chonnam.ac.kr **【学歴】**北海道大学大学院水産科学研究科博士課程修了 **【学位】**平成7年3月 北海道大学水産学博士 **【所属学会】**1. ヨーロッパ魚病学会，2. 韓国魚病学会，3. 日本魚病学会，4. 韓国水産学会，5. 世界水産学会，6. アジア水産学会，7. 日本水産学会，8. 韓国マリンバイオテクノロジー学会，9. 韓国生物科学会，10. 韓国微生物学会 **【専門分野】**1. 魚病学，2. 病原微生物学 **【主な研究テーマ】**1. 魚類ウイルス病に関する研究，2. 食中毒原因病原体の分子疫学 **【受賞歴】**1. 2004年 Best Researcher prize, The Korean Ministry of Marine and Fisheries，2. 2001年 Best poster presentation prize at the European Association of Fish Pathologists（EAFP）10th International Conference on Diseases of Fish and Shellfish，3. 2001年 Best Researcher prize, The Korean Ministry of Marine and Fisheries

金　　恩英　KIM　Eun-Young
【職名】客員教授（韓国慶熙大学教授）**【電話】**+82-2-961-2310 **【E-mail】**eykim08@khu.ac.kr **【学歴】**平成9年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程生物環境保全学専攻修了 **【学位】**平成9年3月　愛媛大学博士（学術）**【所属学会】**1. 日本環境化学会，2. 日本環境毒性学会，3. 日本内分泌撹乱化学物質学会，4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry，5. Society of Toxicology **【専門分野】**環境毒性学 **【主な研究テーマ】**1. 野生生物における毒性影響の感受性を考慮した環境影響評価システムの開発，2. 内分泌撹乱化学物質に対する種特異的反応・感受性のバイオマーカーの探索，3. 細胞内受容体の *in silico* ドッキングシミュレーションによる有害化学物質のハイスループットスクリーニング手法の開発

3．研究プロジェクト

（平成30年度）

3．1　科学研究費等

No.	部門	研究担当者	区分	新規/継続	研究種目	研究課題	金額（円）	概要
1	環境動態解析部門	郭　新宇	代表	継続	新学術領域研究（研究領域提案型）	黒潮とその源流域における混合過程・栄養塩輸送と生態系の基礎構造の解明	17,810,000	船舶観測と数値モデルより，黒潮の代表的な海域（トカラ海峡，ルソン海峡）における鉛直混合および栄養塩輸送過程を調べる。
2	環境動態解析部門	郭　新宇	分担	継続	新学術領域研究	海洋混合学の創設：物質循環・気候・生態系をつなぐ統合的理解の推進（代表：東京大学　安田 一郎）	910,000	新学術領域研究（OMIX）を推進するための総括班及び若手研究者の活動をサポートする。
3	環境動態解析部門	加　三千宣	代表	継続	挑戦的萌芽	堆積物中の環境 DNA を用いた浮魚類の個体数復元に関する研究	2,730,000	別府湾海底堆積物から，カタクチイワシ・マアジ等の魚の環境 DNA の検出と DNA 量による魚の個体数復元の可能性の検討を行う。
4	環境動態解析部門	加　三千宣	分担	継続	基盤研究（C）一般	琵琶湖におけるプランクトンとウイルスの過去100年における相互作用解明への挑戦（代表：松山大学　槻木 玲美）	650,000	琵琶湖湖底堆積物の動物プランクトン及びウィルスの DNA を抽出し，堆積物の年代を Pb-210法により決定して，プロンクトンとウィルスの個体群動態と相互作用の歴史的変遷を解明する。
5	環境動態解析部門	森本　昭彦	分担	継続	基盤研究（B）海外	ジャカルタ湾の Giant Sea Wall 建設が海洋環境に与える影響について（代表：佐賀大学　速水 祐一）	650,000	インドネシアの首都ジャカルタに面するジャカルタ湾の海洋環境，特に貧酸素の実態を把握するための船舶観測を年4回実施し，貧酸素化の季節・経年変化を明らかにする研究
6	環境動態解析部門	加　三千宣	分担	継続	基盤研究（A）	別府湾柱状堆積物の解析にもとづく過去8000年間の太平洋十年規模変動の復元（代表：北海道大学　山本 正伸）	975,000	別府湾堆積物柱状試料を用いたイワシ類魚鱗堆積量の過去7000年間の記録を明らかにする研究を行ってきた。十年規模変動以外にも長期的なトレンドが見られ，過去7000年間の気候変動に対する応答様式の解明が期待される。
7	環境動態解析部門	吉江　直樹	代表	継続	基盤研究（B）一般	超高解像度観測と数値モデルを組み合わせた沿岸域における栄養塩動態の解析	4,420,000	複雑な混合過程が卓越し高い生物生産を誇る瀬戸内海において，近年実用化した高応答性硝酸計と乱流計を用いた超高解像度観測を実施し沿岸域の混合・栄養塩供給過程の実態を捉え，数値モデルによりそれらを再現・解析し，沿岸域の栄養塩動態の解明を目指す。
8	環境動態解析部門	郭　新宇	代表	継続	基盤研究（B）一般	万年スケールでみた黒潮の流路変遷と黒潮分岐流の形成メカニズム	3,900,000	最終氷期最盛期から現在までの海水準変動と古気候モデルから得られる大気場を海洋大循環モデルに導入し，過去2万年間の黒潮の変遷過程および対馬暖流・津軽暖流・宗谷暖流の形成過程を再現する。
9	環境動態解析部門	吉江　直樹	代表	新規	新学術領域研究	東シナ海におけるサブメソスケール渦が海洋生態系に及ぼす影響の評価	2,600,000	東シナ海の大陸棚斜面付近において頻繁に発生する直径数十 km ～数 km 程度のサブメソスケール渦が海洋の生態系に及ぼす影響について，高応答性の化学・生物センサー群を用いた高解像度高頻度観測により明らかにすることを目指す。
10	環境動態解析部門	加　三千宣	代表	新規	基盤研究（B）一般	マイワシレジームの最大個体数を百年規模で減少させた北西太平洋の海洋プロセスの解明	7,410,000	過去1000年間のマイワシ資源変動の原因は十分に解明されておらず，資源変動の予測は実現に至っていない。そこで本研究は，これまで全く未解明であった過去1000年にわたるマイワシ資源の変動要因を海底堆積物記録に基づく古海洋学的手法を用いて明らかにする。
11	化学汚染・毒性解析部門	田辺　信介	代表	継続	基盤研究（A）一般	新規残留性有害化学物質における広域汚染・生物蓄積の実態解明と生体影響評価	11,180,000	新規 POPs および代替物質を対象に，アジア太平洋地域の環境・生態系汚染の現状と経年変化およびバイオアッセイ等による影響評価の基礎データを集積・解析し，環境改善や対策技術構築のための科学的根拠を提示する。
12	化学汚染・毒性解析部門	国末　達也	分担	新規	基盤研究（B）	フイリマングースにおける水銀およびその他微量元素の母子間移行と関連遺伝子の探索（代表・鳥取大学　寳來佐和子）	650,000	野生のフイリマングースを対象として，水銀を含む微量元素の母子間移行の特徴と関連遺伝子の関連性を解析し，元素特異的な機序を解明する。

13	化学汚染・毒性解析部門	野見山　桂	代表	継続	基盤研究（B）一般	オミックス解析によるイエネコの毒性発現機構の解明	4,550,000	イエネコを対象に PCBs および PBDEs の in vivo 曝露試験を実施し，臓器組織を対象としたメタボローム解析により，毒性作用機序を解明する。
14	化学汚染・毒性解析部門	野見山　桂	分担	継続	基盤研究（B）一般	内分泌かく乱物質の網羅分析とマスバランス解析に基づくヒト曝露・生態リスク評価 （代表：愛媛大学　高橋 真）	650,000	GCxGC-TOFMS 等の先端分析機器やマススペクトル自動解析プログラム等を組み合わせた内分泌撹乱化学物質の網羅分析を行って，ヒトの住環境およびその周辺に生息する野生動物を対象にその汚染と曝露実態を解明する。
15	化学汚染・毒性解析部門	岩田　久人	代表	継続	基盤研究（S）	多元的オミックス解析による化学物質－細胞内受容体シグナル伝達撹乱の種差の解明	36,530,000	化学物質が細胞内受容体を介して惹起する影響を多元的オミックス解析によって解明する。
16	化学汚染・毒性解析部門	仲山　　慶	代表	継続	基盤研究（C）	下水処理水に残留する医薬品等による魚類の感染症誘発に対するリスク評価	1,560,000	下水処理水中に残存する医薬品等を対象に，病原体に対する感受性の変化をエンドポイントとした免疫毒性の評価を行い，魚類における感染症の発症リスクへの寄与を明らかにする。
17	化学汚染・毒性解析部門	芳之内結加	代表	継続	特別研究員奨励費	環境汚染物質によるバイカルアザラシ内分泌かく乱の統合的評価	600,000	環境汚染物質と ER 内因性リガンドとの複合曝露による ER シグナル伝達かく乱の分子メカニズムについて解明することを目的し，化学物質による ER シグナル伝達経路に関連するタンパク質の同定を試みた。
18	化学汚染・毒性解析部門	KANERBA MIRELLA	代表	継続	特別研究員奨励費	環境汚染および環境変動によるバルト海サケの遺伝子発現への影響	1,100,000	バルト海サケを対象に，環境汚染物質曝露量およびその他環境変動要因が遺伝子発現へ及ぼす影響について評価する。
19	化学汚染・毒性解析部門	後藤　哲智	代表	新規	研究活動スタート支援	魚介類に蓄積する有機ハロゲン化合物のノンターゲットスクリーニングと未知物質の探索	1,560,000	瀬戸内海の魚介類に蓄積する既知・未知の有機ハロゲン化合物を網羅的にスクリーニングし，それらの曝露濃度と起源を明らかにする。
20	化学汚染・毒性解析部門	落合　真理	代表	新規	若手研究	鯨類由来誘導神経細胞を用いた環境汚染物質の神経毒性評価	1,690,000	鯨類の培養細胞を用いて誘導神経細胞を樹立し，環境汚染物質への曝露による神経毒性を評価する。
21	化学汚染・毒性解析部門	田上　瑠美	代表	新規	若手研究	生理活性物質の魚類への移行／残留性の解析および生物濃縮性予測モデルへの構築	2,080,000	下水処理水に試験魚（コイ・ヒメダカ・ティラピア）を曝露し，生理活性化学物質95種について魚類への移行・残留性を解析する。具体的には，取込期間（下水処理水曝露期間）および排泄期間（脱塩素水曝露期間）を設定することにより，取込速度，排泄速度，半減期，濃縮係数など各種速度論パラメータを定量し，物質間および魚種間で比較解析する。最終的に，生物移行・残留性の特性に基づくカテゴリー化と生物濃縮性予測モデルの高質化を試みる。本研究が達成されれば，種間の外挿・類推に付随する不確実性の低下および生態毒性・生物濃縮性試験の削減が期待できる。
22	化学汚染・毒性解析部門	国末　達也	代表	新規	国際共同研究加速基金（B）	ベトナムの廃棄物および工業・生活排水に由来する有害化学物質の動態とリスク評価	4,940,000	ベトナムの首都ハノイおよびその近郊を対象に，廃棄物や排水の不適正処理で環境中への放出が予想される有害化学物質の汚染実態と動態に関する基礎データを集積・解析し，環境改善や対策技術構築のための科学的根拠を提示する。
23	生態系解析部門	鈴木　　聡	代表	継続	基盤研究（A）一般	多剤耐性遺伝子の環境中残存機構と人への暴露リスク評価	7,930,000	薬剤耐性遺伝子が人・獣医療現場から環境中に流入した後，自然環境でどのような機構で残存・拡散するのかを解明することを目的とする。本研究では未知の未培養菌（yet-to-be cultured 菌）がリザーバとなってバイオフィルム中に残存し，生物由来物質がキャリアとなって安定化して拡散する機構を解明する。未培養菌を含むマイクロコズム実験および現場のリザーバ，キャリア中の耐性遺伝子網羅解析（レジストーム）と定量的調査から，環境遺伝子のリスク評価を行い，暴露低減策を提言する。
24	生態系解析部門	杉本　侑大	代表	新規	特別研究員奨励費	水圏環境中で新規マクロライド耐性遺伝子を運ぶ可動性因子の解析	800,000	環境細菌群集中での薬剤耐性遺伝子の保有実態と拡散メカニズムの解明を目的とする。環境細菌はほとんどが未培養菌であり，従来法では薬剤耐性遺伝子の検出と保有菌の同定を同時に行うことは難しい。本研究では検出感度を大幅に増幅した蛍光 in situ ハイブリダイゼーション法を用いることで目的の達成を目指す。これにより得られる知見は，薬剤耐性菌の環境中での動態解明の手がかりになると期待できる。

・金額は平成30年度に受け入れた直接経費（補助金，基金）及び間接経費の合計額

3. 2　共同研究

No.	部　　門	研究担当者	研　究　課　題	委　　託　　者	金額（円）	概　　要
1	環境動態解析部門	加　三千宣	山中湖の底質環境の現状把握：水質浄化のための基礎的研究	山梨県富士山科学研究所	700,000	高度経済成長期以降，湖の富栄養化が進み，その水質改善が急務となっている山中湖の近年の底質汚濁の傾向とその要因を明らかにするため，堆積物コアを新たに採取し，植物色素の分析から低次生態系変動を明らかにする。
2	生態系解析部門	北村　真一	ヒラメのリンホシスチス病の病態解明に関する研究	学校法人加計学園	0	ウイルス性疾病の一つであるリンホシスチス病は高水温期に自然治癒する。本共同研究では，病理組織学的および分子生物学的手法によって，感染初期から治癒まで過程を明らかにする。

・金額は平成30年度に受け入れた直接経費及び間接経費の合計額

3. 3　受託研究

No.	部　　門	研究担当者	研　究　課　題	委　　託　　者	金額（円）	概　　要
1	環境動態解析部門	郭　　新宇	環境研究総合推進費「日本海高次生態系モデルの構築」	（環境省）公益財団法人環日本海環境協力センター	6,076,095	日本海におけるスルメイカ・ズワイガニの幼生を対象とする輸送・生残モデルの構築
2	環境動態解析部門	森本　昭彦	環境研究総合推進費「日本海環境変動予測モデルの構築」	（環境省）公益財団法人環日本海環境協力センター	5,782,352	東シナ海から日本海へ流入する栄養塩量の変化に伴う日本海の低次生態系の変動を解明するための物理 - 低次生態系結合モデルを開発する。
3	環境動態解析部門	吉江　直樹	平成30年度漁業環境改善推進事業のうち赤潮被害防止対策技術の開発「有害赤潮プランクトンの出現動態監視および予察技術開発」	（農林水産省）水産研究・教育機構瀬戸内区水産研究所	500,000	西日本沿岸域で多発するカレニア・ミキモトイによる赤潮の発生・衰退機構を現場観測と数値モデルを組み合わせ明らかにすることを目指す。
4	環境動態解析部門	吉江　直樹	平成30年度漁場環境改善推進事業のうち栄養塩の水産資源に及ぼす影響の調査「栄養塩等の水質環境が小型浮魚の餌料環境に及ぼす環境解明」	（農林水産省）水産研究・教育機構瀬戸内区水産研究所	1,160,000	沿岸域における栄養塩濃度の変動と小型浮き魚の餌料として重要なメソ動物プランクトン量の変動の関連性について数値モデルを用いて明らかにすることを目指す。
5	化学汚染・毒性解析部門	国末　達也	平成30年度 EXTEND2010に係る野生生物の生物学的知見研究「座礁・漂着鯨類における新規 POPs および POPs 代替物質の蓄積特性とリスク評価に関する研究」	環境省	4,000,000	日本各地に座礁・漂着した鯨類の包括的な新規 POPs および POPs 代替物質の汚染実態調査を実施し，種特異的な蓄積特性を解明する。
6	化学汚染・毒性解析部門	国末　達也	環境研究総合推進費 PCB・POPs に関する時系列評価と環境管理方策に資する分析化学的研究	（環境省）愛媛大学農学部	8,000,000	分析化学的手法を用いて，環境・生物相における POPs 汚染の時系列変化を把握，解析するとともに，地域・海域や生物種にみられる特徴を整理して，規制効果の検証に資する基礎情報を提供する。
7	化学汚染・毒性解析部門	岩田　久人	OMICS 解析を用いた環境汚染物質がヒゲクジラ類の精巣発達に与える影響の解明に関する研究	一般財団法人日本鯨類研究所	1,200,000	環境汚染物質がヒゲクジラ類の精巣発達に与える影響を OMICS 技術を用いて評価する。
8	化学汚染・毒性解析部門	仲山　　慶	平成30年度環境総合推進費「排水で検出される臭素系ダイオキシン類の魚類毒性評価」	（環境省）国立環境研究所	4,940,000	メダカの初期胚を用いて臭素系ダイオキシン類の毒性評価を行い，導き出した毒性等量から毒性ポテンシャルの化合物間比較を行う。
9	化学汚染・毒性解析部門	仲山　　慶	環境研究総合推進費 PCB・POPs に関する時系列評価と環境管理方策に資する分析化学的研究	（環境省）新潟大学	1,000,000	POPs の時空間分布解析のための，データ収集をはじめとした解析環境の構築を行う。

・金額は平成30年度に受け入れた直接経費及び間接経費の合計額

3．4　各種研究助成金（民間・財団等），奨学寄付金等

No.	部　　門	研究担当者	研　究　課　題	寄　　附　　者	金額（円）	概　　要
1	環境動態解析部門	森本　昭彦	沿岸海洋に関する研究	日本海洋学会沿岸海洋研究会	450,000	日本周辺の沿岸域における物理・化学・生物過程に注目し，最新の研究成果の情報を収集する。
2	化学汚染・毒性解析部門	後藤　哲智	起源未知ダイオキシン類縁化合物の探索と沿岸生物への曝露評価	公益財団法人日本生命財団	1,400,000	ダイオキシン類縁化合物に特化したスクリーニング技術を確立し，沿岸生物に対する曝露リスクを評価する。
3	生態系解析部門	北村　真一	魚類感染症に関する研究	松岡科学研究所	1,000,000	魚介類の感染症（リンホシスチス病・スクーチカ症・マボヤ被嚢軟化症）の基礎研究および対策に関する研究を行っている。

3．5　受託事業

該当なし

4．研究成果

（暦年で2018年に出版，掲載されたもの）

4. 1　著　書

環境動態解析部門

1）Ichikawa, K., Yoshikawa, Y., Morimoto, A., Fukudome, K. Yoon, J-H（2018）：Complementary remote sensing observations fo the Tsushima Warm Current patterns. Remote Sensing of the Asian Seas, Barele V. and M. Gade（eds）, Springer, 191- 204.

化学汚染・毒性解析部門

1）Sousa, A. C. A., Tanabe S, Pastorinho, M. R.（2018）：Organotins: sources and impacts on health and environment, *In*: Encyclopedia of the Anthropocene, Goldstein, M. I.（Ed.）, Oxford, Elsevier, 133-139.

2）田辺信介（2018）：10.4 環境中の化学物質濃度，環境年表 2019-2020，国立天文台編，丸善出版，東京，424-425，432-433.

生態系解析部門

1）渡邉　誠也（2018）：Symbiosis.（分担執筆，範囲 :Dye-linked flavin-containing dehydrogenase from bacteria related to plant）, IntechOpen

4. 2　学協会誌等

環境動態解析部門

原　著

1）Long, Y., Zhu, X.-H., Guo, X., Huang, H.（2018）：Temporal variation of Kuroshio nutrient stream south of Japan. *Journal of Geophysical Research-Oceans*, **123**, 7896-7913.

2）Bao, R., van der Voort, T. S., Zhao, M., Guo, X., Montluçon, D. B., McIntyre, C., & Eglinton, T. I.（2018）：Influence of hydrodynamic processes on the fate of sedimentary organic matter on continental margins. *Global Biogeochemical Cycles*, **32**, 1420-1432.

3）Yu, X. and Guo, X.（2018）：Intensification of water temperature increase inside the bottom cold water by horizontal heat transport. *Continental Shelf Research*. **165**, 26-36.

4）Chu, Q., Liu, Y., Shi, J., Zhang, C., Gong, X., Yao, X., Guo, X., Gao, H.（2018）：Promotion effect of Asian dust on phytoplankton growth and potential dissolved organic phosphorus（DOP）utilization in the South China Sea. *Journal of Geophysical Research-Biogeosciences*. **123**（**3**）, 1101-1116.

5）Hu, Y., Guo, X., and Zhao, L.（2018）：Interannual variation of nutrients along a transect across the Kuroshio and shelf area in the East China Sea over 40 years. *Journal of Oceanology and Limnology*, **36**（**1**）, 62-76.

6）Wang, Y., Guo, X., and Zhao, L.（2018）：Simulating the responses of a low-trophic ecosystem in the East China Sea to decadal changes in nutrient load from the Changjiang（Yangtze River）. *Journal of Oceanology and Limnology*, **36**（**1**）, 48-61.

7）Zou L., Yao, X., Yamaguchi, H., Guo, X., Gao H., Wang, K., and Sun, M.（2018）：Seasonal and spatial variations of Macro Benthos in the intertidal mudflat of Southern Yellow River Delta, China in 2007/2008. *Journal of Ocean University of China*. **17**（**2**）, 437-444.

8） Zhang, C., Gao, H., Yao, X., Shi, Z., Shi, J., Yu, Y., Meng, L., and Guo, X.（2018）：Phytoplankton growth response to Asian dust addition in the northwest Pacific Ocean versus the Yellow Sea. *Biogeosciences*, **15**, 749-765.

9） Yu, X., Guo, X., Morimoto, A., Buranapratheprat, A.（2018）：Simulation of river plume behaviors in a tropical region: Case study of the Upper Gulf of Thailand. *Continental Shelf Research*, **153**, 16-29.

10）Zhu, J., Shi, J., Guo, X., Gao, H., Yao X.（2018）：Air-sea heat flux control on the Yellow Sea Cold Water Mass intensity and implications for its prediction. *Continental Shelf Research*, **152**, 14-26.

11）吉田尚郁・張 勁・森本昭彦・柴野良太・広瀬直毅・高山勝巳・郭 新宇・王 玉成・眞野 能・吉江 直樹（2018）：日本海三階層管理の提案．*沿岸海洋研究* . **56**（**1**）, 31-38.

12）Yang, H., Mao, X., Guo, X.（2018）：A preliminary study on nutrients concentration within the mixed layer in the Northwest Pacific based on WOD data. *Periodical of Ocean University of China*, **48**, 1-9.（in Chinese with English abstract）.

13）Maúre, E. R., J. Ishizaka, H. Aiki, Y. Mino, N. Yoshie, J. I. Goes, H. R. Gomes, and H. Tomita（2018）：One-Dimensional Turbulence-Ecosystem Model Reveals the Triggers of the Spring Bloom in Mesoscale Eddies, *Journal of Geophysical Research-Oceans*, **123**（**9**）, 6841-6460.

14）加 三千宣（2018）：沿岸域堆積物の過去数百～数千年間を対象としたパレオ研究―豊後水道・別府湾を例として，*第四紀研究* **57**_175-195.

15）Toguchi, Y., Fujii, S. and Hinata, H.（2018）：Tsunami Waves and Tsunami - Induced Natural Oscillations Determined by HF Radar in Ise Bay, Japan, *Journal of Geophysical Research: Oceans*, **123**（**4**）, 2965-2980.

16）Sagawa, N., Kawaai, K. and Hinata, H.（2018）：Abundance and size of microplastics in a coastal sea: Comparison among bottom sediment, beach sediment, and surface water, *Marine Pollution Bulletin*, **133**, 532-542.

17）Ogata, K., Seto, S., Fuji, R., Takahashi, T. and Hinata, H.（2018）：Real-time tsunami detection with oceanographic radar based on virtual tsunami observation experiments, *Remote Sensing*, **10**（**7**）, 1126.

18）門廻充侍・高橋智幸・日向博文・藤良太郎・今村文彦（2018）：1局の海洋レーダを用いた津波波峰推定法の検討とその適用例，*土木学会論文集 B2（海岸工学）*，**74**（**2**），I_511-I_516.

19）田中良仁・上原史洋・日向博文・藤良太郎（2018）：遠州灘における海洋レーダの津波観測性能評価－仮想津波観測実験を用いた検討－，*土木学会論文集 B2（海岸工学）*，**74**（**2**），I_523-I_528.

20）桝本一成・加 三千宣・日向博文（2018）：別府湾におけるマイクロプラスチックの堆積フラックス，*土木学会論文集 B2（海岸工学）*，**74**（**2**），I_1321-I_1326.

化学汚染・毒性解析部門

原　著

1） Oguri, T., Suzuki, G., Matsukami, H., Uchida, N., Tue, N. M., Tuyen, L. H., Viet, P. H., Takahashi, S., Tanabe, S. and Takigami, H.（2018）：Exposure assessment of heavy metals in an e-waste processing area in northern Vietnam. *Science of the Total Environment*, **621**, 1115-1123.

2） Tanoue, R., Kume, I., Yamamoto, Y., Takaguchi, K., Nomiyama, K.， Tanabe, S. and Kunisue, T.（2018）：Determination of free thyroid hormones in animal serum/plasma using ultrafiltration in combination with ultra-fast liquid chromatography-tandem mass spectrometry. *Journal of Chromatography A*, **1539**, 30-40.

3） Eguchi, A., Nomiyama, K., Sakurai, K., Trang, P. T. K., Viet, P. H., Takahashi, S., Iwata, H., Tanabe, S., Todaka, E. and Mori, C.（2018）：Alterations in urinary metabolic profiles due to lead exposure from a lead-acid battery recycling site. *Environmental Pollution*, **242**, 98-105.

4） Gray, H. W. I., Nishida, S., Welch, A. J., Moura, A. E., Tanabe, S., Kiani, M. S., Culloch, R., Möller, L., Natoli, A., Ponnampalam, L. S., Minton, G., Gore, M., Collins, T., Willson, A., Baldwin, R. and Hoelzel, A. R.（2018）：Cryptic lineage differentiation among Indo-Pacific bottlenose dolphins（*Tursiops aduncus*）in the northwest Indian Ocean. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, **122**, 1-14.

5） Uchida, N., Matsukami, H., Someya, M., Tue, N. M., Tuyen, L. H., Viet, P. H., Takahashi, S., Tanabe, S. and Suzuki, G.（2018）：Hazardous metals emissions from e-waste-processing sites in a village in northern Vietnam, *Emerging Contaminants*, **4**, 11-21.

6） Nishimura, C., Suzuki, G., Matsukami, H., Agusa, T., Takaoka, M., Takahashi, S., Tue, N. M., Viet, P. H., Tanabe,

S., Takigami, H. and Fujimori, T.（2018）：Soil pollution by chlorobenzenes and polychlorinated biphenyls from an electronic waste recycling area in northern Vietnam. *International Journal of Environment and Pollution*, **63**（**4**）, 283-297.

7） Anh, H. Q., Tomioka, K., Tue, N. M., Tri, T. M., Minh, T. B. and Takahashi, S.（2018）PBDEs and novel brominated flame retardants in road dust from northern Vietnam: Levels, congener profiles, emission sources and implications for human exposure. *Chemosphere*, **197**, 389-398.

8） Horai, S., Nakashima, Y., Nawada, K., Watanabe, I., Kunisue, T., Abe, S., Yamada, F. and Sugihara, R.（2018）：Trace element concentrations in the small Indian mongoose（*Herpestes auropunctatus*）from Hawaii, USA. *Ecological Indicators*, **91**, 92-104.

9） Darwish, W. S., Ikenaka, Y., Nakayama, S. M. M., Mizukawa, H., Thompson, L. A. and Ishizuka, M. （2018）：β-carotene and retinol reduce benzo[a]pyrene-induced mutagenicity and oxidative stress via transcriptional modulation of xenobiotic metabolizing enzymes in human HepG2 cell line. *Environmental Science and Pollution Research*, **25**（**7**）, 6320-6328.

10）Bortey-Sam, N., Ikenaka, Y., Akoto, O., Nakayama, S. M. M., Marfo, J. T., Saengtienchai, A., Mizukawa, H. and Ishizuka, M.（2018）：Sex and site differences in urinary excretion of conjugated pyrene metabolites in the West African Shorthorn cattle. *The Journal of Veterinary Medical Science*, **80**（**2**）, 375-381.

11）Bortey-Sam, N., Ikenaka, Y., Akoto, O., Nakayama, S. M. M., Asante, K. A., Baidoo, E., Obirikorang, C., Mizukawa, H. and Ishizuka, M.（2018）：Association between human exposure to heavy metals/metalloid and occurrences of respiratory diseases, lipid peroxidation and DNA damage in Kumasi, Ghana. *Environmental Pollution*, **235**, 163-170.

12）Ogbomida, E. T., Nakayama, S. M. M., Bortey-Sam, N., Oroszlany, B., Tongo, I., Enuneku, A. A., Ozekeke, O., Ainerua, M. O., Fasipe, I. P., Ezemonye, L. I., Mizukawa, H., Ikenaka, Y. and Ishizuka, M.（2018）：Accumulation patterns and risk assessment of metals and metalloid in muscle and offal of free-range chickens, cattle and goat in Benin City, Nigeria. *Ecotoxicology and Environmental Safety*, **151**, 98-108.

13）Ueno, D., Mizukawa, H., Inanami, O., Nagasaka, H., Tatsuta, N., Narazaki, Y., Fujino, T., Watanabe, I., Kameda, Y. and Nakai, K.（2018）"Caddisfly watch," a biomonitoring program using Stenopsyche larvae to determine radioactive cesium contamination in rivers following the Fukushima nuclear disaster. *Landscape and Ecological Engineering*, **14**, 29-35.

14）Yabe, J., Nakayama, S. M. M., Ikenaka, Y., Yohannes, Y. B., Bortey-Sam, N., Kabalo, A. N., Ntapisha, J., Mizukawa, H., Umemura, T. and Ishizuka, M.（2018）：Lead and cadmium excretion in feces and urine of children from polluted townships near a lead-zinc mine in Kabwe, Zambia. *Chemosphere*, **202**, 48-55.

15）Takeda, K., Ikenaka, Y., Tanaka, K. D., Nakayama, S. M. M., Tanikawa, T., Mizukawa, H. and Ishizuka, M.（2018）：Investigation of hepatic warfarin metabolism activity in rodenticide-resistant black rats（Rattus rattus）in Tokyo by in situ liver perfusion. *Pesticide Biochemistry and Physiology*, **148**, 42-49.

16）Ikenaka, Y., Fujioka, K., Kawakami, T., Ichise, T., Bortey-Sam, N., Nakayama, S. M. M., Mizukawa, H., Taira, K., Takahashi, K., Kato, K., Arizono, K. and Ishizuka, M.（2018）：Contamination by neonicotinoid insecticides and their metabolites in Sri Lankan black tea leaves and Japanese green tea leaves. *Toxicology Reports*, **5**, 744-749.

17）Saengtienchai, A., Ikenaka, Y., Kawata, M., Kawai, Y., Takeda, K., Kondo, T., Bortey-Sam, N., Nakayama, S. M. M., Mizukawa, H. and Ishizuka, M.（2018）：Comparison of xenobiotic metabolism in phase I oxidation and phase II conjugation between rats and bird species. *Comparative Biochemistry and Physiology - Part C: Toxicology & Pharmacology*, **214**, 28-35.

18）Nakamura, R., Yabuki, A., Ichii, O., Mizukawa, H., Yokoyama, N. and Yamato, O.（2018）：Changes in Renal Peritubular Capillaries in Canine and Feline Chronic Kidney Disease. *Journal of Comparative Pathology*, **160**, 79-83.

19）Ishii, C., Nakayama, S. M. M., Kataba, A., Ikenaka, Y., Saito, K., Watanabe, Y., Makino, Y., Matsukawa, T., Kubota, A., Yokoyama, K., Mizukawa, H., Hirata, T. and Ishizuka M.（2018）：Characterization and imaging of lead distribution in bones of lead-exposed birds by ICP-MS and LA-ICP-MS. *Chemosphere*, **212**, 994-1001.

20）Thompson, L. A., Ikenaka, Y., Darwish, W.S., Yohannes, Y.B., van Vuren, J. J., Wepener, V., Smit, N. J., Assefa, A. G., Tharwat, A., Eldin, W. F. S., Nakayama, S. M. M., Mizukawa, H. and Ishizuka, M.（2018）：Investigation of mRNA expression changes associated with field exposure to DDTs in chickens from KwaZulu-Natal, South Africa. *PLoS One*, **13**（**10**）, e0204400.

21）Guo, J., Ito, S., Nguyen, H, T., Yamamoto, K., Tanoue, R., Kunisue, T., Iwata H.（2018）：Effects of prenatal exposure to triclosan on the liver transcriptome in chicken embryos, *Toxicology and Applied Pharmacology*, **347**, 23-32.

22）Guo, J., Ito, S., Nguyen, H. T., Yamamoto, K., Iwata H.（2018）：Effects on the hepatic transcriptome of chicken embryos in ovo exposed to phenobarbital, *Ecotoxicology and Environmental Safety*, **160**, 94-103.
23）Ochiai, M., Iida, M., Agusa, T., Takaguchi, K., Fujii, S., Nomiyama, K., Iwata, H.（2018）：Effects of 4-Hydroxy-2,3,3′,4′,5-Pentachlorobiphenyl（4-OH-CB107）on Liver Transcriptome in Rats: Implication in the Disruption of Circadian Rhythm and Fatty Acid Metabolism, *Toxicological Sciences*, **165**（**1**）, 118-130.
24）Guo, J., Nguyen, H. T., Ito, S., Yamamoto, K., Kanerva, M., Iwata, H.（2018）：In ovo exposure to triclosan alters the hepatic proteome in chicken embryos, *Ecotoxicology and Environmental Safety*, **165**, 495-504.
25）Reza, M., Mohapatra, S., Shimizu, S., Kitamura, SI., Harakawa, S., Kawakami, H., Nakayama, K., Sawayama, E., Matsubara, T., Ohta, K., Chakrabortya, T.（2018）：Molecular cloning, characterization and expression analysis of complement components in red sea bream（Pagrus major）after Edwardsiella tarda and red sea bream Iridovirus（RSIV）challenge, *Fish & Shellfish Immunology*, **82**, 286-295.
26）Hirose, E., Nakayama, K., Yanagida, T., Nawata, A., Kitamura, SI.（2018）：Measurement of tunic hardness in an edible ascidian, Halocynthia roretzi, with remarks on soft tunic syndrome, *Zoological Science*, **35**, 548-553.
27）Sawayama, E., Noguchi, D., Nakayama, K., Takagi, M.（2018）：Identification, characterization, and mapping of a novel SNP associated with body color transparency in juvenile red sea bream（Pagrus major）, *Marine Biotechnology*, **20**, 481-489.
28）Narasaki, Y., Ito, S., Song, JY., Obayashi, Y., Nakayama, K., Kitamura, SI.（2018）：Extracellular proteinases of Miamiensis avidus causing scuticociliatosis are potential virulence factors, *Fish Pathology*, **53**, 1-9.
29）Motokawa, S., Narasaki, Y., Song, JY., Yokoyama, Y., Hirose, E., Murakami, S., Jung, SJ., Oh, MJ., Nakayama, K., Kitamura, SI.（2018）：Analysis of genes encoding high-antigenicity polypeptides in three serotypes of Miamiensis avidus, *Parasitology International*, **67**, 196-202.
30）Yamaguchi, A., Ishibashi, H., Kono, S., Iida, M., Uchida, M., Arizono, K., Tominaga, N.（2018）：Nanosecond pulsed electric field incorporation technique to predict molecular mechanisms of teratogenicity and developmental toxicity of estradiol-17 β on medaka embryos. *Journal of Applied Toxicology*, **38**（**5**）, 714-723.
31）Ishibashi, H., Uchida, M., Yoshimoto, K., Imamura, Y., Yamamoto, R., Ikenaka, Y., Kawai, M., Ichikawa, N., Takao, Y., Tominaga, N., Ishibashi, Y., Arizono, K.（2018）：Occurrence and seasonal variation of equine estrogens, equilin and equilenin, in the river water of Japan: implication with endocrine-disrupting potentials to Japanese medaka（*Oryzias latipes*）. *Environmental Pollution*, **239**, 281-288.
32）Nishiguchi, S., Wada, N., Yamashiro, H., Ishibashi, H., Takeuchi, I.（2018）：Continuous recordings of the coral bleaching process on Sesoko Island, Okinawa, Japan, over about 50 days using an underwater camera equipped with a lens wiper. *Marine Pollution Bulletin*, **131**（**Pt A**）, 422-427.
33）Ishibashi, H., Minamide, S., Takeuchi, I.（2018）：Identification and characterization of heat shock protein 90（HSP90）in the hard coral *Acropora tenuis* in response to Irgarol 1051. *Marine Pollution Bulletin*, **133**, 773-780.
34）Ishibashi, H., Kim, E.Y., Arizono, K., Iwata, H.（2018）：*In vitro* assessment of activation of Baikal seal（*Pusa sibirica*）peroxisome proliferator-activated receptor α by polybrominated diphenyl ethers. *Environmental Science and Technology*, **52**（**20**）, 11831-11837.

総説等

1） 野見山桂：薬物・環境化学物質代謝の種差と甲状腺機能，*日本甲状腺学会雑誌*，2018年4月号，p42-47.
2） 国末達也・高橋 真（2018）：アーカイブ試料を活用した POPs 汚染の時系列評価と今後の課題，*廃棄物資源循環学会誌*，**29**（**6**），423-432.

生態系解析部門

原　著

1） Sato-Takabe, Y., Hamasaki, K. and Suzuki, S.（2018）：High temperature accelerates growth of aerobic anoxygenic phototrophic bacteria in seawater. *MicrobiologyOpen*, e00710.
2） Nonaka, L., Yamamoto, T., Maruyama, F., Hirose, U., Onishi, Y., Kobayashi, T., Suzuki, S., Nomura, N., Masuda, M. and

Yano, H.（2018）：Interplay of a non-conjugative integrative element and a conjugative plasmid in the spread of antibiotic resistance via suicidal plasmid transfer from an aquaculture Vibrio isolate. *PLOS ONE*, **13**（6）：e0198613.

3） Suzuki, S., Makihara, N. and Kadoya, A.（2018）：Tetracycline resistance gene tet（M）of a marine bacterial strain is not accumulated in bivalves from seawater in clam tank experiment and mussel monitoring. *Science of the Total Environment*, **634**, 181-187.

4） Sugimoto, Y., Maruyama, F. and Suzuki, S.（2018）：Draft genome sequence of a Shewanella halifaxensis strain isolated from the intestine of marine red seabream（Pagrus major）, which includes an integrative conjugative element with macrolide resistance genes. *Genome Announcements*, **6**, e00297-18.

5） Ye, R., Peterson, D., Kitamura, S.I., Segner, H., Seemann, F. and Au, D.（2018）：Sex-specific immunomodulatory action of the environmental estrogen 17 α-ethynylestradiol alongside with reproductive impairment in fish. *Aquatic Toxicology*, **203**, 95-106.

6） Nawata, A., Hirose, E. and Kitamura, S.I.（2018）：Tunic extract of the host ascidian attracts the causal agent of soft tunic syndrome, *Azumiobodo hoyamushi*（Kinetoplastea: Neobodonida）. *Diseases of Aquatic Organisms*, **129**, 207-214.

7） Hirose, E., Nakayama, K., Yanagida, T., Nawata, A. and Kitamura, S.I.（2018）：Measurement of tunic hardness in an edible ascidian, *Halocynthia roretzi*, with remarks on soft tunic syndrome. *Zoological Science*, **35**, 548-552.

8） Noman, Reza M.A., Mohapatra, S., Shimizu, S., Kitamura, S.I., Harakawa, S., Kawakami, H., Nakayama, K., Sawayama, E., Matsubara, T., Ohta, K. and Chakrabortya, T.（2018）：Molecular cloning, characterization and expression analysis of complement components in red sea bream（*Pagrus major*）after *Edwardsiella tarda* and red sea bream iridovirus（RSIV）challenge. *Fish and Shellfish Immunology*, **82**, 286-295.

9） Narasaki, Y., Obayashi, Y., Ito, S., Murakami, S., Song, J.Y., Nakayama, K. and Kitamura, S.I.（2018）：Extracellular proteinases of *Miamiensis avidus* causing scutiicociliatosis are potential virulence factors. *Fish Pathology*, **53**, 1-9.

10）Motokawa, S., Narasaki, Y., Song, J.Y., Yokohama, Y., Hirose, E., Murakami, S., Jung, S.J., Oh, M.J. and Kitamura, S.I.（2018）：Analysis of genes encoding high-antigenicity polypeptides in three serotypes of *Miamiensis avidus. Parasitology International*, **67**, 196-202.

11）Watanabe, Y., Kobayashi, I., Ohnaka, T. and Watanabe, S.（2018）：In vitro synthesis of phospholipids with yeast phospholipase B, a phospholipid deacylating enzyme. *Biotechnology reports*, **18**, e00250.

12）Watanabe. S., Morimoto, D., Fukumori, F. and Watanabe, Y.（2018）：Characterization of cis-4-hydroxy-D-proline dehydrogenase from Sinorhizobium meliloti. Bioscience, *Biotechnology and Biochemistry*, **82**（1）, 110-113.

13）Carvajal, T. M., Hashimoto, K., Go, K. J. D., Cruz, M. A. I. J., Martinez, M. J. L. B., Capistrano, J. D. R., Tiopianco,V. S. P., Amalin, D. M. and Watanabe, K.（2018）：Detection and distribution of wolbachia endobacteria in *Culex quinquefasciatus* populations（Diptera: Culicidae）from Metropolitan Manila, Philippines. *Journal of Vector Borne Diseases*, **55**, 265-270.

14）Ho, H., Carvajal, T., Bautista, J.R., Capistrano, J.D., Viacrusis, K., Hernandez, L. F. and Watanabe, K.（2018）：Using Google trends to examine the spatio-temporal incidence and behavioral patterns of dengue disease: A case Study in Metropolitan Manila, Philippines. *Tropical Medicine and Infectious Disease*, **3**（**4**）, 118.

15）糠澤　桂，西元竣哉，鈴木祥広，渡辺幸三（2018）：マニラ首都圏におけるデング熱媒介蚊の産卵活動に関わる因子の時空間的分析 . 土木学会論文集 G（環境），**74**（**5**）, pp.I_79-I_85.

16）Rachmadi, A., Kitajima, M., Watanabe, K., Yaegashi, S., Serrana, J., Nakamura, A., Nakagomi, T., Nakagomi, O., Katayama, K., Okabe, S. and Sano, D.（2018）：Free chlorine disinfection as a selection pressure on Norovirus. *Applied and Environmental Microbiology*, **84**（**13**）, e00244-18.

17）Serrana, J., Yaegashi, S., Kondoh, S., Li, B., Robinson, C. T. and Watanabe, K.（2018）：Ecological influence of sediment bypass tunnels on macroinvertebrates in dam-fragmented rivers by DNA metabarcoding. *Scientific Reports*, **8**, 10185.

18）Carvajal, T.M, Viacrusis, K. M., Hernandez, L. F. T., Ho, H. T., Amalin, D. M. and Watanabe, K.（2018）：Machine learning methods reveal the temporal pattern of dengue incidence using meteorological factors in Metropolitan Manila, Philippines. *BMC Infectious Diseases*, **18**, 183.

19）Li, B., Yang, Y, Wa.ng, S., Wang, M. and Watanabe, K.（2018）：Macroinvertebrate community in subsurface-flow constructed wetlands for wastewater treatment under high and low pollutant stress in China, *Wetlands*, **38**（**2**）, 391-399.

20）Rachmadi, A.T., Kitajima,M., Watanabe, K., S. Okabe, Sano, D.（2018）：Disinfection as a selection pressure on RNA virus evolution. *Environmental Science & Technology*, **52**（**5w**）, 2434-2435.

総説等

1） 鈴木　聡（2018）：薬剤耐性遺伝子の巨大リザーバとしての水圏環境：遺伝子のシンクとリンク．*日本臨床腸内微生物学会誌*，**20**, 47-52.
2） 鈴木　聡（2018）：水環境に蓄積する薬剤耐性遺伝子．*感染症 Today*，*ラジオ NIKKEI*（オンデマンド聴講可能）.
3） 鈴木　聡（2018）：海にもいる薬剤耐性菌：彼らはどこから来て，どこへ行くのか？ *Ocean Newsletter*, **427**.

4. 3　学内，所内誌等

環境動態解析部門

1） 吉江直樹（2018）：研究課題紹介，CMES ニュース，No.38, 3-4.
2） 吉江直樹（2018）：研究集会開催報告，LaMer ニュース，No.5, 15.
3） 森本昭彦（2018）：研究課題紹介，CEMS ニュース，No.38, 6.
4） 森本昭彦（2018）：研究集会開催報告，LaMer ニュース，No.5, 16-17.

化学汚染・毒性解析部門

1） 田辺信介（2018）：理学部設置50周年を祝して，愛媛大学理学部設置50周年記念誌 さらなる飛躍へ（1968～2018），愛媛大学理学部，38.
2） 鈴木　聡・田辺信介（2018）：沿岸環境科学研究センター，愛媛大学理学部設置50周年記念誌 さらなる飛躍へ（1968～2018），愛媛大学理学部，130-133.
3） 岩田久人（2018）：拠点長新年度挨拶，LaMer ニュース，No.5, 12.
4） 仲山　慶（2018）：平成28年度化学物質安全対策，CMES ニュース，No.37, 4.

4. 4　一般誌等

環境動態解析部門

1） 島袋寛盛・吉田吾郎・加藤亜記・郭 新宇（2018）：今後100年間に生じる水温と藻場生態系の変遷を予測する・海洋と生物，40（3），233-242.

化学汚染・毒性解析部門

1） 野見山桂（2018）：「化学物質と甲状腺機能への影響」特集号コーディネーター，*Endocrine Disrupter News Letter*, 21（2）.
2） 野見山 桂（2018）：環境化学物質の代謝活性化と甲状腺ホルモンへの影響，*Endocrine Disrupter News Letter*, 21（2）, p2.

4. 5　報告書等

環境動態解析部門

1） 宮川博妃・茅野昌大・和西昭仁・馬場俊典・俵積田貴彦・恵崎 摂・井口大輝・大竹周作・岩野英樹・木村聡一郎・菅沼倫美・山田英俊・久米　洋・村田憲一・黒田麻美・東谷福太郎・吉江直樹・郭　新宇・清水園子・武岡英隆・松原孝博・鬼塚　剛（2018）：魚介類の斃死原因となる有害赤潮等分布拡大防止のための発生モニタリングと発生シナリオの構築②瀬戸内海西部・豊後水道海域．平成29年度漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業 赤潮・貧酸素水塊漁業被害防止対策事業報告書「瀬戸内海等での有害赤潮発生機構解明と予察・被害防止等技術開発」. 水産庁，39-97.

化学汚染・毒性解析部門

1）　国末達也（2018）：フィージビリティー研究：座礁・漂着鯨類における新規 POPs および POPs 代替物質の蓄積特性とリスク評価に関する研究，EXTEND2010に係わる野生生物の生物学的知見研究委託業務 業務報告書，環境省請負業務，平成30年3月，1-24.

2）　仲山　慶（2018）：QSAR で推定される生体反応速度の AE 同族体間での比較と有害性評価への適用の試み，化学物質安全対策，経済産業省委託研究，平成30年3月，1-21.

3）　仲山　慶（2018）：環境中の化学物質のモニタリング情報を管理するプラットフォーム（ChemTHEATRE）の構築，LRI 研究成果報告書，日本化学工業協会委託研究，平成30年3月，1-25.

4. 6　学会発表等

環境動態解析部門

1）　Wang, A., Guo, X., Shi J（2018）：A simulation of the seasonal variation and transport of decabromodiphenyl ether in the Jiaozhou Bay, Chinese Society of Oceanology and Limnology Symposium – Water Environment: Academic Annual Conference, Hainan, China, January.

2）　Guo, W., Shi, J., Zhu, J., Gao, H., Guo, X（2018）：Modelling the effects of the atmospheric nitrogen deposition on the nutrients and biomass of phytoplankton in the Yellow Sea, Chinese Society of Oceanology and Limnology Symposium – Water Environment: Academic Annual Conference, Hainan, China, January.

3）　Zhu, M., Shi, J., Guo, X., Gao, H（2018）：The seasonal and inter-annual variations of the influences of the water masses along the Tsushima Strait on the typical section in the Japan Sea, Chinese Society of Oceanology and Limnology Symposium – Water Environment: Academic Annual Conference, Hainan, China, January.

4）　吉江直樹・眞部良輔・高倉　翼・郭　新宇（2018）：豊後水道におけるカレニア赤潮と環境要因について，第12回 LaMer 共同利用研究集会「赤潮の予測に向けた観測とモデリング」，松山，1月 .

5）　M. Nakagawa, X. Guo, and N. Yoshie（2018）：Seasonal and interannual variations in the nutrient concentrations in the Bungo Channgel, Japan, Ocean Sciences Meeting 2018, Portland, USA, February.

6）　T. Mano, X. Guo, N. Fujii, N. Yoshie, and H. Takeoka（2018）：Effects of high frequency internal waves on the formation of moon jellyfish aggretations, Japan, Ocean Sciences Meeting 2018, Portland, USA, February.

7）　Yoshie, N., M. Nakagawa, H. Mizuguchi, T. Kanda, L. Mutou, E. Tsutsumi, T. Kobari, and X. Guo（2018）：Effects of strong turbulent mixing on phytoplankton around the Tokara strait, Ocean Sciences Meeting 2018, Portland, USA, February.

8）　D. Hasegawa, T. Matsuno, E. Tsutsumi, T.u Senjyu, H. Nakamura, T. Kobari, A. Nishina, N. Yoshie, X. Guo, T. Nagai, T. Tanaka and I. Yasuda（2018）：How a shallow sill cultivates the Kuroshio, Ocean Sciences Meeting 2018, Portland, USA, February.

9）　Guo, X., Wang, Y., Zhang, J., and Zhao, L.,（2018）：Cross-shelf transports of water and nutrients in the East China Sea and their impacts on the primary production. PICES international symposium on“Understanding Changes in Transitional Areas of the Pacific”, La Paz, Mexico, April（invited）.

10）Guo, X., R. Muto and Y. Miyazawa（2018）：Simulation for the Kuroshio in the Last Glacial Maximum, JpGU Meeting 2018, Chiba, Japan, May.

11）Hu, Y., X. Guo and Y. Sasai（2018）：Nutrient supply to the euphotic layer in the Kuroshio and Kuroshio Extension, JpGU Meeting 2018, Chiba, Japan, May.

12）Ito, S., T. Setou, T. Hasegawa, S. Kitajima, A. Takasuka, N, Yoshie, T. Okunishi, M. Takahashi, M. Yoneda, Y. Amano, H. Shojiguchi and S. Guo（2018）：A challenge to evaluate effect of climate change on Japanese anchovy（*Engraulis japonicus*）in the East China Sea IV, Japan Geoscience Union Meeting 2018, Makuhari, Japan, May.

13）郭　新宇・山田彩加（2018）：黒潮内側域における異常水温の発生．日本地球惑星科学連合2018年大会，千葉，5月 .

14）眞野　能・郭　新宇・吉田尚郁・高山勝巳（2018）：富山湾の陸海統合管理を目的とした低次生態系モデルの開発．日本地球惑星科学連合2018年大会，千葉，5月 .

15）Guo, X.,Yu, Y., Gao H., Shi J（2018）：Diurnal forcing induces variations in seasonal temperature and its rectification

mechanism in the eastern shelf seas of China, JpGU Meeting 2018, Chiba, Japan, May.

16）堤　英輔・松野　健・長谷川大介・千手智晴・中村啓彦・郭　新宇（2018）：Flow and turbulence at and downstream of a tall seamount within the Kuroshio. 日本地球惑星科学連合2018年大会，千葉，5月 .

17）酒井秋絵・千手智晴・堤　英輔・松野　健・郭　新宇・安田一郎（2018）：Observation of Internal Waves in Luzon Strait by the repeated XBT surveys. 日本地球惑星科学連合2018年大会，千葉，5月.

18）森本昭彦・浅原寛太・滝川哲太郎（2018）：係留 ADCP 観測による豊後水道の底入り潮に関する研究，日本地球惑星科学連合2018年大会，千葉，5月.

19）加 三千宣・山本正伸・別府湾海底コア研究グループ（2018）：別府湾海底堆積物の魚鱗記録にみられる過去2800年間のイワシ類の長期動態，日本地球惑星科学連合2018年大会，千葉，5月.

20）鈴木克明・加 三千宣・池原　研・村山雅史・新井和乃（2018）：別府湾表層堆積物に残された歴史・観測災害記録の解読，日本地球惑星科学連合2018年大会，千葉，5月.

21）佐川奈緒・日向博文（2018）：広島湾・安芸灘におけるマイクロプラスチックの動態推定，土木学会四国支部第24回技術研究発表会，徳島，5月

22）桝本一成・加 三千宣・日向博文（2018）：別府湾におけるマイクロプラスチックの堆積フラックス，土木学会四国支部第24回技術研究発表会，徳島，5月

23）吉良郁美・日向博文・藤良太郎（2018）：南海トラフ巨大地震津波発生時の紀伊水道周辺海域におけるエネルギーフラックスの時空間変動特性，土木学会四国支部第24回技術研究発表会，徳島，5月

24）尾方浩平・藤良太郎・日向博文（2018）：仮想津波観測実験に基づく海洋レーダによるリアルタイム津波検知性能の検討，土木学会四国支部第24回技術研究発表会，徳島，5月

25）Takikawa, T., Morimoto, A., Kyushima, M., Ichikawa, K., Ito, M., Yufu, K.（2018）：Fortnightly variation of the Tsushima Warm Current on the Continental Shelf of the Southwestern Japan Sea, AOGS 15th Annual Meeting, Singapore, June.

26）吉江直樹・大城一輝・加部晏諒・武田雄大・堤　英輔・小針　統・笹井義一・郭　新宇（2018）：東シナ海におけるサブメソスケール渦が海洋生態系に及ぼす影響，2018年度名古屋大学宇宙地球環境研究所研究集会「東シナ海の物質循環ならびに基礎生産に関わる物理・化学・生物過程」，名古屋，6月.

27）Kohei Ogata, Ryotaro Fuji and Hirofumi Hinata（2018）：Tsunami wave-front detection with oceanographic radar based on virtual tsunami observation experiments, The 4th Ocean Radar Conference for Asia-Pacific, 那覇，6月

28）Yu Toguchi, Satoshi Fujii and Hirofumi Hinata（2018）：Verification of Ocean Radar Tsunami Observation of the 2011 Tohoku Tsunami by Numerical Simulation in Ise Bay and Mikawa Bay, Japan, The 4th Ocean Radar Conference for Asia-Pacific, 那覇，6月.

29）S. SETO, T. TAKAHASHI, H. HINATA, R. FUJI and F. IMAMURA（2018）：Examination for moment magnitude of the small tsunami observable by oceanographic radar installed in Wakayama prefecture, Honolulu, Hawaii, USA, June.

30）森本昭彦・柴野良太・高山勝巳・伊藤　雅・滝川哲太郎（2018）：対馬海峡を通過し日本海へ供給される栄養塩の起源，北海道大学低温科学研究所研究集会：宗谷暖流を始めとした対馬暖流系の変動メカニズム，札幌，7月.

31）滝川哲太郎・森本昭彦・千手智晴（2018）：２つの潮流調和定数の差の評価，北海道大学低温科学研究所研究集会：宗谷暖流を始めとした対馬暖流系の変動メカニズム，札幌，7月.

32）橋本涼介・滝川哲太郎・渡辺俊輝・千手智晴・森本昭彦（2018）：山口県見島周辺海域を通過する対馬暖流沿岸分枝の流量推定，北海道大学低温科学研究所研究集会：宗谷暖流を始めとした対馬暖流系の変動メカニズム，札幌，7月.

33）森本昭彦（2018）：豊後水道の海洋物理現象，愛媛大学沿岸環境科学研究センター研究集会「豊後水道研究会」，愛媛，8月.

34）加 三千宣・山本正伸・別府湾海底コア研究グループ（2018）：別府湾海底堆積物にみられるイワシ類の過去7000年間の個体数変動，日本第四紀学会2018年大会，東京，8月.

35）山本正伸・加 三千宣・入野智久・池原　研・竹村恵二（2018）：別府湾海底堆積物記録からみた過去の気候と洪水イベント，日本第四紀学会2018年大会シンポジウム，東京，8月.

36）Zhang, J., X. Guo and L. Zhao（2018）：Tracing external sources of nutrients in the East China Sea and evaluating their contributions to primary production, 8th China-Japan-Korea IMBeR Symposium in China, Shanghai, China, September.

37）Hu, Y., X. Guo and Y. Sasai（2018）：Nutrient supply to the euphotic layer in the Kuroshio and Kuroshio Extension, The

8th China-Japan-Korea IMBeR Symposium and Training Course, Shanghai, China, September.

38）Guo, X., Y. Wang, L. Zhao and J. Zhang（2018）：Seasonal variations in nutrients and biogenic particles in the upper and lower layers of East China Sea Shelf and their export to adjacent seas, The 8th China-Japan-Korea IMBeR Symposium and Training Course, Shanghai, China, September.

39）島袋寛盛・吉田吾郎・郭　新宇・吉江直樹・村瀬　昇・野田幹雄・清本節夫・門田　立・吉村　拓（2018）：気候変動による水温上昇が瀬戸内海の藻場に及ぼす影響～ RCP シナリオに基づいた将来予測～，平成30年度日本水産学会秋季大会，広島，9月.

40）Yoshie, N., M. Nakagawa, H. Mizuguchi, T. Kanda, E. Tsutsumi, T. Kobari, Y. Sasai and X. Guo（2018）：Responses of lower-trophic level marine ecosystem to various perturbations around Japan, GEOTRACES-Japan International Workshop "BioGEOTRACES Japan begins", Nagasaki, September.

41）HINATA Hirofumi（2018）：Tsunami detection technique using by HF radar, SENSISTEK-2018, Hasanuddin University, Makassar, Indonesia, September.

42）Hirofumi Hinata, Keita Mori, Kazuki Ohno, Yasuyuki Miyao, Tomoya Kataoka（2018）：An estimation of the average residence times and onshore-offshore diffusivities of beached microplastics, ECSA 57, Perth ,Australia, September.

43）Nao Sagawa, Keiyu Kawaai, Hirofumi Hinata（2018）：Size and space distributions of micro plastics in a coastal sea heavily used for aquaculture, ECSA 57, Perth ,Australia, September.

44）石津美穂・宮澤泰正・角田智彦・郭　新宇（2018）：海洋酸性化に係る現況予測モデルの開発Ⅱ，2018年度日本海洋学会秋季大会，東京，9月，講演要旨集，187.

45）松野　健・堤　英輔・遠藤貴洋・酒井秋絵・Yiing-Jang,J.・Sen,J.・郭　新宇（2018）：台湾東方の海嶺を通過する黒潮域で観測された強い鉛直混合，2018年度日本海洋学会秋季大会，東京，9月，講演要旨集，97.

46）堤　英輔・松野　健・千手智晴・遠藤貴洋・長谷川大介・長井健容・中村啓彦・仁科文子・郭　新宇（2018）：トカラ海峡の黒潮－海山相互作用で生じるシア構造と鉛直混合および水塊変質，2018年度日本海洋学会秋季大会，東京，9月，講演要旨集，98.

47）遠藤貴洋・堤　英輔・松野　健・Chang-Su,H.・Gyu-Nam,B.・伊藤母子・Ji,F.・嶋田早希・Jae,H,L.（2018）：東シナ海陸棚縁辺部で観測された内部ソリトン波列，2018年度日本海洋学会秋季大会，東京，9月，講演要旨集，100.

48）神田泰成・郭　新宇・森本昭彦・堤　英輔（2018）：豊後水道の内部潮汐，2018年度日本海洋学会秋季大会，東京，9月，講演要旨集，71.

49）酒井秋絵・千手智晴・松野　健・堤　英輔・安田一郎・柳本大吾・李　根淙・郭　新宇（2018）：ルソン海峡の海嶺直上で観測された高次モードの内部波，2018年度日本海洋学会秋季大会，東京，9月，講演要旨集，72.

50）滝川哲太郎・森本昭彦・千手智晴（2018）：2つの潮流調和定数の差の評価，2018年度日本海洋学会秋季大会，東京，9月，講演要旨集，34.

51）大西　徹・兼田淳史・桂田慶裕・森本昭彦・伊藤　雅（2018）：若狭湾の水温変動と沖合の流動変動の関連性の検討，2018年度日本海洋学会秋季大会，東京，9月，講演要旨集，196.

52）加 三千宣・山本正伸・佐川拓也・池原　研・入野智久・竹村恵二・武岡英隆・杉本隆成（2018）：古海洋・古気候記録にみられる日本周辺のイワシ類の個体数と中緯度古気候指標の数百年規模変動，日本海洋学会2018年秋季大会，東京，9月，講演要旨集，67.

53）Zhang, J., X. Guo and L. Zhao（2018）：Contributions of external sources of nutrients to primary production in the East China Sea, China coastal ocean dynamics and ecological environment symposium, Hangzhou, China, October.

54）吉江直樹・大城一輝・加部晏諒・中川美和・水口隼人・武田雄大・堤　英輔・小針　統・笹井義一・郭　新宇（2018）：貧栄養海域におけるフロント渦や乱流混合が海洋生態系に及ぼす影響，OMIX サマースクール2018，熱海，10月.

55）Yu, X., Guo, X., Morimot, A., Anukul, B（2018）：Simulation of river plume behaviors in a tropical region: Case study of the Upper Gulf of Thailand, The 12th International Conference on the Environmental Management of Enclosed Coastal Seas（EMECS）, Pattaya, Thailand, November.

56）Zhu, J., Guo, X（2018）：Dilution of riverine input contaminants in the Seto Inland Sea, The 12th International Conference on the Environmental Management of Enclosed Coastal Seas（EMECS）, Pattaya, Thailand, November.

57）Morimoto, A., Shibano, R., Takayama, K., Takikawa, T.（2018）：Interannual variability in nutrient transport from the East China Sea to the Japan Sea, The 12th International Conference on the Environmental Management of Enclosed

Coastal Seas（EMECS）, Pattaya, Thailand, November.

58）Komai, Y., Sugimoto, N., Yabuki, Y., Ono, J., Yamamoto, K., Tanaka, S., Ishikawa, Y., Morimoto, A.（2018）：Long-term changes of CODMn in sea area surrounding in Japan, The 12th International Conference on the Environmental Management of Enclosed Coastal Seas（EMECS）, Pattaya, Thailand, November.

59）Leenawarat, D., Buranapratheprat, A., Morimoto, A., Siswanto, E.（2018）：A numerical experiment to investigate the redidence time of water mass in the Gulf of Thailand, The 12th International Conference on the Environmental Management of Enclosed Coastal Seas（EMECS）, Pattaya, Thailand, November.

60）Hayami, Y., Morimoto, A., Sudaryanto, A., Sachoemar, S., Soeyanto, E., Rusdiansyah, A., Mochamad, S., Sato, S.（2018）：The dead zone in Jakarta Bay, The 12th International Conference on the Environmental Management of Enclosed Coastal Seas（EMECS）, Pattaya, Thailand, November.

61）柴野良太・森本昭彦・髙山勝巳・滝川哲太郎・伊藤　雅（2018）：東シナ海～対馬暖流域における低次生態系モデルの構築，東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会：生態系モデルシンポジウム，千葉，11月.

62）柴野良太・森本昭彦・髙山勝巳・滝川哲太郎・伊藤　雅（2018）：対馬海峡を経由し日本海へ供給される栄養塩の年々変動及び生態系への影響，水産海洋学会研究発表大会，千葉，11月.

63）加 三千宣・山本正伸・別府湾堆積物研究プロジェクト・杉本隆成（2018）：過去数千年間の日本マイワシ・カタクチイワシの長期変動，日本水産海洋学会2018年大会，千葉，11月.

64）Yoshie, N., M. Nakagawa, H. Mizuguchi, T. Kanda, L. Mutou, E. Tsutsumi, T. Kobari and X. Guo（2018）：Effects of strong turbulent mixing on phytoplankton around the Tokara strait, PICES 2018 annual meeting, Yokohama, November.

65）Honma, T., T. Kobari, T. Kanayama, F. Karu, N.Yoshie, D. Hasegawa, A. Nishina and H. Nakamura（2018）：Response of plankton standing stocks and productivity to turbulent nitrate flux in the Kuroshio across the Tokara Strait, 2nd International Symposium "Ocean Mixing Processes: Impact on Biogeochemistry, Climate and Ecosystem", Kashiwa, November.

66）Ogi, K., N. Yoshie, A. Kabe, E. Tsutsumi, T. Kobari, T. Kanayama, F. Karu, and T. Honma（2018）：Effects of nutrient enrichment on lower-trophic level ecosystem in the Tokara Strait, 2nd International Symposium "Ocean Mixing Processes: Impact on Biogeochemistry, Climate and Ecosystem", Kashiwa, November.

67）Dong, M., Guo, X（2018）：Temporal and Spatial Variations in Tidal Front Estimated from Satellite Monitored SST Data, 6th Asian / 15th Korea-Japan Workshop on Ocean Color 2018, Yokohama, Japan, December.

68）都倉雄大・滝川哲太郎・森本昭彦・鎌野　忠・秦　一浩（2018）：山口県山陰沿岸定線 ADCP データによる潮流と平均流の推定，2018年度九州沖縄地区合同シンポジウム「日本海研究の現状と今後について」，山口，12月.

69）橋本涼介・滝川哲太郎・渡辺俊輝・千手智晴・森本昭彦（2018）：沿岸水位差から推定した山口県見島周辺海域を通過する対馬暖流沿岸分枝の流量変動，2018年度九州沖縄地区合同シンポジウム「日本海研究の現状と今後について」，山口，12月.

70）吉江直樹・水口隼人・米田道夫・阿保勝之（2018）：瀬戸内海における栄養塩とカタクチ餌料環境の関連性に関する研究，第4回沿岸生態系の評価・予測に関するワークショップ，函館，12月.

71）Yoshie, N., W. Haiyan, X. Guo and Z. Liu（2018）：The age of Yodo River water in the Seto Inland Sea, 第4回海洋環境研究集会，神戸，12月.

化学汚染・毒性解析部門

1）中山翔太・水川葉月・池中良徳・石塚真由美（2018）：ザンビア・カブエ鉱床における鉛汚染問題とその解決に向けた取り組み -KAbwe Mine Pollution Amelioration Initiative（KAMPAI Project），第3回 北大部局間横断シンポジウム，北海道，1月，O-19.

2）落合真理・西田悠輝・澤 修作・岩田秀一・中郡翔太郎・岩田久人（2018）：ハンドウイルカの培養細胞を用いた環境汚染物質の免疫・細胞毒性影響評価，第二回つくみイルカ研究シンポジウム，大分，1月，要旨集 P3-4.

3）Shoji, A., Elliott, K. H., Aris-Brosou, S., Mizukawa, H., Nakayama, S., Ikenaka, Y., Ishizuka, M., Kuwae, T., Watanabe, K. and Watanuki, Y.（2018）：Migratory seabirds are responsible for mercury biotransport from marine to terrestrial ecosystems. The 45th Pacific Seabird Group Annual Meeting, La Paz, Baja California Sur, Mexico, February, Abstracts, 168.

4）野崎一茶・田上瑠美・野見山桂・国末達也・田辺信介・磯部友彦（2018）：医薬品類およびパーソナルケア製

品由来物質（PPCPs）によるアジア途上国の水環境汚染と水生生物への影響評価，日本水環境学会年会，札幌市，3月，講演プログラム・広告集，134.

5） Toyomaki, H., Yabe, J., Nakayama, S. M. M., Yohannes, Y. B., Muzandu, K., Mizukawa, H., Ikenaka, Y., Nakata, H., Kuritani, T., Nakagawa, M. and Ishizuka, M.（2018）：Lead levels in eggs in Kabwe, Zambia: implication of human exposure. Society of Toxicology 57th Annual Meeting and ToxExpo, San Antonio, Texas, USA, March, Abstracts, P531.

6） Takeda, K., Ikenaka, Y., Tanikawa, T., Tanaka, K. D., Nakayama, S. M. M., Mizukawa, H. and Ishizuka, M.（2018）：Novel Mechanism of Rodenticide（warfarin）Resistance of Wild Rats in Tokyo ~ Enhanced Pentose Phosphate Pathway Causes Rapid Metabolism of Warfarin ~. Society of Toxicology 57th Annual Meeting and ToxExpo, San Antonio, Texas, USA, March, Abstracts, P395.

7） 打田茉由果・鈴木一平・石塚真由美・池中良徳・中山翔太・水川葉月・田村　力・坂東武治・小西健志・三谷曜子（2018）：クロミンククジラ未成熟雌のヒゲ板安定同位体比を用いた摂餌履歴推定，平成30年度日本水産学会春季大会，東京，3月，講演要旨集，435.

8） 仲井邦彦・上野大介・水川葉月・長坂洋光・水谷　太・苣木洋一・相場俊樹・大葉　隆・龍田　希・西浜柚季子（2018）：放射能高濃度汚染地区を水源とする河川による水田汚染の状況，第88回日本衛生学会総会，東京，3月，講演集，P2-46.

9） Ito, S., Iida, M., Nguye, T. H., Agusa, T., Hirano, M., Ochiai, M., Kim, E. Y., Iwata, H.（2018）：Hepatic Transcriptome Analysis to Assess the Effects of Prenatal Bisphenol A Exposure on Developing Chicken Embryos, SOT 57th Annual Meeting and ToxExpo, America, March, Abstract Book, 2111.

10） Yoshinouchi, Y., Okuda, H., Hirano, M., Nomiyama, K., Tanabe, S., Kim, E. Y., Iwata, H.（2018）：Molecular Mechanisms Underlying Species Differences in Transactivation Potencies of Seal and Dog Estrogen Receptors by OH-PCBs, SOT 57th Annual Meeting and ToxExpo, America, March, Abstract Book, 3510.

11） Nguyen, H. T., Yamamoto, K., Iida, M., Agusa, T., Hirano, M., Ochiai, M., Kim, E. Y., Iwata, H.（2018）：Transcriptome Analysis Reveals the Mechanism of Transgenerational Effects of Bisphenol A in Rats, SOT 57th Annual Meeting and ToxExpo, America, March, Abstract Book, 1835.

12） Kubota, A., Wakayama, Y., Nakamura, M., Kawai, Y., Yoshinouchi, Y., Iwata, H., Hirano, M., Nakata, H.（2018）：In Silico Prediction and In Vivo Measurement of Estrogen-Like Effects of Bisphenol Analogues in Zebrafish, SOT 57th Annual Meeting and ToxExpo, America, March, Abstract Book, 3328.

13） Guo, J., Ito, S., Nguyen, H. T., Yamamoto, K., Tanoue, R., Kunisue, T., Iwata, H.（2018）：Predicted Adverse Outcome Pathways of Prenatal Exposure to Triclosan in Chicken Embryos, SOT 57th Annual Meeting and ToxExpo, America, March, Abstract Book, 3266.

14） 田中啓介・野見山桂・水川葉月・高口倖暉・田上瑠美・横山　望・市居　修・滝口満喜・中山翔太・池中良徳・石塚真由美・国末達也・田辺信介（2018）：ネコの in vivo BDE209 長期曝露試験による体内動態の解明および甲状腺ホルモンへの影響評，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，1A-03，PA-13.

15） 島﨑真琴・野見山 桂・水川葉月・Saengtienchai, A.・Ngamchirttakul, A.・Pencharee, D.・星野光希・山本恭央・高口倖暉・石塚真由美・池中良徳・中山翔太・国末達也・田辺信介（2018）：タイ王国におけるペットネコ血清およびペットフード中有機ハロゲン化合物と類縁化合物の汚染実態，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，2A-03，PA-14.

16） 粕谷満知子・Tue, N. M.・後藤哲智・田辺信介・国末達也（2018）：CALUX による日本の野生鳥類に残留するダイオキシン類縁化合物の活性評価，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，2A-05，PA-15.

17） 近藤誉充・池中良徳・中山翔太・水川葉月・三谷曜子・田辺信介・野見山桂・石塚真由美（2018）：野生哺乳類における硫酸転移酵素の動物種差解明，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，2A-09，PA-18.

18） 水川葉月・Khidkhan. K.・高口倖暉・横山　望・市居　修・滝口満喜・笹岡一慶・池中良徳・中山翔太・Tsendayush, S.・野見山桂・田辺信介・石塚真由美（2018）：有機ハロゲン化合物曝露によるネコの生化学マーカーの変化および甲状腺機能に及ぼす影響評価，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，2A-10.

19） 野見山桂・江口哲史・西川博之・水川葉月・山本恭央・滝口満喜・中山翔太・池中良徳・石塚真由美・田辺信介（2018）：血清中メタボローム解析によるペットネコ（Felis catus）の有機ハロゲン化合物毒性影響評価，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，2A-11.

20） 小野純華・高口倖暉・田上瑠美・国末達也・田辺信介・野見山桂（2018）：LC-MS/MS を用いた脳中甲状腺ホルモンの高感度分析法の開発，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，2B-02，PA-11.

21）野島由衣・野見山桂・田上瑠美・国末達也・田辺信介（2018）：液体クロマトグラフタンデム質量分析計（LC-MS/MS）を用いた脳中神経伝達物質とその代謝物の分析法開発，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，2B-04，PA-12.

22）後藤哲智・Tue, N. M.・田辺信介・国末達也（2018）：瀬戸内海のイガイに蓄積するハロゲン化アルカロイドの構造解析，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，2B-13，PA-10.

23）向井幸乃・後藤哲智・田代　豊・田辺信介・国末達也（2018）：沖縄県沿岸のカキを用いた有機ハロゲン化合物の汚染モニタリング，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，3A-10，PA-09.

24）田上瑠美・国末達也・向井幸乃・後藤哲智・田代　豊・野見山桂・田辺信介（2018）：沖縄本島南部の河川水における医薬品類およびパーソナルケア製品由来化学物質の存在，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，P-058.

25）国末達也（2018）：沖縄本島における化学物質汚染の現状と課題（招待講演），第27回環境化学討論会（琉球列島セッション），沖縄，5月，プログラム集，101-104.

26）国末達也（2018）：途上国におけるダイオキシン類の汚染研究（受賞講演），第27回環境化学討論会，沖縄，5月，プログラム集，119-122.

27）寳來佐和子・村上翔一・迫田晃弘・中下留美子・国末達也・石森　有（2018）：人形峠における微量元素および放射性核種レベルの実態解明と環境影響評価，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，2C-12.

28）松神秀徳・宇智田奈津代・Nguyen Minh Tue・Le Huu Tuyen・Pham Hung Viet・高橋　真・国末達也・鈴木　剛（2018）：電気電子機器廃棄物の環境上適正な管理に向けた曝露実態調査～ベトナム北部の処理・資源化地域における作業環境及び地産食品の有害物質汚染の実態について～，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，3A-05.

29）田代　豊・後藤哲智・国末達也（2018）：沖縄島中南部地域における環境中 POPs およびダイオキシン類の分布ハブ，マングース，底質分析による汚染探索，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，3A-09.

30）冨岡恵大・渡邊　功・高橋　真（2018）：アクティブ／パッシブエアサンプラーを用いた大気中 PCBs・PBDEs の捕集と動態解析，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，1A-10.

31）高橋　真・Hoang Quoc Anh・後河内里佳・冨岡恵大・渡邊　功・Nguyen Minh Tue・Pham Hung Viet・酒井伸一（2018）：使用済み自動車解体処理現場等における大気中 POPs・PAHs 関連物質の存在と発生源解析，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，3A-06.

32）Anh, H. Q., Tomioka, K., Tue, N. M., Watanabe I., Minh, T. B. and Takahashi, S.（2018）：The occurrence of polychlorinated biphenyls, polybrominated diphenyl ethers and novel brominated flame retardants in road dusts from some areas in northern Vietnam, 第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，2D-08.

33）松神秀徳・宇智田奈津代・Nguyen Minh Tue・Le Huu Tuyen・Pham Hung Viet・高橋　真・国末達也・鈴木　剛（2018）：電気電子機器廃棄物の環境上適正な管理に向けた曝露実態調査～ベトナム北部の処理・資源化地域における作業環境及び地産食品の有害物質汚染の実態について～，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，3A-05.

34）向井康太・藤森　崇・Hoang Quoc Anh・福谷　哲・高橋　真（2018）：分子量で分画した様々な媒体における抽出可能性有機塩素・臭素，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，3A-01，PA-05.

35）池中良徳・一瀬貴大・ニマコ コリンズ・市川　剛・水川葉月・中山翔太・有薗幸司・石塚真由美（2018）：ネオニコチノイド系殺虫剤のヒト健康影響評価問題点の整理と今後の研究課題，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，1C-16.

36）Nimako, C., Ikenaka, Y., Akoto, O., Bortey-Sam, N., Nakayama, S., Mizukawa, H. and Ishizuka M.（2018）：Evaluation of Neonicotinoid Insecticide exposure in humans living in the Kumasi city, Ghana, 第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，1D-02，PA-20.

37）Thompson，L., Vincent，I., Ikenaka，Y., Weidt，S., Darwish，W., Nakayama，S., Mizukawa，H. and Ishizuka, M.（2018）：Analysis of the amino acid metabolome in p,p’-DDT exposed chickens, 第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，1D-03.

38）Yohannes, Y. B., Nakayama, S., Yabe, J., Nakata, H., Toyomaki, H., Muzandu, K., Kataba, A., Ikenaka, Y., Mizukawa, H., Dowling, R., Caravanos, J. and Ishizuka, M.（2018）：Blood Lead Levels Among the General Population in Kabwe, Zambi, 第27回環境化学討論会，沖縄県，5月，講演要旨集，1D-09.

39）Kataba, A., Nakayama, S., Yohannes, Y. B., Toyomaki, H., Mizukawa, H., Ikenaka, Y. and Ishizuka M.（2018）：Lead（Pb）

accumulation in tissues of Sprague Dawley（SD）rats following sub chronic Lead-Zinc exposure, 第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，1D-10.

40）Nakata, H., Nakayama, S., Yabe, J., Liazambi, A., Mizukawa, H., Darwish, W., Ikenaka, Y. and Ishizuka M.（2018）：Utility of Pb isotopes for source identification and species differences of Pb isotope biological fractionation, 第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，1D-11.

41）池中良徳・リサ トンプソン・ダルウィッシュ ワギ・ヨハネス ヤレド・ファンファーレン ヨハン・スミッツニコ・ヴェペナー ヴィクター・中山翔太・水川葉月・石塚真由美（2018）：マラリアベクターコントロールにおける DDT の使用実態とリスク評価，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，2A-04.

42）近藤誉充・池中良徳・中山翔太・水川葉月・三谷曜子・田辺信介・野見山 桂・石塚真由美（2018）：野生哺乳類における硫酸転移酵素の動物種差解明，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，2A-09，PA-18.

43）水川葉月・Khidkhan. K.・高口倖暉・横山　望・市居　修・滝口満喜・笹岡一慶・池中良徳・中山翔太・Tsendayush, S.・野見山桂・田辺信介・石塚真由美（2018）：有機ハロゲン化合物曝露によるネコの生化学マーカーの変化および甲状腺機能に及ぼす影響評価，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，2A-10.

44）武田一貴・池中良徳・田中和之・中山翔太・谷川　力・水川葉月・石塚真由美（2018）：HPLC-APCI-MS を用いたビタミン K の網羅的検出と *in vitro* ビタミン K エポキシド還元酵素活性の評価，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，2B-01，PA-22.

45）Khidkhan, K., Mizukawa, H., Nomiyama, K., Ikenaka, Y., Nakayama, S., Yokoyama, N., Ichii, O., Takiguchi, M., Nishikawa, H., Tanaka, K., Takiguchi, K., Tanabe, S. and Ishizuka, M.（2018）：Characteristics of CYP450 expression in cat exposed PCBs: Estimating the potential toxicity, 第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，2D-07，PA-16.

46）銅谷理緒・中山翔太・中田北斗・豊巻治也・John, Y.・Kaampwe, M.・Yared, B.・Andrew, K.・Golden, Z.・水川葉月・池中良徳・石塚真由美（2018）：鉛鉱床地域における野生トカゲ亜目の生体内金属類濃度に影響を与える環境要因の解析，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，3C-05，PA-53.

47）豊巻治也・John, Y.・中山翔太・Yared, B.・水川葉月・池中良徳・中田北斗・石塚真由美（2018）：GPS 装置を用いた鉛鉱床地域のイヌの行動のモニタリングと鉛曝露の関係性，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，3C-06，PA-54.

48）中山翔太・豊巻治也・John Yabe・Kaampwe Muzandu・中田北斗・栗谷　豪・中川光弘・水川葉月・池中良徳・石塚真由美（2018）：非侵襲的に採取可能な乳幼児の糞便における鉛安定同位体比を用いた鉛暴露経路の推定，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，3C-08.

49）一瀬貴大・池中良徳・Saengtienchai, A.・中山翔太・水川葉月・石塚真由美（2018）：誘導体化 LC/MS/MS 法による血漿中のステロイドホルモンおよびその抱合体代謝物35種類の一斉分析法の開発とその応用，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，講演要旨集，P-086.

50）仲山　慶・磯部友彦・宇野誠一・大野暢亮・半藤逸樹・国末達也（2018）：環境中の化学物質濃度情報を管理するプラットフォーム「ChemTHEATRE」の機能拡張とメタデータ利活用の基盤整備，第27回環境化学討論会，沖縄，5月，要旨集9，p63.

51）Nakata, H., Nakayama, S., Yabe, J., Muzandu, K., Yohannes, Y., Toyomaki, H., Kataba, A., Zyambo, G., Mizukawa, H., Ikenaka, Y., Dowling, R., Caravanos, J. and Ishizuka M.（2018）：The trend of elevated blood lead levels in mining area, Kabwe, Zambia, 日本アフリカ学会第55回学術大会，北海道，5月，26.

52）Tue, N. M., Matsushita, T., Goto, A., Itai, T., Asante, K. A., Tanabe, S. and Kunisue, T.（2018）：Thermally produced derivatives of halogenated flame retardants in soils from e-waste dismantling and burning areas. Brominated Flame Retardant Workshop 2018（BFR 2018）, Ontario, Canada, May, Program Book, 55.

53）後藤哲智・Tue, N. M.・田辺信介・国末達也（2018）：GC × GC–ToFMS による天然有機ハロゲン化合物の網羅的スクリーニング，第66回質量分析総合討論会，大阪，5月，講演プログラム，2P-11.

54）Ishibashi, H., Takaichi, D., Takeuchi, I.（2018）：Transcriptome analysis to assess coral bleaching induced by Irgarol 1051, The 2nd International Workshop on Eco-shoreline Designs for Sustainable Coastal Development, Pokfulam, Hong Kong SAR, China, May.

55）須之内朋哉・後藤哲智・落合真理・田島木綿子・山田　格・田辺信介・国末達也（2018）：鯨類の脂皮に蓄積する有機ハロゲン化合物のプロファイル解析，日本セトロジー研究会第29回福岡大会，福岡，6月，発表要旨集，17.

56）川邊　陸・後藤哲智・落合真理・山田　格・田島木綿子・天野雅男・田辺信介・国末達也（2018）：瀬戸内海および大村湾のスナメリにおける有機ハロゲン化合物汚染と経年変化，日本セトロジー研究会第29回福岡大会，福岡，6月，発表要旨集，20.

57）落合真理・西田　伸・田島木綿子・山田　格・柏木伸幸・国末達也・岩田久人（2018）：種子島に集団座礁したシワハイルカの汚染物質濃度とリスク評価，第29回日本セトロジー研究会，福岡，6月．P-03.

58）栗原大樹・田島木綿子・落合真理・會津光博・山田　格・西田　伸（2018）：種子島に集団座礁したシワハイルカの遺伝的解析，第29回日本セトロジー研究会，福岡，6月．O-04.

59）国末達也（2018）：レポーター遺伝子アッセイ法による野生生物の組織残留性 AhR アゴニストの活性評価（招待講演），生物化学的測定研究会 第23回学術集会，東京，6月，講演要旨集，7-11.

60）Sasaoka, K., Ohta, H., Mizukawa, H., Nakayama, S., Sasaki, N., Morishita, K., Ikenaka, Y., Ishizuka, M. and Takiguchi, M.（2018）：Trace Elemental Profiles of Serum and Cerebrospinal Fluid in Dogs with Idiopathic Epilepsy, 2018 ACVIM Forum（American College of Veterinary Internal Medicine）, Washington, USA, June, Abstracts, 433.

61）高口倖暉・野見山桂・西川博之・水川葉月・田上瑠美・草木桃子・横山　望・市居　修・滝口満喜・中山翔太・池中良徳・石塚真由美・岩田久人・国末達也・田辺信介（2018）：ポリ塩化ビフェニル曝露によるイヌ・ネコの甲状腺ホルモン恒常性への影響，第45回日本毒性学会学術年会，大阪，7月，プログラム・要旨集，S-245.

62）中山翔太・Yabe, J.・池中良徳・Muzandu, K.・Choongo, K.・中田北斗・豊巻治也・Yohannes, Y.・Kataba, A.・Zyambo, G.・栗谷豪・中川光弘・水川葉月・石塚真由美（2018）：ザンビア共和国カブウェ鉱床地域における鉛汚染問題：10年間の研究結果と今後の課題，第45回日本毒性学会学術年会，大阪，7月，プログラム・要旨集，P-35.

63）近藤誉充・池中良徳・中山翔太・水川葉月・三谷曜子・田辺信介・野見山桂・石塚真由美（2018）：食肉目動物での第 II 相抱合酵素の遺伝的性状および酵素学的性状の解明，第45回日本毒性学会学術年会，大阪，7月，プログラム・要旨集，P-60.

64）武田一貴・池中良徳・田中和之・中山翔太・谷川　力・水川葉月・石塚真由美（2018）：スーパーラットは何が「スーパー」なのか？ ～東京の殺鼠剤抵抗性クマネズミにおける抵抗性獲得機序の探索～，第45回日本毒性学会学術年会，大阪，7月，プログラム・要旨集，P-72.

65）Kanda, K., Ito, S., Koh, D. H., Kim, E. Y., Iwata, H.（2018）：IN SITU OBSERVATIN OF CHICKEN EMBRYOS TREATED WITH TRIS（2-CHLOROETHYL） PHOSPHATE（TCEP）IN THE SHELL-LESS INCUBATION SYSTEM, SETAC Japan 2018年会 , 東京 , 7月 , 要旨集6.

66）川口将史・山本直之・松本浩司・仲山　慶・萩尾華子・柴田淳也・曽我部篤・川西亮太・和泉宏謙・赤染康久・須藤文和・村上安則・一條裕之（2018）：ヨシノボリ属の種分化を促す神経基盤の解析，第41回日本神経科学大会，神戸，7月 .

67）Nakayama, K., Isobe, T., Uno, S., Handoh, IC., Ohno, N., Kunisue, T.（2018）：Introduction to ChemTHEATRE: a platform to utilize the published or public data of environmental monitoring，Water and Environment Technology Conference 2018（WET2018）, Matsuyama, Japan, July.

68）Mizukawa, H.（2018）：Organohalogens metabolic capacities and their toxicological risk in cats, MiSSE（Mixture assessment of endocrine disrupting compounds）Project Final Conference2018, Stockholm, Sweden, August, Programme, 4.

69）Kasuya, M., Tue, N. M., Goto, A., Tanabe, S. and Kunisue, T.（2018）：AhR agonists in Japanese wild birds evaluated by chemical analysis and bioassays. 38th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants（DIOXIN 2018）, Kraków, Poland, August, Program, 001（page 79）.

70）Kunisue, T., Egashira, K., Isobe, T., Nakayama, K., Matsuishi, T., Tajima, Y., Yamada, T. K. and Tanabe, S.（2018）：Temporal trend analyses of POPs in three toothed whale species stranded along the Japanese coastal waters: importance of samples and data stored in es-BANK and ChemTHEATRE. 38th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants（DIOXIN 2018）, Kraków, Poland, August, Program, 056（page 83）.

71）Wannomai, T., Matsukami, H., Uchida, N., Takahashi, F., Le, H. T., Pham, H. V., Takahashi, S., Kunisue, T. and Suzuki, G.（2018）：Bioaccessible flame retardants in dusts from e-waste-processing workshops in northern Vietnam. 38th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants（DIOXIN 2018）, Kraków, Poland, August, Program, 067（page 83）.

72）Mizukawa, H., Khidkhan, K., Ikenaka, Y., Nakayama, S. M. M., Nomiyama, K., Yokoyama, N., Ichii, O., Takiguchi, M.,

Tsend-ayush, S., Tanabe, S and Ishizuka, M.（2018）：Effects of polychlorinated biphenyls（PCBs）in cats: Exhaustive gene expression analysis approach. 38th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants（DIOXIN 2018）, Kraków, Poland, August, Program, 097（page 86）.

73）Shimasaki, M., Nomiyama, K., Mizukawa, H., Saengtienchai, A., Ngamchirttakul, A., Pencharee, D., Ikenaka, Y., Nakayama, S., Kunisue, T. and Tanabe, S.（2018）：Contamination status and global comparison of organohalogen compounds and their related compounds in the pet cats in Thailand. 38th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants（DIOXIN 2018）, Kraków, Poland, August, Program, 098（page 86）.

74）Mukai, Y., Goto, A., Tashiro, Y., Tanabe, S. and Kunisue T.（2018）：Coastal monitoring of organohalogen compounds using oysters from Okinawa island, Japan. 38th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants（DIOXIN 2018）, Kraków, Poland, August, Program, 132（page 88）.

75）Khidkhan, K., Mizukawa, H., Ikenaka, T., Nakayama, S., Darwish, W.S., Nomiyama, K., Takiguchi, M., Yokoyama, N., Ichii, O., Tanabe, S. and Ishizuka, M.（2018）：Tissue distribution and CYP expression related-PCBs exposure in cats. 38th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants（DIOXIN 2018）, Kraków, Poland, August, Program,（page 123）.

76）Nomiyama, K., Eguchi, A., Mizukawa, H., Yamamoto, Y., Nishikawa, H., Takiguchi, M., Nakayama, S., Ikenaka, Y., Isizuka, M. and Tanabe, S.（2018）：Pilot study on the toxicological assessment of organohalogen compounds in pet cat（*Felis catus*）serum using metabolomics approach. 38th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants（DIOXIN 2018）, Kraków, Poland, August, Program,（page 124）.

77）Tamura, S., Agusa, T., Hirano, M., Eguchi, A., Nomiyama, K., Li, L., Kannan, K., Tanabe, S., Kim, E. Y. and Iwata, H.（2018）：PCBs as an environmental obesogen in dogs: evidence from hepatic transcriptome, metabolome, and lipidome analyses. 38th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants（DIOXIN 2018）, Kraków, Poland, August, Program,（page 124）.

78）Yoshinouchi, Y., Hirano, M., Nakata, H., Nomiyama, K., Tanabe, S., Kim, E. Y. and Iwata, H.（2018）：In vitro and in silico approaches for assessing the activation of Baikal seal estrogen receptors by bisphenols and OH-PCBs. 38th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants（DIOXIN 2018）, Kraków, Poland, August, Program,（page 126）.

79）Kubota, A., Wakayama, Y., Lee, J. S., Nakamura, M., Kawai, Y., Yoshinouchi, Y., Iwata, H., Hirano, M., Nakata, H.（2018）：Evaluating estrogenic and anti-estrogenic potency of bisphenol A analogues in vivo and in silico using zebrafish, Dioxin2018, Poland, August, Abstract Book, 74.

80）Koh, D. H., Song, W. S., Hwang, J. H., Iwata, H., Kim, E. Y.（2018）：Develop of in silico computational method for seeking the PPAR γ ligand, Dioxin2018, Poland, August, Abstract Book, 92.

81）Arizono, K., Uchida, M., Fukushima, S., Ishibashi, H., Tominaga, N.（2018）：Nanosecond pulsed electric field incorporation technique to predict teratogenicity and toxicity of equine estrogens on medaka embryos. 38th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants（DIOXIN 2018）& 10th International PCB Workshop, Krakow, Poland, August, Program Book, 84.

82）石井千尋・池中良徳・中山翔太・齊藤慶輔・渡辺有希子・小笠原浩平・水川葉月・石塚真由美（2018）：国内に生息する野生鳥類における鉛曝露状況の解明，第24回日本野生動物医学会大会，大阪，8月 ~9月，講演要旨集，P-14.

83）中山翔太・池中良徳・石井千尋・水川葉月・川合佑典・平野なぎ沙・齊藤慶輔・渡邊有希子・大澤夏生・伊藤真輝・中村亮平・石塚真由美（2018）：PCR 法による鳥類の雌雄判定：孵化前雌雄判定の試みとその課題，第24回日本野生動物医学会大会，大阪，8月～9月，講演要旨集，P-38.

84）中山翔太・森田鮎子・池中良徳・石井千尋・水川葉月・武田一貴・川合佑典・齊藤慶輔・渡邊有希子・大澤夏生・伊藤真輝・石塚真由美（2018）：殺鼠剤に弱い野生動物種を探る：標的分子ビタミン K エポキシド還元酵素（VKOR）の鳥類における特徴および種差，第24回日本野生動物医学会大会，大阪，8月～9月，講演要旨集，P-50.

85）近藤誉充・池中良徳・中山翔太・水川葉月・三谷曜子・田辺信介・野見山桂・石塚真由美（2018）：鰭脚類を中心とした食肉目の薬物代謝酵素である硫酸転移酵素の種差解明，第24回日本野生動物医学会大会，大阪，8月～9月，講演要旨集，P-51.

86）寳來佐和子・村上翔一・迫田晃弘・中下留美子・国末達也・石森　有（2018）：人形峠における微量元素およ

び放射性核種レベルの汚染実態と環境影響評価，第21回日本水環境学会シンポジウム，松江市，9月，講演集，219.

87）野崎一茶・田上瑠美・野見山桂・国末達也・田辺信介（2018）：医薬品類およびパーソナルケア製品由来化学物質（PPCPs）による水圏生態系の汚染実態，第21回日本水環境学会シンポジウム，松江市，9月，講演集，222.

88）小川雄平・Tue, N. M.・後藤哲智・Subramanian, An.・Parthasarathy, P.・Bulbule, K. A.・田辺信介・国末達也（2018）：インド e-waste 処理場の作業環境における難燃剤汚染と労働者への曝露評価，第29回廃棄物資源循環学会研究発表会，名古屋市，9月，要旨集，519-520.

89）Isobe, T., Tanabe, S., Kunisue, T.（2018）：Lessons from legacy approach of biological passive sampling – POP chemicals in mussels from Asian coastal waters –. SETAC AP 2018, Daegu, Korea, September, Program O5-1.

90）三津橋嵩史・池中良徳・一瀬貴大・Saengtienchai, A.・中山翔太・水川葉月・河合正人・南保泰雄・石塚真由美（2018）：誘導体化液体クロマトグラフィー質量分析法（LC/MS 法）によるエクイリン・エクイレニンを中心とするステロイドホルモン多成分一斉分析メソッドの開発及びその応用，第161回日本獣医学会学術集会，茨城県，9月，講演要旨集，JO-25.

91）佐野花澄・池中良徳・近藤誉充・川合佑典・中山翔太・水川葉月・石塚真由美（2018）：グルクロン酸転移酵素 UGT1A6と哺乳類の食性の関係，第161回日本獣医学会学術集会，茨城県，9月，講演要旨集，JO-34.

92）山田尚輝・中山翔太・水川葉月・小笠原浩平・渡邊有希子・齊藤慶輔・伊藤真輝・大澤夏生・竹中康進・小松謙之・千葉　茜・内田義崇・池中良徳・石塚真由美（2018）：オジロワシを中心とした鳥類の食性による腸内細菌叢変動と影響の解析，第161回日本獣医学会学術集会，茨城県，9月，講演要旨集，JO-35.

93）Takeda, K., Ikenaka, Y., Tanaka, K. D., Nakayama, S., Tanikawa, T., Mizukawa, H. and Ishizuka, M.（2018）：Assessment of vitamin K epoxide reductase by in vitro kinetic analysis & in silico docking simulation for evaluation of rodenticide sensitivity. The 6th Sapporo Summer Symposium for One Health（6th SaSSOH）, Hokkaido, September, Program, PI-12.

94）Khidkan, K., Mizukawa, H., Ikenaka, Y., Nakayama, S., Darwish, W. S., Nomiyama, K., Takiguchi, M., Yokoyama, N., Ichii, O., Tanabe, S. and Ishizuka, M.（2018）：Charcterization of CYP expression in cat-related PCBs exposure. The 6th Sapporo Summer Symposium for One Health（6th SaSSOH）, Hokkaido, September, Program, PII-9.

95）Nimako, C., Ikenaka, Y., Akoto, O., Bortey-Sam, N., Nakayama, S., Mizukawa, H. and Ishizuka, M.（2018）：Evaluation of Exposure and Toxicological Implications of Neonicotinoid Insecticides among the residents of Kumasi, Ghana. The 6th Sapporo Summer Symposium for One Health（6th SaSSOH）, Hokkaido, September, Program, PII-11.

96）Yohannes, Y. B., Nakayama, S., Yabe, J., Haruya, T., Muzandu, K., Nakata, H., Mizukawa, H., Ikenaka, Y. and Ishizuka, M.（2018）：DNA Methylation Biomarkers in Environmental Lead-Exposed Children from Kabwe, Zambia. The 6th Sapporo Summer Symposium for One Health（6th SaSSOH）, Hokkaido, September, Program, PI-11.

97）Kataba, A., Nakayama, S., Yohannes, Y. B., Toyomaki, H., Mizukawa, H., Ikenaka, Y. and Ishizuka, M.（2018）：Effects of zinc co-administration with lead（Pb）on Pb biodistribution in tissues of Sprague Dawley（SD）rats. The 6th Sapporo Summer Symposium for One Health（6th SaSSOH）, Hokkaido, September, Program, PI-10.

98）Toyomaki, H., Yabe, J., Nakayama, S., Yohannes, Y. B., Muzandu, K., Mizukawa, H., Ikenaka, Y., Nakata, H. and Ishizuka, M.（2018）：Does dog’s behavior affect the blood lead levels in domestic dogs around lead mining area, Kabwe, Zambia?. The 6th Sapporo Summer Symposium for One Health（6th SaSSOH）, Hokkaido, September, Program, O-12.

99）Doya, R., Nakayama, S., Nakata, H., Toyomaki, H., Yabe, J., Muzandu, K., Yohannes, Y. B., Kataba, A., Zyambo, G., Uchida, Y., Mizukawa, H., Ikenaka Y. and Ishizuka, M.（2018）：Vegetation status and suppression of Pb accumulation in wild lizards around Pb-Zn mine in Kabwe, Zambia. The 6th Sapporo Summer Symposium for One Health（6th SaSSOH）, Hokkaido, September, Program, PII-10.

100）Kondo, T., Ikenaka, Y., Nakayama, S., Mizukawa, H., Mitani, Y., Nomiyama, K., Tanabe, T. and Ishizuka, M.（2018）：Inter-species differences of phase II xenobiotics metabolism enzymes in carnivorans. The 6th Sapporo Summer Symposium for One Health（6th SaSSOH）, Hokkaido, September, Program, O-11.

101）Ochiai, M., Kurihara, N., Matsuda, A., Nakagun, S., Shiozaki, A., Nakata, A., Matsuishi, T., Kunisue, T., Iwata, H.（2018）：In vitro cytotoxicity assessments of persistent organic pollutants using cetacean fibroblasts, EUROTOX2018, Belgium, September, Abstract Book, P07-06.

102）Yoshinouchi Y, Hirano M, Nakata H, Nomiyama K, Tanabe S, Kim E-Y, Iwata H.（2018）：Structure-activity relationships

of Baikal seal estrogen receptors and environmental phenols, EUROTOX2018, Belgium, September, Abstract Book, P08-07.

103）Ito, S., Iida, M., Nguyen, H.T., Agusa, T., Hirano, M., Ochiai M., Kim, E-Y., Iwata, H.（2018）：Effect of prenatal bisphenol a exposure on the hepatic transcriptome in chicken embryos: understanding of sexspecific effects, SETAC AP 2018, Korea, September, Abstract Book, O1-2.

104）Kanerva, M., Nguyen, M. T., Kunisue, T., Amvuori, K., Iwata, H.（2018）：Differences in POPs and transcriptomes of wild and hatchery-reared baltic salmons, SETAC AP 2018, Korea, September, Abstract Book, O1-3.

105）Bak, S. M., Nakata, H., Koh, D. H., Yoo, J., Iwata, H., Kim, E. Y.（2018）：In vitro and in silico ahr assays for assessing the risk of heavy oilcontaminated marine fish, SETAC AP 2018, Korea, September, Abstract Book, O1-4.

106）Hwang, J. H., Kannan, K., Evans, T. J., Iwata, H., Kim, E. Y.（2018）：Evaluation of sensitivity of dioxin related chemicals to polar bear［ursus maritimus］AHR, SETAC AP 2018, Korea, September, Abstract Book, O16-4.

107）Kanda, K., Ito, S., Koh, D. H., Kim, E. Y., Iwata, H.（2018）：Effects of exposure to tris［2-chloroethyl］phosphate［tcep］on chicken embryos in the shell-less incubation system, SETAC AP 2018, Korea, September, Abstract Book, P1-99.

108）Park, J. G., Nomura, K., Iwata, H., Kim, E. Y.（2018）：Characterization of the hepatic transcriptome in chicken AHR2 transgenic mice, SETAC AP 2018, Korea, Septembert, Abstract Book, P2-63.

109）Rosal, J. J., Tsuchiya, M. C., Agusa, T., Hirano, M., Iwata, H.（2018）：Hepatic proteome profiling in cane toad［rhinella marina］from the Philippines, SETAC AP 2018, Korea, September, Abstract Book, P2-64.

110）仲山　慶・北村真一（2018）：病原体に対する感受性の変化をエンドポイントとした免疫毒性の評価～最近の動向～，第24回日本環境毒性学会研究発表会，岐阜，9月，要旨集2P-1，p32.

111）仲山　慶・磯部友彦・宇野誠一・半藤逸樹・大野暢亮・国末達也（2018）：化学物質の環境モニタリング情報に関連するオープンデータの活用基盤（ChemTHEATRE）の構築，第24回日本環境毒性学会研究発表会，岐阜，9月．

112）Isobe, T., Nakayama, K., Uno, S., Handoh, IC., Ohno, N., Kunisue, T.（2018）：ChemTHEATRE: Opendata platform for environmental monitoring of POPs and other contaminants, 11th SETAC Asia-Pacific Meeting, Daegu, South Korea, September.

113）福島　聡・広田菜々・平野将司・石橋弘志・有薗幸司（2018）：4-ノニルフェノール異性体の in silico 解析，第24回日本環境毒性学会研究発表会，岐阜，9月．

114）Goto, A., Tue, N. M., Tanabe, S. and Kunisue, T.（2018）：Target screening for potential dioxin-like compounds in Japanese bivalves using GCxGC–TOFMS. The 18th International Conference on Harmful Algae（ICHA2018）, Nantes, France, October, Abstract book,（page 608）.

115）Nakayama, S., Morita, A., Ikenaka, Y., Kawai, Y., Takeda, K., Mizukawa, H., Ishii, C., Saito, K., Watanabe, Y., Ito, M., Ohsawa, N. and Ishizuka, M.（2018）：Avian interspecific differences in VKOR activity and inhibition: Amino acid sequence and mRNA expression ratio of VKORC1 and VKORC1L1. 2018 International Meeting on 22nd MDO and 33rd JSSX, Kanazawa, October, Program & Abstracts, P-280.

116）仲山　慶・林　彬勒・磯部友彦・宇野誠一・半藤逸樹・大野暢亮・国末達也（2018）：化学物質の環境リスク評価・リスクコミュニケーションのための公共データの活用および ChemTHEATRE と AIST-MeRAM の統合利用，トーゴーの日シンポジウム2018～バイオデータベース：つないで使う～，東京，10月，要旨集45，p38.

117）Takeuchi, I., Kamei, M., Takayama, K., Ishibashi, H.（2018）：Effects of ambient levels of Irgarol 1051 in tropical coastal seawater on the hard coral Acropora tenuis. 6th Symposium on What's in Our Water（WiOW2018）, Canberra, Australia, October-November.

118）Nojima, Y., Tanoue, R., Kunisue, T., Tanabe, S. and Nomiyama, K.（2018）：Simultaneous determination of neurotransmitters and their precursors/metabolites in animal brain tissue. SETAC North America 39th Annual Meeting, Sacramento, CA, USA, November, Abstracts, 235.

119）Takaguchi, K., Nishikawa, H., Mizukawa, H., Tanoue, R., Yokoyama, N., Ichii, O., Takiguchi, M., Nakayama, S. M., Ikenaka, Y., Kunisue, T., Ishizuka, M., Tanabe, S., Iwata, H. and Nomiyama, K.（2018）：Effects of PCB exposure on thyroid hormone levels in serum of dogs and cats. SETAC North America 39th Annual Meeting, Sacramento, CA, USA, November, Abstracts, 265.

120）Nakayama, S., Yabe, J., Toyomaki, H., Muzandu, K., Yohannes, Y. B., Nakata, H., Ikenaka, Y., Mizukawa, H., Kuritani, T., Nakagawa, M. and Ishizuka, M.（2018）：Blood Lead（Pb）Levels and Stable Isotope Ratio among Children, Infants and

Mothers in Kabwe, Zambia. SETAC North America 39th Annual Meeting, Sacramento, CA, USA, November, Abstracts, WP013.

121）Shouta M. M. Nakayama, S., Morita A., Ikenaka, Y., Yusuke K. Kawai, K., Takeda, A., Mizukawa, H., Ishii, C., Saito. K., Watanabe, Y., Ito, M., Ohsawa, N. and Ishizuka, M.（2018）：Avian interspecific differences in rodenticide sensitivity: amino acid sequence and mRNA expression ratio of VKORC1 and VKORC1L1. SETAC North America 39th Annual Meeting, Sacramento, CA, USA, November, Abstracts, 197.

122）Takaguchi, K., Nishikawa, H., Mizukawa, H., Tanoue, R., Yokoyama, N., Ichii, O., Takiguchi, M., Nakayama, S. M., Ikenaka, Y., Kunisue, T., Ishizuka, M., Tanabe, S., Iwata, H. and Nomiyama, K.（2018）：Effects of PCB exposure on thyroid hormone levels in serum of dogs and cats. SETAC North America 39th Annual Meeting, Sacramento, CA, USA, November, Abstracts, MP257.

123）Uno, S., Kawano, M., Isobe, T., Handoh, IC., Ohno, N., Kunisue, T., Nakayama, K.（2018）：Monitoring of PAHs in shellfish after oil spill from the Sanchi tanker; comparison of polluted conditions with other spill accident using ChemTHEATRE, SETAC North America 39th Annual Meeting, Sacramento, CA, USA, November, Program, WP220（page395）.

124）Handoh, IC., Kawai, T., Isobe, T., Ohno, N., Uno, S., Kunisue, T., Nakayama, K.（2018）：Bayesian uncertainties analysis of modelled chemical exposure of global fish community: How can ChemTHEATRE improve the performance of FATE?, SETAC North America 39th Annual Meeting, Sacramento, CA, USA, November, Program, 226（page66）.

125）Nakayama, K., Lin, B., Isobe, T., Uno, S., Handoh, IC., Ohno, N., Kunisue, T.（2018）：ChemTHEATRE, a platform to browse the published or public data of environmental monitoring and its use for risk assessment, SETAC North America 39th Annual Meeting, Sacramento, CA, USA, November, Program, MP151（page26）.

126）Moeller, A., Song, JY., Nakayama, A., Nakayama, K., Kitamura, SI., Segner, H.（2018）：The arylhydrocarbon receptor（AhR）— a mediator of immunotoxicity in fish? AhR-signaling in immune and liver cells of rainbow trout, SETAC North America 39th Annual Meeting, Sacramento, CA, USA, November, Program, 68（page24）.

127）Nakayama, K., Kitamura, SI.（2018）：Proposed minimum requirements for the immunotoxicity test to assess chemically induced alteration of susceptibility to pathogen in fish, SETAC North America 39th Annual Meeting, Sacramento, CA, USA, November, Program, 67（page20）.

128）竹内一郎・高市大輔・勝又政和・石橋弘志（2018）：イルガロール1051に曝露したウスエダミドリイシの体色及びクロロフィル遅延発光の長期変動，日本サンゴ礁学会第21回大会，沖縄，11月，要旨集，O-23.

129）Arizono, K., Uchida, M., Fukushima, S., Ishibashi, H., Tominaga, N.（2018）：Nanosecond pulsed electric field incorporation technique to predict teratogenicity and toxicity of equine estrogens on medaka embryos. SETAC North America 39th Annual Meeting, Sacramento, California, November, Abstract Book, MP141.

130）Mizukawa, H., Iwata, H., Ngyuen, H. T., Tamura, S., Ikenaka, Y., Nakayama, S. M.M., Nomiyama, K., Ishizuka, M.（2018）：Comparison of effects on comprehensive gene expression by PCBs exposure in Cats and Dogs. 2nd Chemical Hazard Symposium, Matsuyama, Japan, December, Abstracts, 17.

131）Mukai, K., Fujimori, T., Anh, H. Q., Fukutani, S., Kunisue, T., Nomiyama, K., Takahashi, S.（2018）：Characterization of Extractable Organohalogens（EOX）in Biological Samples. 2nd Chemical Hazard Symposium, Matsuyama, Japan, December, Abstracts, 20-23.

132）Khidkhan, K., Mizukawa, H., Ikenaka, Y., Nakayama, S. M. M., Nomiyama, K., Darwish, W.S., Ichii, O., Yokoyama, N., Takiguchi, M., Tanabe, S., Ishizuka, M.（2018）：Characterization of CYP genes related-PCBs exposure in cats. 2nd Chemical Hazard Symposium, Matsuyama, Japan, December, Abstracts, 26-29.

133）Tue, N. M., Matsukami, H., Tuyen, L.H., Takahashi, S., Suzuki, G., Viet, P. H., Subramanian, A., Tanabe, S., Kunisue, T.（2018）：Hormone disruptors in river water fromAsian developing countries: Activity levels and major compounds. 2nd Chemical Hazard Symposium, Matsuyama, Japan, December, Abstracts, 30.

134）Takaguchi, K., Tanoue, R., Iwata, H., Kunisue, T., Tanabe, S., Nomiyama, K.（2018）：Polychlorinated biphenyl exposure increased thyroid hormone excretion in dogs. 2nd Chemical Hazard Symposium, Matsuyama, Japan, December, Abstracts, 33.

135）Nimako, C., Ikenaka, Y., Akoto, O., Bortey-Sam, N., Nakayama, S., Mizukawa, H. and Ishizuka, M.（2018）：Uncertainties Associated with Neonicotinoid Insecticide`s Safety Thresholds and the Potential Ramifications on Human Health: A Case Study of Ghana, 2nd Chemical Hazard Symposium, Matsuyama, Japan, December, Abstracts, 11.

136）Toyomaki, H., Nakayama, S., Yabe, J., Yohannes, Y. B., Muzandu, K., Mizukawa, H., Ikenaka, Y., Ishizuka, M.（20118）：Monitoring of blood lead levels in dogs from lead pollution area, Kabwe, Zambia, 2nd Chemical Hazard Symposium, Matsuyama, Japan, December, Abstracts, 18.

137）Khidkhan, K., Mizukawa, H., Ikenaka, Y., Nakayama, S., Nomiyama, K., Darwish, W. S., Ichii, O., Yokoyama, N., Takiguchi, M., Tanabe, S., Ishizuka, M.（2018）：Characterization of CYP genes related-PCBs exposure in cats, 2nd Chemical Hazard Symposium, Matsuyama, Japan, December, Abstracts, 26.

138）Kanda, K., lto, S., Koh, D. H., Kim, E. Y., Iwata, H.（2018）：Effects of exposure to tris（2-chloroethyl）phosphate（TCEP）on chicken embryos: in situ observation in a shell-less incubation system, 環境ホルモン学会　第21回研究発表会 , 東京 , 12月 , 要旨集36.

139）Nguyen, H. T., Yamamoto, K., Iida, M., Agusa, T., Ochiai, M., Li, L., Kannan, K., Kim, E. Y., Iwata, H.（2018）：Implication of obesogenic effects of prenatal bisphenol A exposure on rat offspring by multi-omics analysis, 環境ホルモン学会　第21回研究発表会，東京，12月，要旨集44.

140）磯部友彦・仲山　慶・宇野誠一・大野暢亮・半藤逸樹・国末達也（2018）：環境モニタリングデータのためのオープンデータプラットフォーム「ChemTHEATRE」，第21回環境ホルモン学会研究発表会，東京，12月.

141）石橋弘志・平野将司・内田雅也・大倉美咲・石橋康弘・冨永伸明・岩田久人・有薗幸司（2018）：新たな試験法の切り口：内分泌かく乱物質―核内受容体相互作用の in silico 解析，環境ホルモン学会 第21回研究発表会，東京，12月，要旨集，39.

142）石橋弘志・内田雅也・天満柚来・平野将司・冨永伸明・有薗幸司（2018）：17β -estradiol によるメダカ胚エストロゲン応答遺伝子の発現解析，環境ホルモン学会 第21回研究発表会，東京，12月，要旨集，72.

143）内田雅也・石橋弘志・平野将司・福島　聡・石橋康弘・冨永伸明・有薗幸司（2018）：メダカ初期胚を用いたエクインエストロゲン類のトランスクリプトーム解析，環境ホルモン学会 第21回研究発表会，東京，12月，要旨集，81.

生態系解析部門

1）　鈴木　聡（2018）：下水・畜産排水に由来する薬剤耐性遺伝子の水圏環境での動態．平成29年度日本獣医師会学術学会年次大会，別府市，2月（招待講演）

2）　Carvajal, T. M., Ogishi, K., Yaegeshi, S., Hernandez, L. F. T., Viacrusis, K. M., Ho, H. T., Amalin, D. and Watanabe, K.（2018）：Fine-Scale Genotyping and Dispersal Movement of Dengue Mosquito Vector, Aedes Aegypti in Metropolitan Mania, 2nd Bandung International Scientific Meeting on Parasitology & Tropical Diseases, Bandung（Indonesia）, April.

3）　Regilme, M. A., Inukai, T., Viacrusis, K., Amalin, D. and Watanabe, K.（2018）：Genetic analysis of Aedes aegypti in Manila, Philippines: Dispersal pattern and gene expression under Wolbachia infection, 2nd Bandung International Scientific Meeting on Parasitology & Tropical Diseases, Bandung, Indonesia, April.

4）　Watanabe, K.（2018）：Individual-Based Dengue Virus Surveillance in Mosquitoes Collected Concurrently with Suspected Patients: Implications On Spatial Transmission in Tarlac City, Philippines, 2nd Bandung International Scientific Meeting on Parasitology & Tropical Diseases, Bandung, Indonesia, April.

5）　Regilme, M. A., Inukai, T., Viacrusis, K., Amalin, D., Watanabe, K.（2018）：Dispersal variation of Aedes aegypti in Manila, Philippines - Do roads affect the population structure? 2nd Bandung International Scientific Meeting on Parasitology & Tropical Diseases, Bandung, Indonesia, April.

6）　La Ane, R., Farida, L., Carvajal, T. M., Watanabe, K.（2018）：Dengue forecasting models using climate variable as predictors at regional setting in Indonesia, 2nd Bandung International Scientific Meeting on Parasitology & Tropical Diseases, Bandung, Indonesia, April.

7）　鈴木　聡（2018）：海洋環境での薬剤耐性遺伝子の残存．第91回日本細菌学会総会，福岡市，3月（招待講演）

8）　目崎文崇・松田桃子・三宅　洋（2018）：市民参加型調査により得られた河川生物データの有用性の評価，土木学会四国支部第24回技術研究発表会，徳島市，5月，講演概要 jsce7-050-2018.

9）　福﨑健太・三宅　洋・目﨑文崇（2018）：出水攪乱による平地河川の底生動物群集の変動，土木学会四国支部第24回技術研究発表会，徳島市，5月，講演概要 jsce7-057-2018.

10）角田康祐・三宅　洋・渡辺裕也・井上幹生（2018）：重信川で発生した記録的出水による魚類・底生動物群集の変動，土木学会四国支部第24回技術研究発表会，徳島市，5月，講演概要 jsce7-060-2018.

11）Tiegs, S., Costello, D., Isken, M., Woodward, G., McIntyre, P.B., Chauvet, E., Flecker, A., Gessner, M., Griffiths, N. and The CELLDEX Consortium（2018）：Global patterns and controls of organic-matter decomposition in streams and riparian zones revealed through crowdsourcing. Society for Freshwater Science 2018 Annual Meeting, Detroit, Michigan, USA, May, Abstract on web.

12）Carvajal, T. M., Hashimoto, K., R., Harnandika, R. K., Amalin, D. and Watanabe, K.（2018）：Detecting Wolbachia Sp. in Dengue Mosquito Vector, Aedes aegypti and Its Potential as A Biological Mass Release Vector Control Program in The Philippines, Pest Management Council of the Philippines 50th Anniversary and Annual Scientific Conference, IloIlo（Philippines）, May.

13）Ishitani, N., Serrana, J., Carvajal, T., Almarinez, B. J., Amalin, D. and Watanabe, K.（2018）：Molecular identification of the coconut scale insect species Aspidiotus rigidus Reyne and Aspidiotus destructor Signoret in the Philippines, Pest Management Council of the Philippines 50th Anniversary and Annual Scientific Conference, IloIlo（Philippines）, May.

14）Carvajal, T. M., Ogishi, K., Yaegeshi, S., Hernandez, L. F. T., Viacrusis, K. M., Ho, H. T., Amalin, D. and Watanabe, K. （2018）：Fine-Spatial Genetic Analysis of Dengue Vector, Aedes aegypti, in Metropolitan Manila, Philippines, Pest Management Council of the Philippines 50th Anniversary and Annual Scientific Conference, IloIlo（Philippines）, May.

15）Ishitani, N., Serrana, J., Carvajal, T., Almarinez, B. J., Amalin, D. and Watanabe, K.（2018）：Molecular identification of the coconut scale insect species Aspidiotus rigidus Reyne and Aspidiotus destructor Signoret in the Philippines, Pest Management Council of the Philippines 50th Anniversary and Annual Scientific Conference, IloIlo（Philippines）, May.

16）Serrana, J., Yaegashi, S., Kondoh, S., Li, B., Robinson C. and Watanabe, K.（2018）：Ecological Influence of Sediment Bypass Tunnels on Macroinvertebrates in Dam-fragmented Rivers by DNA Metabarcoding, Pest Management Council of the Philippines 50th Anniversary and Annual Scientific Conference, IloIlo（Philippines）, May.

17）Nakano, S., Koizumi, I., Fausch, K.D., Taniguchi, Y., Kitano, S. and Miyake, Y.（2018）：Dolly Varden jaw morphology diverges in sympatry with whitespotted charr versus allopatry in two Hokkaido catchments. 9th International Charr Symposium, Duluth, Minnesota, USA, June, Abstract#126.

18）Gamboa, M., Watanabe, K.（2018）：De novo draft genome of the stonefly Siphonoperla torrentium（Pictet, 1842）, XIX International symposium on Plecoptera, Aracruz（Brazil）, June.

19）Gamboa, M., Muranyi, D., Kanmori, S., Watanabe, K.（2018）：Phylogeography of Nemouridae family（Insecta, Plecoptera）in the Japanese Archipelago, XIX International symposium on Plecoptera, Aracruz（Brazil）, June.

20）Regilme, M. A., Inukai, T., Viacrusis, K., Amalin, D., Watanabe, K.（2018）：Genetic Analysis of Aedes aegypti in Manila, Philippines: Dispersal Pattern and Gene Expression under Wolbachia Infection, Water and Environment Technology Conference 2018（WET2018）, Matsuyama, Japan, July, Programme and Abstracts, 59.

21）Inukai, T., Regilme, M. A. F., Carvajal, T. M., Almarinez, B. J. M., Amalin, D. M., Watanabe, K.（2018）：Wolbachia Detection and Distribution of Dengue Vector in Manila, Philippines, Water and Environment Technology Conference 2018（WET2018）, Matsuyama, Japan, July, Programme and Abstracts, 92.

22）Gamboa, M., Watanabe, K.（2018）：Genome-wide RAD-seq revels adaptive divergence among seven stream stoneflies along a nationwide latitudinal gradient in Japan, Society of Molecular Biollogy and Evolution meeting, Yokohama（Japan）, Matsuyama, Japan, July, Programme and Abstracts, 26.

23）La Ane, R., Faridah, L., Carvajal, T. M., Watanabe, K.（2018）：Dengue forecasting models using climate variable as predictors at regional setting in Indonesia, Water and Environment Technology Conference 2018（WET2018）, Matsuyama, Japan, July, Programme and Abstracts, 84.

24）Carvajal, T., Ogishi, K., Yaegashi, S., Hernandez, L. F., Viacrusis, K., Ho, H., Amalin, D. and Watanabe, K. （2018）：Elucidating the Dispersion of Dengue Mosquito Vector, Ae. aegypti using Landscape Genetic Analysis, Water and Environment Technology Conference 2018（WET2018）, Matsuyama, Japan, July, Programme and Abstracts, 99.

25）Herbuela, V. R. D. M., De Guzman, F. S., SOBREPEÑA, G., Claudio, A. B. F., Tomas, A. C. V., Carmina M. ARRIOLA-DELOS REYES, Watanabe, K.,（2018）：Comorbid Depression and Anxiety and other Psychiatric Symptoms among Dengue Patients in Metro Manila, Philippines, Water and Environment Technology Conference 2018（WET2018）, Matsuyama, Japan, July, Programme and Abstracts, 59.

26）Gamboa, M., Watanabe, K.,（2018）：Genome-wide RAD-Seq Reveals Adaptive Divergence among Seven Stream Stoneflies along Nationwide Latitudinal Gradient in Japan, Water and Environment Technology Conference 2018（WET2018）, Matsuyama, Japan, July, Programme and Abstracts, 26.

27）Li, B., Serrana, J., Sumi, T., Takemon, Y., Watanabe, K.（2018）：Metabarcoding based macroinvertebrate community assessment under the influence of artificial gravel bars in the downstream of dam in Trinity River, Water and Environment Technology Conference 2018（WET2018）, Matsuyama, Japan, July, Programme and Abstracts, 91.

28）Serrana, J., Yaegashi, S., Kondoh, S., Li B., Robinson, C. and Watanabe, K.（2018）：Ecological Influence of Sediment Bypass Tunnels on Macroinvertebrates in Dam-fragmented Rivers by DNA Metabarcoding, Water and Environment Technology Conference 2018（WET2018）, Matsuyama, Japan, July, Programme and Abstracts, 11.

29）Ishitani, N., Serrana, J. M., Carvajal, T. M., Almarinez, B. J. M, Barrion, A. T., Amalin, D. M., Watanabe, K.（2018）：DNA-based discrimination and population genetics of the coconut scale insect Aspidiotus rigidus Reyne in the Philippines, Water and Environment Technology Conference 2018（WET2018）, Matsuyama, Japan, July, Programme and Abstracts, 28.

30）Serrana, J., Yaegashi, S., Kondoh, S., Li B., Robinson, C. and Watanabe, K.（2018）：Ecological Influence of Sediment Bypass Tunnels on Macroinvertebrates in Dam-fragmented Rivers by DNA Metabarcoding, 50th Anniversary of the Neutral Theory of Molecular Evolution of the Society of Molecular Biology and Evolution（SMBE）, Yokohama（Japan）, July.

31）Sugimoto, Y., Wu, J-H., Chou, H-Y., Suzuki, S.（2018）：Distribution and predicted origin（s）of macrolide resistance genes *mef*（C）- *mph*（G）in Taiwan waters. 日本微生物生態学会第32回大会，要旨集05-8，宜野湾市，7月.

32）Suzuki, S.（2018）：Dissemination of antibiotic resistance genes in the aquatic environment. 30th World Buiatrics Congress, 札幌市 , 8月（招待講演）

33）Gamboa, M. and Watanabe, K.（2018）：Genome-wide RAD-seq revels adaptive divergence among seven stream stoneflies along a nationwide latitudinal gradient in Japan, 12th International Symposium on Ecohydraulics（ISE 2018）, Tokyo, Japan, August.

34）Serrana, J., Li, B., Sumi, T., Takemon, T., Watanabe, K.（2018）：Sediment microbial community composition and diversity of restored gravel bars in the Trinity River, California, 12th International Symposium on Ecohydraulics（ISE 2018）, Tokyo, Japan, August.

35）Li, B., Serrana, J., Sumi, T., Takemon, T., Watanabe, K.（2018）：Metabarcoding Based Macroinvertebrate Community Assessment Under the Influence of Artificial Gravel Bars in The Downstream of Dam in Trinity River, 12th International Symposium on Ecohydraulics（ISE 2018）, Tokyo, Japan, August.

36）Serrana, J., Yaegashi, S., Kondoh, S., Li, B., Robinson, C. T. and Watanabe, K.（2018）：Assessment of The Ecological Influence of Sediment Bypass Tunnels On the Species Diversity of Macroinvertebrate Communities in Dam-Fragmented Rivers Using Dna Metabarcoding, 12th International Symposium on Ecohydraulics（ISE 2018）, Tokyo, Japan, August.

37）Yaegashi, S., Watanabe, K., Monaghan, M. T., Omura, T.（2018）：Genetic Structure and Gene Flow Between Altitudinally Isolated Populations of Stenopsyche m armorata, 12th International Symposium on Ecohydraulics（ISE 2018）, Tokyo, Japan, August.

38）Chiu, M-C., Kuo, M.-K., Watanabe, K.（2018）：Using Next Generation Sequencing to Analyze Prey DNA in Faeces of An Avian Predator In Taiwan, 12th International Symposium on Ecohydraulics（ISE 2018）, Tokyo, Japan, August.

39）Suzuki, S.（2018）：Conjugative gene transfer between marine bacteria and E. coli under nutritious and oligotrophic conditions. IWA World Water Congress & Exhibition 2018, 東京 , 9月（招待講演）

40）福﨑健太・三宅　洋・目﨑文崇（2018）：出水攪乱による平地河川の底生動物群集の変動，応用生態工学会第22回研究発表会，東京都，9月，講演集 p. 45.

41）角田康佑・三宅　洋・渡辺裕也・井上幹生（2018）：重信川で発生した記録的出水による底生動物・魚類群集の変動，応用生態工学会第22回研究発表会，東京都，9月，講演集 p. 46.

42）目崎文崇・三宅　洋（2018）：子供を河川に誘引する生物相の把握，応用生態工学会第22回研究発表会，東京都，9月，講演集 p. 97.

43）渡辺誠也（2018）：機能未知タンパク質の新規アノテーション手法の開発と産業応用，2018年度日本農芸化学会中四国支部奨励賞受賞講演　島根大学松江キャンパス，9月

44）渡邊康紀・渡辺誠也（2018）：生体膜主要リン脂質の生合成を担う PS 脱炭酸酵素の構造機能解析，2018年度日本農芸化学会中四国支部会（第52回講演会），松江市，9月

45）浦田健司・渡邊康紀・渡辺誠也（2018）：水草から単離されたセルラーゼ生産菌の同定とその酵素学的性質の決定，2018年度日本農芸化学会中四国支部会（第52回講演会），松江市，9月

46）村瀬陽介・渡邊康紀・渡辺誠也（2018）：*cis*-3- ヒドロキシ -L- プロリン脱水酵素の X 線結晶構造解析，2018年度日本農芸化学会中四国支部会（第52回講演会），松江市，9月
47）伊賀千夏・渡邊康紀・渡辺誠也（2018）：L- アラビノース1- 脱水素酵素の構造解析，2018年度日本農芸化学会中四国支部会（第52回講演会），松江市，9月
48）伊藤愛香・渡邊康紀・渡辺誠也（2018）：超好熱古細菌由来プロリンラセマーゼの構造機能解析，2018年度日本農芸化学会中四国支部会（第52回講演会），松江市，9月
49）Miura, F., Watanabe, T., Watanabe, K., Hata, A., Fukushi, K.（2018）：Statistical forecasting of norovirus concentration in sewage as an indicator of future incidence, IWA World Water Congress & Exhibition 2018, Tokyo, Japan, September.
50）Suzuki, S.（2018）：Possible mechanisms of dissemination of antibiotic resistance genes in aquatic environment. First Indonesian Symposium on Microbial Ecology（InSME）, Yogyakarta, Indonesia, 11月（招待講演）
51）仲山　慶・北村真一（2018）：病原体に対する感受性の変化をエンドポイントとした免疫毒性の評価～最近の動向～，第24回日本環境毒性学会研究発表会，岐阜市，9月 .
52）Kitamura, S.I.（2018）：Common dreadful fish and shellfish diseases in Korea and Japan-scuticociliatosis in fishes and soft tunic syndrome in ascidian-. The Korean Society of Fish Pathology, Busan, South Korea, 11月（招待講演）
53）佐藤陽香・Dhugal J. Lindsay・松浦弘行・吉川　尚・宗林留美・大林由美子・西川　淳（2018）：駿河湾における浮遊性貝形類の鉛直分布，2018年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会，東京，9月，要旨集 66.
54）Obayashi, Y., Imanaka, K., Nishikawa, J.（2018）：Degradation of gelatinous zooplankton carcass by microbial community in seawater, PICES-2018 Annual Meeting, Yokohama, Japan, 10月 , Abstract W1-P3.
55）Sato, H., Matsuura, H., Yoshikawa, T., Sohrin, R., Obayashi, Y., Nishikawa, J.（2018）：Pelagic ostracods in Suruga Bay, Japan: their species diversity and population dynamics, PICES-2018 Annual Meeting, Yokohama, Japan, 10月 , Abstract BIO-P16.
56）剣持瑛行・松浦弘行・吉川　尚・宗林留美・大林由美子・西川　淳（2018）：折戸湾および駿河湾沖合域における沿岸性動物プランクトン，枝角類の個体群動態，富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア2018，富士市，11月，予稿集 p.23.
57）佐藤陽香・Dhugal J. Lindsay・松浦弘行・吉川　尚・宗林留美・大林由美子・西川　淳（2018）：駿河湾における浮遊性貝形類の高い種多様性の謎に迫る：鉛直分布と食性推定，富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア2018，富士市，11月，予稿集 p.24.
58）増田雄也・松浦弘行・吉川　尚・宗林留美・大林由美子・西川　淳（2018）：駿河湾におけるロフォガスター類（節足動物門，軟甲綱）の個体群動態と食性解析，富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア2018，富士市，11月，予稿集 p.26.
59）米窪草太・松浦弘行・吉川　尚・宗林留美・大林由美子・西川　淳（2018）：駿河湾におけるオキアミ類の群集構造と個体群動態，富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア2018，富士市，11月，予稿集 p.27.
60）河瀬　光・松浦弘行・吉川　尚・宗林留美・大林由美子・西川　淳（2018）：駿河湾における浮遊性端脚類の種多様性と個体群動態，富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア2018，富士市，11月，予稿集 p.28.

5．学会及び社会における活動

（平成30年度）

5. 1　併任・委員会委員等

環境動態解析部門

郭　　新宇

1）　招聘上席研究員，独立行政法人海洋研究開発機構 APL
2）　客員研究員，自然資源部第二海洋研究所（中国）
3）　客員教授，天津科技大学（中国）
4）　客員教授，中国海洋大学（中国）
5）　審査委員，独立行政法人日本学術振興会
6）　地球惑星科学委員会 SCOR 分科会 SIMSEA 小委員会委員
7）　Future Earth Coast 小委員会委員

森本　昭彦

1）　瀬戸内海環境情報基本調査有識者検討会委員，瀬戸内海環境保全協会
2）　IOC 協力推進委員会委員，海洋研究開発機構
3）　海洋研究課題審査部会部会員，海洋研究開発機構
4）　共同利用・共同研究委員会委員，名古屋大学宇宙地球環境研究所
5）　COMPIRA 委員会委員，株式会社勁草書房

化学汚染・毒性解析部門

田辺　信介

1）　客員研究員，独立行政法人国立環境研究所
2）　科学技術・学術審議会専門委員（学術分科会），文部科学省
3）　科学技術動向研究センター専門調査員，文部科学省
4）　科学研究費補助金における評価に関する委員会の評価者，文部科学省
5）　国際科学研究費委員会専門委員，独立行政法人日本学術振興会
6）　国際共同研究強化総合系小委員会（環境学）委員，独立行政法人日本学術振興会
7）　IOC 協力推進委員会海洋環境・生物国内専門部会委員，独立行政法人海洋研究開発機構
8）　中央環境審議会環境保健部会化学物質審査小委員会委員，環境省
9）　中央環境審議会臨時委員，環境省
10）新規 POPs 等研究会委員，環境省
11）POPs 条約有効性評価国内検討委員会委員，環境省
12）臭素系ダイオキシン類の排出源情報の収集・整理に関する調査業務の検討会委員，環境省
13）「海洋環境保全調査」に係る海洋環境モニタリング調査検討会検討員，環境省
14）ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討会委員，環境省
15）ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討委員会大阪事業部会委員（副主査），環境省
16）ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討委員会北九州事業部会委員（副主査），環境省
17）微量 PCBs 混入廃電気機器等処理実証試験検討委員会委員，環境省
18）PCB 廃棄物無害化処理認定申請等に係る技術評価委員会，環境省
19）PCB 廃棄物適正処理に関する検討委員会委員，環境省
20）EXTEND2016野生生物の生物学的知見研究検討部会委員，環境省

21）EXTEND2016化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会委員（座長），環境省
22）南極環境実態把握モニタリング事業検討委員会委員，環境省
23）国立水俣病総合研究センター研究評価委員会委員，環境省
24）愛媛県環境審議会委員，愛媛県
25）愛媛県環境審議会化学物質環境保全部会部会長，愛媛県
26）愛媛県環境創造センター客員研究員，愛媛県
27）愛媛県廃棄物処理センター評議員，愛媛県
28）愛媛県沿岸漂着物対策推進協議会会長，愛媛県
29）西条市環境審議会委員長，愛媛県西条市
30）内子町環境保全審議会副委員長，愛媛県喜多郡内子町
31）四国地区しろあり対策協会会長，公益社団法人日本しろあり対策協会
32）日本しろあり対策協会防除技術委員会委員，公益社団法人日本しろあり対策協会
33）一般財団法人 T. O 環境財団理事・選考委員　株式会社オオノ開発

岩田　久人
1）　化学物質の内分泌かく乱作用に関連する報告の信頼性評価作業班検討員，環境省
2）　共同利用・共同研究拠点「環境汚染・沿岸環境研究拠点（LaMer）」拠点長

国末　達也
1）　学術諮問委員，㈳日本化学工業協会
2）　愛媛県衛生環境評価専門部会委員，愛媛県
3）　曝露評価専門委員会精度管理分科会委員，環境省

生態系解析部門

鈴木　　聡
1）　書面審査専門評価委員 ,（公社）農林水産・食品産業技術振興協会

北村　真一
1）　Researcher: Food and Agriculture Organization of the united nations（FAO: 国際連合食糧農業機関）
2）　研究指導委員，宮城県水産技術総合センター
3）　愛媛県消費・安全対策交付金外部委員，愛媛県

5. 2　学協会委員等

環境動態解析部門

郭　　新宇
1）　評議員，日本海洋学会
2）　事業部会委員，日本海洋学会沿岸海洋研究会

森本　昭彦
1）　評議員，日本海洋学会
2）　編集委員，Journal of Oceanography
3）　委員，日本海洋学会沿岸海洋研究会
4）　総務部長，日本海洋学会沿岸海洋研究会

加　三千宣
1）　行事委員，日本第四紀学会

吉江　直樹
1）　委員，北太平洋海洋科学機構（PICES）北太平洋沿岸海洋観測に関する委員会（AP-NPCOOS）
2）　委員，日本海洋学会沿岸海洋研究部会　事業部会
3）　部会長，宇和島環境教育協議会　教育カリキュラム部会
4）　委員，日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会 FEC Japan

化学汚染・毒性解析部門

田辺　信介
1）　理事，内分泌撹乱化学物質学会
2）　評議員，内分泌撹乱化学物質学会
3）　理事，日本環境化学会
4）　評議員，環境放射能除染学会
5）　非常勤講師，熊本県立大学
6）　環境問題助成選考委員会委員，日本生命財団
7）　Editorial Board Member，Marine Environmental Research（Elsevier）

岩田　久人
1）　Editorial Board Member，Ecotoxicology and Environmental Safety，Elsevier
2）　Editorial Board Member，Korean Society of Environmental Risk Assessment and Health Science
3）　Guest Editor，Marine Environmental Research，Elsevier
4）　理事，内分泌撹乱化学物質学会
5）　38th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants（DIOXIN2018）, Scientific Committee
6）　2018 The Society of Environmental Toxicology and Chemistry: Asia-Pacific Conference, Scientific Committee
7）　20th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms（PRIMO20）, International Scientific Committee

国末　達也
1）　評議員，内分泌撹乱化学物質学会
2）　編集委員，日本環境化学会　機関誌「環境化学」

野見山　桂
1）　幹事長，日本水環境学会中国・四国支部
2）　評議員，日本環境化学会
3）　評議員，内分泌撹乱化学物質学会
4）　副幹事，日本環境化学会　POPs 部会
5）　副幹事，日本環境化学会　国際企画部会

仲山　　慶
1）　幹事・編集委員，日本環境毒性学会

生態系解析部門

鈴木　　聡
1）　Associate Editor，Microbes and Environments，日本微生物生態学会・土壌微生物学会・台湾微生物生態学会
2）　Associate Editor，Frontiers in Microbiology，Nature Publishing Group
3）　編集委員，日本微生物生態学会
4）　評議員，日本微生物生態学会
5）　International Science Committee, 5th International Symposium on the Environmental Dimension of Antibiotic Resistance

北村　真一

1）　編集委員，Journal of Fish Pathology，韓国魚病学会

2）　評議員，日本魚病学会

大林由美子

1）　男女共同参画・ダイバーシティ推進委員会委員，日本微生物生態学会

5．3　学会，講演会などの開催（センター主催または共催）

1）　LaMer 研究集会

「豊後水道研究集会～豊後水道の海洋環境把握に向けた連携について」

期日：平成30年8月21日（火）～8月22日（水）

会場：愛媛大学理学部　総合研究棟Ⅰ　4階　共通会議室

2）　第21回 LaMer 特別講演会

「The nonlinear effects of the eddy viscosity and the bottom friction on the Lagrangian residual velocity in a narrow model bay」

期日：平成30年9月5日（水）

会場：愛媛大学理学部　総合研究棟Ⅰ　4階　共通会議室

講師：Wensheng Jiang（College of Environmental Science and Engineering Ocean University of China）

3）　第22回 LaMer 特別講演会

「Tempo-spatial variation of the Kuroshio through the Tokara Strait based on long-term ferryboat ADCP data」

期日：平成30年9月11日（火）

会場：愛媛大学理学部　総合研究棟Ⅰ　4階　共通会議室

講師：Zhao-Jun Liu（State Key Laboratory of Satellite Ocean Environment Dynamics, Second Institute of Oceanography, State Oceanic Administration, China）

4）　第23回 LaMer 特別講演会

「Modelling the effect of atmospheric deposition on phytoplankton growth during the on-board incubation experiments conducted in South China Sea」

期日：平成30年10月9日（火）

会場：愛媛大学理学部　総合研究棟Ⅰ　4階　共通会議室

講師：Huiwang Gao（Key Laboratory of Marine Environment and Ecology, Ministry of Education, Ocean University of China, Qingdao, China ／ Laboratory for Marine Ecology and Environmental Sciences, Qingdao National Laboratory for Marine Science and Technology, Qingdao, China）

5）　第24回 LaMer 特別講演会

「琵琶湖・大阪湾におけるマイクロプラスチック汚染の現況とペルフルオロ化合物類との関係」

期日：平成30年10月30日（火）

会場：愛媛大学理学部　総合研究棟Ⅰ　6階　会議室

講師：田中 周平（京都大学大学院地球環境学堂地球親和技術学廊 准教授）

6）　第25回 LaMer 特別講演会

「Lesson from rotifers, copepods and fish: Genome, adverse outcome pathway, and future development of molecular and biochemical ecotoxicology」

期日：平成30年11月6日（火）

会場：愛媛大学理学部　総合研究棟Ⅰ　6階　会議室

講師：Jae-Seong Lee（Department of Biological Science, College of Science, Sungkyunkwan University, Korea）

7）　第26回 LaMer 特別講演会
「IMPACT OF FISH FARMING ON ANTIBIOTIC RESISTOME AND MOBILE GENETIC ELEMENTS IN BALTIC SEA SEDIMENT」
期日：平成30年12月3日（月）
会場：愛媛大学理学部　総合研究棟2　2階演習室　#212
講師：Dr. Windi Muziasari（Researcher, Department of Food and Environmental Science, University of Helsinki, Finland）

8）　LaMer 研究集会
「第4回沿岸生態系の評価・予測に関するワークショップ」
期日：平成30年12月6日（木）～12月8日（土）
会場：函館市国際水産・海洋総合研究センター

9）　LaMer 研究集会
「漂着鯨類個体を活用した研究成果報告会」
期日：平成30年12月15日（土）
会場：愛媛大学理学部　総合研究棟Ⅰ　6階　会議室

10）LaMer 研究集会
「赤潮に関する研究集会」
期日：平成31年1月17日（木）～1月18日（金）
会場：1月17日（木）愛媛大学理学部　総合研究棟Ⅰ　6階　会議室
1月18日（金）愛媛大学理学部　総合研究棟Ⅰ　3階　369号室

5．4　学会，講演会などの開催（個人）

化学汚染・毒性解析部門

岩田　久人

1）　愛媛大学 -Kyung Hee University 環境毒性学合同研究セミナー，平成30年7月4日，愛媛大学，松山

野見山桂，水川葉月，高橋　真

1）　2nd Chemical Hazard Symposium（LaMer および日本環境化学会中国四国支部共催），平成30年12月8日，愛媛大学，松山

5．5　学会賞等

化学汚染・毒性解析部門

国末　達也

1）　第27回環境化学学術賞（平成30年5月）

野崎　一茶

1）　第52回日本水環境学会年会，年会優秀発表賞（クリタ賞）（平成30年3月）

島﨑　真琴

1）　日本化学会中国四国支部「支部長賞」（平成30年4月）

粕谷満知子
1）　第27回環境化学討論会優秀発表賞（平成30年5月）

野島　由衣
1）　第27回環境化学討論会優秀発表賞（平成30年5月）

小野　純華
1）　第27回環境化学討論会 Environmental Science: Processes & Impacts Poster Award（平成30年5月）

小川　雄平
1）　第29回廃棄物資源循環学会研究発表会支部奨励賞（平成31年2月）

神田　宗欣（大学院理工学研究科博士前期課程）
1）　SETAC Japan 2018年年会「優秀ポスター賞」（平成30年7月）

生態系解析部門
鈴木　　聡
1）　遠山椿吉記念第6回食と環境の科学賞「水環境における薬剤耐性菌・耐性遺伝子の公衆衛生学的研究」（平成30年10月）

6．国際的活動

（平成30年度）

6. 1　国際研究プロジェクト

環境動態解析部門

郭　　新宇

1）　平成30年1月～令和2年12月，日本南岸黒潮と親潮による栄養塩輸送及び北西太平洋への影響，自然資源部第二海洋研究所
2）　平成30年1月～令和2年12月，東シナ海の起源の異なる栄養塩の役割に関するモデリング研究，中国海洋大学，天津科技大学
3）　平成30年1月～令和2年12月，渤海と黄海における残留性有機汚染物質に関するモデリング研究，中国海洋大学，中国科学院煙台海岸帯研究所

森本　昭彦

1）　平成27年4月～，ジャカルタ湾の貧酸素水塊に関する研究，BPPT
2）　平成26年6月～，西部太平洋および周辺縁辺海の海面高度と流速場の変動，CNES（フランス）

吉江　直樹

1）　平成30年4月～，北太平洋沿岸域における海洋モニタリングに関する研究（AP-NPCOOS），PICES 加盟国（米国，カナダ，ロシア，中国，韓国）

化学汚染・毒性解析部門

田辺　信介

1）　平成15年～，微量元素によるガーナの環境汚染，ガーナ水圏研究所
2）　平成16年～，途上国の廃棄物投棄場におけるダイオキシン類等 POPs の汚染と毒性影響に関する研究，カンボジア・カンボジア水産局，インド・アンナマライ大学海洋生物学研究所等
3）　平成17年～，POPs および POPs 候補物質によるポルトガルの海洋汚染に関する研究，ポルトガル・アベイロ大学
4）　平成18年～，アジア地域の有機フッ素化合物汚染，米国・ニューヨーク州立大学アルバニー校
5）　平成18年～，電子・電気機器リサイクル施設および廃棄物処理施設における POPs 候補物質の汚染と影響，インド・アンナマライ大学，KLE's Nijalingappa College, Bangalor
6）　平成19年～，POPs および POPs 候補物質によるインドネシアの環境汚染に関する研究，Center Technology for Marine Survey, Agency for the Assessment and Application of Technology（BPPT），インドネシア
7）　平成19年～，電子・電気機器リサイクル施設および廃棄物処理施設における POPs 候補物質の汚染と影響，ベトナム・ハノイ科学大学
8）　平成20年～，有害物質によるワニの内分泌撹乱，米国・フロリダ大学および NASA

岩田　久人

1）　平成17年～，バイカルアザラシにおける化学物質の汚染および影響に関する研究，ロシア・The Eastern-Siberian Scientific and Production Fisheries Center
2）　平成21年～，野生生物のアリールハイドロカーボンレセプターの進化と機能に関する研究，韓国・Kyung Hee University
3）　平成28年～，フィリピン水圏環境の汚染と野生生物の影響に関する研究，フィリピン・University of the

Philippines Los Baños
4） 平成29年～，環境汚染物質が動物のリピドームに及ぼす影響の評価，米国・ニューヨーク州立大学アルバニー校
5） 平成29年～，環境汚染物質が鳥類の胚発生に及ぼす影響評価 , 中国・西北大学
6） 平成29年～，野生動物のゲノム解析に関する研究，韓国・Ewha Womans University

国末　達也
1） 平成26年～，インドの廃棄物処理場および電子・電気機器リサイクル施設，都市環境における POPs 類縁化合物と生活関連物質の汚染に関する研究，インド Bharathidasan University, Tiruchirappalli および KLE's Nijalingappa College, Bangalor
2） 平成26年～，ベトナムの廃棄物処理場および電子・電気機器リサイクル施設，都市環境における POPs 類縁化合物と生活関連物質の汚染に関する研究，ベトナム・ハノイ科学大学
3） 平成26年～，ガーナの電子・電気機器リサイクル施設における難燃剤およびダイオキシン類化合物の汚染と起源に関する研究，ガーナ科学・工業研究評議会（Council for Scientific and Industrial Research）
4） 平成26年～，POPs 関連物質，有機スズ化合物，微量元素によるポルトガルの室内環境と食品汚染に関する研究，ポルトガル・アベイロ大学
5） 平成27年～，インドネシアの沿岸域および都市域における POPs 関連物質と微量元素の汚染に関する研究 ,Center Technology for Marine Survey, Agency for the Assessment and Application of Technology（BPPT），インドネシア
6） 平成27年～，POPs 関連物質によるマレーシア沿岸域の汚染に関する研究，マレーシア・アプトラ大学
7） 平成30年～，POPs 関連物質によるエジプト沿岸域の汚染に関する研究，エジプト・National Research Centre（NRC）

野見山　桂
1） 平成20年～，有機ハロゲン化合物および水酸化代謝物によるワニの内分泌撹乱，米国・フロリダ大学および NASA
2） 平成27年～，アジア河川域における PPCPs による汚染実態の解明，ベトナム・ハノイ科学大学
3） 平成28年～，PCBs, PBDEs, および水酸化代謝物によるポルトガルのペット動物汚染に関する研究，ポルトガル・アベイロ大学
4） 平成29年～，タイ王国におけるペット動物汚染の実態解明に関する研究，Kasetsart 大学獣医学部

田上　瑠美
1） 平成27年～，水生生物に対する医薬品類の影響評価に関する研究，英国・ブルネル大学
2） 平成29年～，内分泌かく乱化学物質によるポルトガルの室内環境とヒト汚染に関する研究，ポルトガル・アベイロ大学

生態系解析部門

鈴木　　聡
1） 平成20年8月～，養殖場の薬剤耐性菌研究，フィンランド・ヘルシンキ大学
2） 平成25年4月～，排水・河川・海洋の薬剤耐性遺伝子定量，タイ・チュラロンコン大学
3） 平成28年10月～，養殖場のマクロライド耐性遺伝子疫学，台湾・国立成功大学，国立台湾海洋大学
4） 平成28年10月～，沿岸海水中の抗生物質汚染と薬剤耐性菌研究，マレーシア・マラヤ大学

北村　真一
1） 平成18年9月～，魚類感染症の発症メカニズムに関する研究，韓国・国立全南大学校水産生命医学科
2） 平成25年3月～，マボヤ被嚢軟化症に関する研究，韓国・国立群山大学校水産生命医学科
3） 平成25年3月～，マボヤ被嚢軟化症に関する研究，韓国・国立水産科学院

6. 2　在外研究等

Nguyen Minh Tue

1）　平成30年9月15日～平成30年10月1日，Applicability of advanced biphasic systems based on ionic liquids for screening metabolites of aromatic contaminants in biological tissues, Portugal, Aveiro University

神田　宗欣

1）　平成30年9月11日～平成30年9月15日，Assessment of developmental and immune toxicities of organophosphate flame retardants using chicken embryos in shell-less culture vessels, Korea, Kyung Hee University

Nguyen Thanh Hoa

1）　平成30年6月11日～平成30年6月30日，Analysis of fatty acid contents in the livers of rat offspring prenatally exposed to bisphenol A, USA, Department of Health, Wadsworth Center

6. 3　海外調査・国際学会等

環境動態解析部門

郭　　新宇

1）　平成30年4月22日～平成30年4月29日，International Symposium on ‘Understanding Changes in Transitional Areas of the Pacific’参加，ラパス，メキシコ
2）　平成30年5月10日～平成30年5月20日，台湾東部黒潮における乱流観測の実施，およびその研究成果に関する打ち合わせ，台北・高雄，台湾
3）　平成30年5月25日～平成30年5月28日，博士論文および修士論文の審査会出席，青島，中国
4）　平成30年6月21日～平成30年6月24日，東シナ海の黒潮の経年変動が対馬暖流および日本海に与える影響に関する研究打ち合わせ，青島，中国
5）　平成30年6月27日～平成30年7月1日，北部タイランド湾のリアルタイム水質モニタリングと水質予報システムの開発に向けた共同研究の打合せ，バンコク，タイ
6）　平成30年8月25日～平成30年9月1日，論文作成および粒子追跡による水産資源計算の問題点について研究打ち合わせ，青島・天津，中国
7）　平成30年9月14日～平成30年9月20日，トカラ海峡の内部潮汐に関する研究打ち合わせおよび8th CJK IMBeR Symposium 参加，青島・上海，中国
8）　平成30年10月14日～平成30年10月21日,「衛星データから海洋フロントの特定およびフロント周辺の Chl.a 分布」に関する共同研究及び打ち合わせ，杭州，中国
9）　平成30年11月3日～平成30年11月9日，EMECS12に参加および研究打ち合わせ，パタヤ，タイ
10）平成30年11月21日～平成30年11月26日，東シナ海の栄養塩変動に関する研究打ち合わせ，青島，中国
11）平成30年12月23日～平成30年12月31日，スルメイカ幼生の経年変動に関する論文作成，青島 , 中国
12）平成31年2月24日～平成31年3月7日，LGM 期の日本海における塩分低下メカニズムに関する研究打ち合わせと論文作成，青島，中国
13）平成31年3月17日～平成31年3月24日，ルソン海峡の黒潮源流域における栄養塩供給と中規模渦との関係に関する研究打ち合わせと論文作成，杭州，中国

森本　昭彦

1）　平成30年5月6日～5月11日，ジャカルタ湾の水質環境調査，ジャカルタ，インドネシア
2）　平成30年6月27日～平成30年7月1日，北部タイランド湾のリアルタイム水質モニタリングと水質予報システムの開発に向けた共同研究の打合せ，バンコク，タイ
3）　平成30年9月11日～平成30年9月17日，ジャカルタ湾の水質環境調査，ジャカルタ，インドネシア
4）　平成30年10月2日～平成30年10月7日，共同研究打ち合わせ，ハノイ，ベトナム
5）　平成30年11月3日～平成30年11月9日，EMECS12　参加・発表，パタヤ，タイ

6） 平成30年12月4日～平成30年12月8日，ジャカルタ湾の水質環境調査，ジャカルタ，インドネシア
7） 平成31年1月10日～平成31年1月15日，ジャカルタ湾の数値モデルの開発，ジャカルタ，インドネシア
8） 平成31年2月19日～平成31年2月23日，3rd CCore-RENSEA Joint Seminar　参加・発表，バンコク，タイ

吉江　直樹
1） 平成30年2月10日～平成30年2月17日，Ocean Sciences Meeting　2018，参加・発表，ポートランド，アメリカ

化学汚染・毒性解析部門

岩田　久人
1） 平成30年8月26日～平成30年8月31日，38th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants（Dioxin2018）に参加，Krakow，Poland.
2） 平成30年9月13日～平成30年9月15日，共同研究「核内受容体の種特異性の分子機序」についての研究打合せ，Kyung Hee University，Seoul，Korea.
3） 平成30年9月16日～平成30年9月19日，SETAC-AP 2018に参加，Daegu，Korea.

国末　達也
1） 平成30年8月26日～平成30年8月31日，38th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants（DIOXIN2018）で発表，Kraków，Poland
2） 平成30年9月16日～平成30年9月22日，インド・チェンナイの環境調査と研究試料の採取，Annamalai Univesity，Chennai，India

野見山　桂
1） 平成30年8月26日～平成28年8月31日，38th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants（DIOXIN 2018）で発表，Kraków，Poland

仲山　　慶
1） 平成30年11月4日～平成30年11月11日，SETAC North America 39th Annual Meeting で発表，Sacramento，CA，USA.

落合　真理
1） 平成30年9月2日～平成30年9月5日，EUROTOX2018で発表，Brussels，Belgium.

Nguyen Minh Tue
1） 平成30年5月24日～平成30年5月25日，8th International Symposium on Halogenated Flame Retardants（BFR2018）で発表，Niagara on the Lake，Canada.

後藤　哲智
1） 平成30年10月21日～平成30年10月26日，The 18th International Conference on Harmful Algae（ICHA2018）で発表，Nantes，France.

Bak Su-Min
1） 平成30年9月16日～平成30年9月19日，SETAC-AP 2018で発表，Daegu，Korea.

Kanerva Mirella Maria
1） 平成30年9月16日～平成30年9月19日，SETAC-AP 2018で発表，Daegu，Korea.

Nguyen Thanh Hoa
1） 平成30年6月11日～平成30年6月30日，Perform BPA and lipid profle analysis in rat liver，Department of Health,

Wadsworth Center，New York，USA.

芳之内結加

1）平 成30年8月26日 ～ 平 成30年8月31日，38th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants（Dioxin2018）で発表，Krakow，Poland.

2）平成30年9月2日～平成30年9月5日，EUROTOX2018で発表，Brussels, Belgium.

高口　倖輝

1）平成30年11月4日～平成30年11月8日，SETAC North America 39th Annual Meetingで発表，Sacramento，CA，USA.

伊藤　匠平

1）平成30年9月16日～平成30年9月19日，SETAC-AP 2018で発表，Daegu, Korea.

神田　宗欣

1）平成30年9月11日～平成30年9月15日，共同研究「環境汚染物質に暴露による鳥類の発生毒性評価」についての研究打合せ，Kyung Hee University，Seoul，Korea.

2）平成30年9月16日～平成30年9月19日，SETAC-AP 2018で発表，Daegu，Korea.

生態系解析部門

鈴木　　聡

1）平成30年11月5日～平成30年11月10日，第1回 Indonesian Symposium on Microbial Ecology（InSME），招待講演，ジョグジャカルタ，インドネシア

北村　真一

1）平成30年11月1日～平成30年11月3日，The Korean Society of Fish Pathology，招待講演，釜山，韓国

6. 4　外国人客員研究員等

環境動態解析部門

1）Zhu Junying，中国海洋大学，平成29年10月9日～平成30年9月30日

化学汚染・毒性解析部門

1）Guo Jiahua，愛媛大学特定研究員，平成30年4月1日～平成30年9月30日

2）Bak Su-Min，愛媛大学特定研究員，平成30年4月1日～

3）Kanerva Mirella Maria，愛媛大学外国人客員研究員（日本学術振興会 外国人特別研究員），平成29年5月8日～平成31年5月7日

4）Nguyen Thanh Hoa，愛媛大学研究補助員，平成30年4月1日～

6. 5　海外からの訪問者

環境動態解析部門

1）Zhang Jing, 中国海洋大学，共同研究および研究打ち合わせ，平成30年6月24日～平成30年8月27日

2）Siraporn Tong-U-Dom, Burapha University, 北部タイランド湾の海洋環境に関する共同研究の実施，平成30年7月12日～平成30年7月28日

3）Dudsadee LEENAWARAT, Burapha University，北部タイランド湾の海洋環境に関する共同研究の実施，平成30

年7月12日～平成30年7月28日

4） Tran Manh Cuong, Center for Oceanogprahy，トンキン湾の海流の実態と変動を解明することを目的とした共同研究の実施，平成30年7月13日～平成30年7月28日

5） Mao Xinyan，中国海洋大学，共同研究および研究打ち合わせ，平成30年7月15日～平成31年1月14日

6） Jiang Wensheng，中国海洋大学，共同研究および研究打ち合わせ，平成30年9月1日～9月6日

7） Liu Zhaojun，中国海洋大学，共同研究および研究打ち合わせ，平成30年9月7日～9月14日

8） Gao Hui-Wang，中国海洋大学，共同研究および研究打ち合わせ，平成30年10月8日～10月14日

9） Endro Soeyanto, Agency for the Assessment and Application of Technology，共同研究および研究打ち合わせ，平成30年10月14日～平成30年10月28日

10）Yang Min，天津科技大学，共同研究および研究打ち合わせ，平成30年11月30日～平成30年12月15日

11）Du Kailun，中国海洋大学，共同研究および研究打ち合わせ，平成30年11月30日～平成30年12月14日

12）Leng Qian，中国海洋大学，共同研究および研究打ち合わせ，平成30年11月30日～平成30年12月14日

13）Ding Xiaokun，中国海洋大学，共同研究および研究打ち合わせ，平成30年11月30日～平成30年12月14日

14）Shi Rui，中国科学院南海海洋研究所，共同研究および研究打ち合わせ，平成31年1月13日～平成31年1月25日

15）Zhang Jing，中国海洋大学，共同研究および研究打ち合わせ，平成31年1月17日～平成31年1月31日

16）Hu Yingying，黒潮本流域における栄養塩収支と供給機構に関する研究及び研究打ち合わせ，平成31年1月24日～平成31年3月25日

化学汚染・毒性解析部門

1） Vimalkumar Krishnamoorthy, Department of Environmental Biotechnology, Bharathidasan University, India，共同研究の実施，平成30年10月20日～平成30年11月12日

2） Ana C.A. Sousa, Health Sciences Research Centre（CICS）, University of Beira Interrior, Department of Biology & CESAM, University of Aveiro, Portugal，共同研究の実施，平成31年2月11日～平成31年3月8日

3） Ahmed AbdelGawad Madbouly ElKady, Department of Food Toxicology & Contaminants, National Research Centre, Egypt, 共同研究の実施，平成30年5月9日～平成30年9月7日

4） Agus Sudaryanto, Agency for the Assessment and Application of Technology（BPPT）, Indonesia，共同研究の実施，平成30年10月9日～平成30年10月31日

5） Vahab Vaezzadeh, Institute of Ocean and Earth Sciences（IOES）, University of Malaya, Malaysia，共同研究の実施，平成30年8月8日～平成30年9月3日

6） Park Jae-Gon, Kyung Hee University，共同研究の進捗報告会に参加，平成30年7月3日～平成30年7月5日

7） Dong-Hee Koh, Kyung Hee University，共同研究の進捗報告会に参加，平成30年7月3日～平成30年7月5日

8） Song Woo-Seon, Kyung Hee University，共同研究の進捗報告会に参加，平成30年7月3日～平成30年7月5日

9） Hwang Ji-Hee, Kyung Hee University，共同研究の進捗報告会に参加，平成30年7月3日～平成30年7月5日

10）Min kyung Cho, Kyung Hee University，共同研究の進捗報告会に参加，平成30年7月3日～平成30年7月5日

11）Jae-Seong Lee, Sungkyunkwan University, LaMer 特別講演会での講演，平成30年11月18日～平成30年11月20日

12）Tsuchiya Maria Claret，共同研究および研究打合せ，平成31年1月4日～平成31年1月20日

13）Rey Toroc Verona，共同研究および研究打合せ，平成31年1月4日～平成31年1月20日

生態系解析部門

1） 都亨基，韓国韓東大学教授，共同研究実施，平成30年5月21日～平成30年5月29日

2） Windi Miziasari，フィンランドヘルシンキ大学研究員，共同研究および講演会実施，平成30年11月25日～平成30年12月7日

6. 6　招聘研究員

化学汚染・毒性解析部門

1） Nguyen Minh Tue，愛媛大学研究機関研究員，アジア地域の廃棄物処理活動に由来する内分泌撹乱化学物質の曝露影響評価，バイオアッセイおよび GC（LC）–TOFMS を用いた内分泌撹乱化学物質の毒性同定・評価手法の確立，ベトナム
2） Guo Jiahua，愛媛大学研究機関研究員，トリクロサン出生前曝露によるニワトリ胚の肝臓トランスクリプトーム・プロテオームへの影響，中国
3） Bak Su-Min，愛媛大学研究機関研究員，オキシテトラサイクリンによる養殖マダイの免疫系への影響，韓国
4） Kanerva Mirella Maria，日本学術振興会外国人特別研究員，環境汚染物質暴露によるバルト海産タイセイヨウサケの肝臓トランスクリプトーム・プロテオームへの影響，フィンランド
5） Nguyen Thanh Hoa，愛媛大学研究機関研究員，ビスフェノール A の出生前曝露による新生ラット仔の肝臓トランスクリプトーム・プロテオームへの影響，ベトナム

生態系解析部門

1） Maribet GAMBOA，理工学研究科，日本学術振興会外国人特別研究員，河川底生動物のゲノムワイド遺伝子発現解析による地球温暖化への適応と脆弱性の評価，ベネズエラ
2） Levente-Péter Kolcsár，理工学研究科，日本学術振興会外国人特別研究員，日本産河川昆虫ユキガガンボの種多様性の解明と地球温暖化の影響予測，ハンガリー
3） Lia FARIDAH，理工学研究科，日本学術振興会論文博士号取得希望者に対する支援事業，インドネシア・バンドンにおけるデングウイルスと蚊の空間動態に関する生態疫学研究，インドネシア

6. 7　留学生等

環境動態解析部門

1） Dong Menhong，大学院理工学研究科博士後期課程先端科学特別コース専攻，瀬戸内海の潮汐フロントの詳細構造に関する研究，中国
2） Yang Haiyan，大学院理工学研究科博士後期課程先端科学特別コース専攻，黒潮の万年スケールの変化に関するシミュレーション，中国
3） Hu Yingying，大学院理工学研究科博士後期課程先端科学特別コース専攻，黒潮の栄養塩輸送に関する研究，中国

生態系解析部門

1） Thaddeus M. CARVAJAL，理工学研究科，日本政府・文科省国費留学生，デング熱媒介蚊の生態疫学に関する研究，フィリピン
2） Von Ralph Dane M. HERBUELA，理工学研究科，日本政府・文科省国費留学生，デング熱リスク評価に関する研究，フィリピン
3） Ruslan La ANE，理工学研究科，JICA C-BEST 奨学生，デング熱媒介蚊の生態疫学に関する研究，インドネシア
4） Maria Angenica F. REGILME，理工学研究科，日本政府・文科省国費留学生，デング熱媒介蚊の生態疫学に関する研究，フィリピン
5） Joeselle M. SERRANA，理工学研究科，日本政府・文科省国費留学生，淡水生態系の生物多様性評価に関する研究，フィリピン
6） Arnelyn D. LARAÑO，理工学研究科，日本政府・文科省国費留学生，淡水生態系の生物多様性評価に関する研究，フィリピン
7） Micanaldo E. FRANCISCO，理工学研究科，日本政府・文科省国費留学生，デング熱媒介蚊の生態疫学に関する研究，フィリピン

7．教育活動

（平成30年度）

7．1　卒業論文・修士論文・博士論文　題目

環境動態解析部門

卒業論文

1）　前谷　佳奈：豊後水道の底入り潮の発生過程
2）　渡部　勇槻：瀬戸内海における熱塩フロントの時間変動に関する研究
3）　藤田　修哉：豊後水道における底入り潮の発生特性に関する研究
4）　武田京太朗：超高解像度観測による潮汐フロント周辺の低次生態系動態に関する研究
5）　柞磨　佑紀：生態系モデルによる豊後水道におけるカジメ現存量の季節変化に関する研究
6）　古市　恵理：別府湾の20m海底堆積物コア試料における魚鱗の14C 年代
7）　山本あかね：別府湾海底堆積物柱状試料にみられる過去7000年間における基礎生産の長期変動
8）　宮崎　博行：鉄添加培養実験から探る亜寒帯北太平洋表層堆積物の珪藻種分布

修士論文

1）　神田　泰成：豊後水道における内部潮汐の発生と伝播
2）　平田　景都：日本の湖沼における表層堆積物中の珪藻群集と環境要因との関係に関する研究
3）　水口　隼人：低次生態系モデルを用いた瀬戸内海西部から中央部の栄養塩・低次生態系動態の解析

化学汚染・毒性解析部門

卒業論文

1）　安積　貴彰：データベースライブラリを用いた GC/MS による血清中メタボローム分析の検討
2）　大久保遥香：デカブロモジフェニルエーテル（BDE209）が仔ラットの超音波発声に与える影響ーBDE209の母子間移行の解明ー
3）　内川　綾乃：アジア途上国における内分泌かく乱物質のヒト尿中レベルと曝露量評価
4）　黒石　佳奈：瀬戸内海の二枚貝における有機ハロゲン化合物汚染の時空間分布
5）　須之内朋哉：鯨類の脂皮に蓄積している有機ハロゲン化合物のプロファイル解析と経年変化
6）　渡辺　天眞：インドネシア近海の魚類における有機ハロゲン化合物汚染
7）　竹邑　佳純：殻無しニワトリ胚を用いた有機リン酸系難燃剤（TDCPP）の発生毒性評価
8）　田邉　勇樹：*In vitro* assessment of toxic effects of 2,3,7,8-TCDD on lymphocytes in the bottlenose dolphin
9）　髙橋　郁也：Assessment of the effects of oxytetracycline exposure on the immune system in red seabreams
10）坂田真有美：*In vitro* assessment of chicken estrogen receptor transactivation by bisphenol analogs
11）渡辺　雄仁：EO 付加モル数の異なる AE の体内動態および生体応答に関する研究

修士論文

1）　田中　啓介：デカブロモジフェニルエーテル（BDE209）の長期曝露がイエネコに及ぼす影響
2）　野崎　一茶：水生生物における医薬品類・パーソナルケア製品由来物質の移行残留性解析
3）　小川　雄平：インド e-waste 処理場の作業環境における有機ハロゲン系難燃剤汚染
4）　粕谷満知子：*in vitro* バイオアッセイ法を用いた日本の野生生物に残留する AhR アゴニストの活性評価
5）　伊藤　匠平：Effects of prenatal bisphenol A exposure on the hepatic transcriptome in chicken embryos

生態系解析部門

卒業論文

1）　金原　怜奈：甲殻類プランクトンへのサルファ剤吸着
2）　升田　　凪：台湾水圏環境におけるマクロライド耐性遺伝子の分布と可動性遺伝因子との関係
3）　堀池　美月：薬剤耐性遺伝子の水平伝播可視化ツールの作成

博士論文

1）　縄田　　暁：マボヤ被嚢軟化症の原因鞭毛虫 *Azumiobodo hoyamushi* の感染環に関する研究

7. 2　講義・集中講義

環境動態解析部門

講　義

郭　　新宇

1）　平成30年度前期，地球科学野外研究，理学部
2）　平成30年度前期，沿岸海洋学，理学部・スーパーサイエンス特別コース
3）　平成30年度前期，新入生セミナーⅠ
4）　平成30年度前期，コース英語Ⅰ，スーパーサイエンス特別コース
5）　平成30年度後期，地球科学課題研究，理学部
6）　平成30年度後期，海洋物理学Ⅱ，理学部・スーパーサイエンス特別コース
7）　平成30年度後期，地球環境学特論，理学部
8）　平成30年度前期，大気海洋科学特論，大学院理工学研究科博士前期課程
9）　平成30年度後期，地球進化学特論Ⅷ，大学院理工学研究科博士後期課程

森本　昭彦

1）　平成30年度前期，地球科学野外研究，理学部
2）　平成30年度前期，沿岸海洋学，理学部・スーパーサイエンス特別コース
3）　平成30年度前期，新入生セミナー，スーパーサイエンス特別コース
4）　平成30年度前期，海洋物理学Ⅰ，理学部・スーパーサイエンス特別コース
5）　平成30年度後期，地球科学課題研究，理学部
6）　平成30年度後期，海洋力学，大学院理工学研究科博士前期課程
7）　平成30年度後期，環境学通論，スーパーサイエンス特別コース・理学部
8）　平成30年度後期，地球環境学特論，理学部
9）　平成30年度前期，地球科学フィールド高等実習Ⅰ，大学院理工学研究科博士前期課程
10）平成30年度前期，地球科学高等実験Ⅰ，大学院理工学研究科博士前期課程
11）平成30年度前期，地球科学ゼミナールⅠ，大学院理工学研究科博士前期課程
12）平成30年度後期，地球科学フィールド高等実習Ⅲ，大学院理工学研究科博士前期課程
13）平成30年度後期，地球科学高等実験Ⅲ，大学院理工学研究科博士前期課程
14）平成30年度後期，地球科学ゼミナールⅡ，大学院理工学研究科博士前期課程

加　三千宣

1）　平成30年度前期，地球環境学序論，理学部
2）　平成30年度前期，地球科学野外研究，理学部
3）　平成30年度前期，地球科学実験Ⅰ，理学部
4）　平成30年度後期，地球科学野外研究，理学部
5）　平成30年度後期，地球科学実験Ⅱ，理学部
6）　平成30年度後期，地球科学課題研究，理学部
7）　平成30年度後期，地球科学特別演習Ⅰ，理学部

8）　平成30年度後期，地球科学特別演習Ⅱ，理学部
9）　平成30年度前期，海洋学通論，スーパーサイエンス特別コース・理学部
10）平成30年度前期，新入生セミナー A，スーパーサイエンス特別コース
11）平成30年度前期，新入生セミナー B，スーパーサイエンス特別コース
12）平成30年度前期，環境科学セミナーⅠ，スーパーサイエンス特別コース
13）平成30年度前期，課題研究 A，スーパーサイエンス特別コース
14）平成30年度前期，地球科学フィールド高等実習Ⅰ，大学院理工学研究科博士前期課程
15）平成30年度前期，地球科学高等実験Ⅰ，大学院理工学研究科博士前期課程
16）平成30年度前期，地球科学ゼミナールⅠ，大学院理工学研究科博士前期課程
17）平成30年度後期，地球科学フィールド高等実習Ⅲ，大学院理工学研究科博士前期課程
18）平成30年度後期，地球科学高等実験Ⅲ，大学院理工学研究科博士前期課程
19）平成30年度後期，地球科学ゼミナールⅡ，大学院理工学研究科博士前期課程

吉江　直樹
1）　平成30年度前期，海洋学通論，スーパーサイエンス特別コース・理学部
2）　平成30年度前期，地球科学野外研究，理学部
3）　平成30年度後期，環境建設プロジェクト実習Ⅲ，工学部
4）　平成30年度後期，地球科学，工学部
5）　平成30年度後期，地球化学，理学部
6）　平成30年度後期，地球科学課題研究，理学部
7）　平成30年度後期，地球環境学特論，理学部
8）　平成30年度後期，環境科学セミナーⅣ，スーパーサイエンス特別コース
9）　平成30年度前期，地球科学フィールド高等実習Ⅰ～Ⅲ，大学院理工学研究科博士前期課程
10）平成30年度前期，地球科学高等実験Ⅰ，Ⅲ，Ⅴ，大学院理工学研究科博士前期課程
11）平成30年度前期，地球科学ゼミナールⅠ～Ⅳ，大学院理工学研究科博士前期課程
12）平成30年度前期，地球科学プレゼンテーション特別実習Ⅰ～Ⅲ，大学院理工学研究科博士前期課程
13）平成30年度前期，地域社会プロジェクト実習Ⅰ～Ⅱ，工学部

化学汚染・毒性解析部門

講　義

田辺　信介
1）　平成30年度前期，化学序論，理学部
2）　平成30年度前期，環境科学セミナーⅡ，スーパーサイエンス特別コース
3）　平成30年度前期，新入生セミナー B，スーパーサイエンス特別コース

岩田　久人
1）　平成30年度前期，新入生セミナー B，スーパーサイエンス特別コース
2）　平成30年度前期，SSC 共通セミナー，スーパーサイエンス特別コース
3）　平成30年度前期，環境毒性学，理学部・スーパーサイエンス特別コース・社会共創学部
4）　平成30年度前期，基礎生物化学，理学部・スーパーサイエンス特別コース
5）　平成30年度後期，環境学通論，スーパーサイエンス特別コース
6）　平成30年度後期，環境科学コースセミナーⅣ，スーパーサイエンス特別コース
7）　平成30年度後期，環境科学コース英語Ⅱ，スーパーサイエンス特別コース
8）　平成30年度後期，課題研究 A，スーパーサイエンス特別コース
9）　平成30年度後期，生物学展望，理学部
10）平成30年度後期，生物学課題研究，理学部
11）平成30年度前・後期，生物学特別演習，理学部
12）平成30年度前・後期，卒業研究，理学部

13）平成30年度後期，環境分子毒性学，大学院理工学研究科
14）平成30年度前期，新入生セミナー A，理学部
15）平成30年度前期，生物学ゼミナールⅠ，理学部
16）平成30年度後期，生物学ゼミナールⅡ，理学部

国末　達也
1）　平成30年度前期，化学英語Ⅰ，理学部
2）　平成30年度前期，卒業研究Ⅰ，理学部
3）　平成30年度後期，卒業研究Ⅱ，理学部
4）　平成30年度後期，環境化学，理学部
5）　平成30年度前期，新入生セミナー B，スーパーサイエンス特別コース
6）　平成30年度前期，環境科学セミナーⅢ，スーパーサイエンス特別コース
7）　平成30年度前期，コース英語Ⅰ，スーパーサイエンス特別コース
8）　平成30年度後期，環境化学 A，スーパーサイエンス特別コース
9）　平成30年度後期，環境学通論，スーパーサイエンス特別コース
10）平成30年度前期，環境科学特論，大学院理工学研究科博士前期課程
11）平成30年度集中，化学ゼミナールⅠ，大学院理工学研究科博士前期課程
12）平成30年度集中，化学ゼミナールⅡ，大学院理工学研究科博士前期課程
13）平成30年度集中，化学ゼミナールⅢ，大学院理工学研究科博士前期課程
14）平成30年度集中，化学ゼミナールⅣ，大学院理工学研究科博士前期課程
15）平成30年度集中，分子科学課題演習Ⅰ，大学院理工学研究科博士前期課程
16）平成30年度集中，分子科学課題演習Ⅱ，大学院理工学研究科博士前期課程

野見山　桂
1）　平成30年度前期，基礎化学実験，理学部化学科
2）　平成30年度後期，化学英語Ⅱ，理学部
3）　平成30年度前期，卒業研究Ⅰ，理学部
4）　平成30年度後期，卒業研究Ⅱ，理学部
5）　平成30年度後期，化学実験Ⅰ，理学部
6）　平成30年度前・後期，化学実験Ⅱ，Ⅲ，理学部
7）　平成30年度後期，新入生セミナー B，理学部
8）　平成30年度後期，有害物質動態論，大学院理工学研究科博士前期課程
9）　平成30年度集中，化学ゼミナールⅠ，大学院理工学研究科博士前期課程
10）平成30年度集中，化学ゼミナールⅡ，大学院理工学研究科博士前期課程
11）平成30年度集中，化学ゼミナールⅢ，大学院理工学研究科博士前期課程
12）平成30年度集中，化学ゼミナールⅣ，大学院理工学研究科博士前期課程
13）平成30年度集中，分子科学課題演習Ⅰ，大学院理工学研究科博士前期課程
14）平成30年度集中，分子科学課題演習Ⅱ，大学院理工学研究科博士前期課程

仲山　　慶
1）　平成30年度前期，基礎生物学演習，理学部
2）　平成30年度前期，海洋生物学実習，理学部
3）　平成30年度前期，生物学ゼミナールⅠ，理学部
4）　平成30年度後期，生物学ゼミナールⅡ，理学部
5）　平成30年度後期，生物学展望，理学部
6）　平成30年度後期，生物学課題研究，理学部
7）　平成30年度前後期，生物学特別演習，理学部
8）　平成30年度前後期，卒業研究，理学部

集中講義
田辺　信介
1）　平成30年度後期，生物濃縮論，熊本県立大学環境共生学部

生態系解析部門
鈴木　　聡
1）　平成30年度前期，新入生セミナー，スーパーサイエンスコース
2）　平成30年度後期，環境生化学，農学部
3）　平成30年度前期，海洋環境学，農学部
4）　平成30年度後期，環境機器分析学，農学部
5）　平成30年度後期，環境学通論，スーパーサイエンスコース
6）　平成30年度後期，コース英語，スーパーサイエンスコース
7）　平成30年度前期，環境科学セミナーⅢ，スーパーサイエンスコース
8）　平成30年度前期，環境科学セミナーⅡ，スーパーサイエンスコース
9）　平成30年度後期，生物環境保全学実験Ⅲ，農学部
10）平成30年度通年，分子生態学実習，農学部
11）平成30年度前期，生物環境保全学入門，農学部
12）平成30年度後期，環境微生物学，大学院農学研究科
13）平成30年度前後期，生物環境保全学特論，大学院農学研究科
14）平成30年度前後期，生物環境保全学演習Ⅰ，大学院農学研究科
15）平成30年度前後期，生物環境保全学演習Ⅱ，大学院農学研究科
16）平成30年度前後期，生物環境保全学実験Ⅰ，大学院農学研究科
17）平成30年度前後期，生物環境保全学実験Ⅱ，大学院農学研究科
18）平成30年度後期，微生物学，聖カタリナ学園高等学校看護専攻科

北村　真一
1）　平成30年度前期，海洋生物学，理学部
2）　平成30年度前期，海洋生物学実習，理学部
3）　平成30年度前期，生物学ゼミナールⅠ，理学部
4）　平成30年度後期，生物学展望，理学部
5）　平成30年度後期，水圏微生物学，大学院理工学研究科博士前期課程
6）　平成30年度後期，微生物学，理学部

大林由美子
1）　平成30年度前期，環境基礎数学，農学部
2）　平成30年度前期，生物学実験，農学部
3）　平成30年度後期，環境保全学概論，農学部
4）　平成30年度後期，環境保全学実験Ⅲ，農学部
5）　平成30年度通年，分子生態学実習，農学部
6）　平成30年度通年，環境保全セミナー，農学部

集中講義
北村　真一
1）　平成30年度前期，動物関連キャリア概論，岡山理科大学獣医学部

8．設　備

（平成30年度導入）

環境動態解析部門

1）　計算用マシン（RC Viento2400XSK ）：数値モデルの結果を保存・解析する

2）　ファイルサーバ（RC Xanadu Storege FS12）：数値モデルの結果を保存・解析する

9．広　報

（平成30年度）

9．1　CMES ニュース

CMES ニュース No.38

目　次

研究員紹介
化学汚染・毒性解析部門　後藤　哲智
研究課題紹介
環境動態解析部門　講　師　吉江　直樹
環境動態解析部門　教　授　郭　新宇
環境動態解析部門　教　授　森本　昭彦
環境動態解析部門　准教授　加　三千宣
受賞紹介
化学汚染・毒性解析部門　准教授　野見山　桂
中国海洋大学博士後期課程
（愛媛大学外国人客員研究員）　J. Zhang
化学汚染・毒性解析部門　研究員　H.T. Nguyen
大学院理工学研究科博士後期課程　芳之内結加
大学院理工学研究科博士後期課程　芳之内結加
大学院理工学研究科博士前期課程　野崎　一茶
生態系解析部門　教　授　鈴木　聡
化学汚染・毒性解析部門　准教授　野見山　桂
編集後記

LaMer ニュース No.5

目　次

拠点長 新年度挨拶
化学汚染・毒性解析部門　教　授　岩田　久人
共同研究課題紹介
帯広畜産大学　獣医学研究部門　久保田　彰
獨協医科大学　医学部　微生物学講座　野中　里佐
研究集会開催報告
環境動態解析部門　講　師　吉江　直樹
化学汚染・毒性解析部門　研究員　落合　真理
環境動態解析部門　教　授　森本　昭彦
大学院理工学研究科博士後期課程　T. Carvajal
化学汚染・毒性解析部門　教　授　岩田　久人
若手海外渡航報告
化学汚染・毒性解析部門　研究員　田上　瑠美
大学院理工学研究科博士後期課程　眞野　能
大学院理工学研究科博士前期課程　伊藤　匠平
平成30年度共同利用・共同研究　採択課題一覧

化学汚染・毒性解析部門　　教　授　岩田　久人
編集後記

CMES ニュース No.39
目　次
研究課題紹介
環境動態解析部門　　講　師　吉江　直樹
化学汚染・毒性解析部門　　研究員　田上　瑠美
化学汚染・毒性解析部門　　研究員　後藤　哲智
大学院連合農学研究科博士後期課程　　杉本　侑大
科研費等採択状況
受賞紹介
化学汚染・毒性解析部門　　教　授　国末　達也
大学院理工学研究科博士前期課程　　粕谷満知子
大学院理工学研究科博士前期課程　　野島　由衣
大学院理工学研究科博士前期課程　　小野　純華
大学院理工学研究科博士前期課程　　神田　宗欣
編集後記

LaMer ニュース　No.6
目　次
シンポジウム開催報告
化学汚染・毒性解析部門　　准教授　野見山　桂
研究集会開催報告
環境動態解析部門　　教　授　森本　昭彦
環境動態解析部門　　講　師　吉江　直樹
化学汚染・毒性解析部門　　特任助教　落合　真理
若手海外渡航報告
大学院連合農学研究科博士後期課程　　杉本　侑大
大学院理工学研究科博士前期課程　　島崎　真琴
化学汚染・毒性解析部門　　研究員　Bak Su-min
化学汚染・毒性解析部門　　研究員　後藤　哲智
大学院理工学研究科博士前期課程　　野島　由衣
中国海洋大学博士後期課程
（愛媛大学外国人客員研究員）　　J. Zhu
編集後記

9. 2　報道関係

環境動態解析部門

吉江　直樹

1）　平成30年10月29日，N スタえひめ「未来を開く環境活動　海の豊かさの解明を目指して，西部瀬戸内海の海洋環境について解説」，あいテレビ

化学汚染・毒性解析部門

国末　達也

1）　平成30年5月25日，有機汚染「長期化示唆」本島沿岸の調査報告，琉球新報

野見山　桂

1）　平成30年5月12日，「生命の物語 写し取る」毎日新聞（愛媛版）
2）　平成30年5月16日，「生命の物語」毎日新聞（高知版）
3）　平成30年8月7日，「イルカの死骸漂着，愛媛大汚染調査へ」高知新聞
4）　平成30年12月31日，「Peaky Monkeys」，The Times.

9．3　講座，講演会等

化学汚染・毒性解析部門

田辺　信介

1）　田辺信介（2018）：特別講演：残留性有機汚染物質（POPs）による地球と生物の汚染，第36回大学等環境安全協議会総会・研修発表会，松山，7月，資料集，1-12.
2）　田辺信介（2018）: 安心・安全なしろあり防除：クロルデンに学ぶ，日本しろあり対策協会平成30年度しろあり防除施行講習会，高松市，10月.

岩田　久人

1）　化学物質と環境，平成30年度愛媛大学附属高等学校における高大連携授業「環境教育学」，松山市，1月.
2）　水棲哺乳類の環境毒性学的研究，酪農学園大学獣医学群　特別講義，江別市，11月

国末　達也

1）　内分泌かく乱化学物質，高大連携授業「愛媛県立松山南高等学校スーパーサイエンスハイスクール環境教育学」，松山市，1月

野見山　桂

1）　自然写真を通して環境問題を考える，愛媛大学校友会人材活用センター「講演会と軽音楽の午後」，3月.
2）　化学物質による野生生物汚染と環境ホルモン問題について，三重中学校ミニ講義，愛媛大学，5月.
3）　薬物・環境化学物質の代謝活性化と甲状腺ホルモンへの影響，環境ホルモン学会第32回講演会，6月
4）　地球環境汚染について ～環境汚染が私達の暮らしを壊す。環境について考えてみませんか～，生活協同組合コープえひめ，9月
5）　環境汚染化学物質の最前線，愛媛大学グローバルサイエンスキャンパス（eGS），11月.
6）　化学物質によるペットの汚染問題，聖カタリナ大学講義，聖カタリナ大学，11月.
7）　極性汚染物質による高等動物の汚染実態とリスク評価の試み（ハロゲン化フェノール類と PPCPs 汚染解析事例から），酪農学園大学特別講義，12月.

後藤　哲智

1）　GCxGC-TOFMS を用いた POPs 類縁化合物のスクリーニング解析，日本電子株式会社主催 : 第39回分析機器 MS ユーザーズミーティング，千里ライフサイエンスセンター，大阪，11月.
2）　GCxGC-TOFMS を用いた POPs 類縁化合物のスクリーニング解析，日本電子株式会社主催 : 第40回分析機器 MS ユーザーズミーティング，浅草橋ヒューリックホール，東京，11月.

生態系解析部門

鈴木　　聡

1）　世界を揺るがす薬剤耐性菌問題と海：海に流れ出た細菌・遺伝子の運命は？　愛媛大学附属高校，グローバル

スタディーズ，2月.

北村　真一

1）　グローバルサイエンスキャンパス指導，1月～現在.

大林由美子

1）　覗いてみよう！小さな生き物たちの世界～私たちの健康と暮らしを支える微生物～，講師，第28回環境フォーラム事後勉強会，なごや環境大学共育講座，株式会社エステム主催，㈱エステム 調査分析センター，6月.
2）　女子中高生夏の学校2018～科学・技術・人との出会い～，企画・実行委員，ポスター展示・キャリア相談講師，国立女性教育会館，8月.
3）　海のサイエンスカフェ「植物プランクトンがささえる海の生態系 －北極海にせまる環境変化がもたらす影響とは－」，企画・実施・司会進行，日本海洋学会教育問題研究会主催，タリーズコーヒー 品川インターシティ店，9月.
4）　微生物オープンキャンパス「微生物！体験イベント」，企画・実施・講師，愛媛大学・松山大学連携事業，松山大学，11月.
5）　サイエンスアゴラ2018 ブース25「小さな仲間「微生物」に顕微鏡でお目にかかろう♪」，企画提供代表者・講師，テレコムセンタービル，11月.
6）　自然観察会「みてみよう！いきものミクロ☆たんけん隊」，企画・講師，日本微生物生態学会・日本菌学会・茨城県自然博物館共催，茨城県自然博物館，12月.
7）　海のサイエンスカフェ「北極海の動物プランクトンと環境変動 ～今、北極の氷の下で見られる生物の変化～」，企画・実施補助，日本海洋学会教育問題研究会主催，タリーズコーヒー 品川インターシティ店，3月.

10. 調査実習船「いさな」運航状況

（平成30年度）

船長：大西秀次郎

日　　付	運行海域	目　　的
平成30年5月9日～11日	別　府　湾	採泥調査
平成30年5月22日～25日	伊予灘～佐田岬周辺	海洋調査
平成30年5月30日～6月1日	伊予灘～佐田岬周辺	海洋調査
平成30年6月2日	伊予市～長浜沖	理学部海洋生物学実習
平成30年8月3日～4日	伊予灘～佐田岬周辺	佐田岬周辺海域における海洋調査
平成30年8月10日～11日	伊予灘～佐田岬周辺	佐田岬周辺海域における海洋調査
平成30年9月5日～6日	伊予灘～豊後水道	豊後水道（宇和海）における海洋調査
平成30年9月11日	伊予灘周辺海域	海洋前線の微細構造観測
平成30年10月16日	燧　灘	海底堆積物の採集
平成30年11月20日	松　山　沖	農学部学生実験（環境保全学実験）

11. 研究員名簿

（研究員：沿岸環境科学研究センター規則（14章参照）に基づき任命された学内の協力研究者）

（平成30年度）

氏　名	所　属	職	研究課題	主として連携する研究分野
畑田　佳男	理工学研究科生産環境工学専攻	講　師	沿岸波浪に関する研究	環境動態解析部門
井内　國光	理工学研究科生産環境工学専攻	准教授	海岸地下水に関する研究	環境動態解析部門
森脇　亮	理工学研究科生産環境工学専攻	教　授	大気環境に関する研究	環境動態解析部門
堀　利栄	理工学研究科数理物質科学専攻	教　授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究	環境動態解析部門
三浦　猛	農学研究科生物環境学専攻	教　授	海洋環境が真珠母貝（アコヤガイ）の成長および真珠形成に及ぼす影響	化学汚染・毒性解析部門 生態系解析分野
菅原　卓也	農学研究科生命機能学専攻	教　授	環境化学物質の生体毒性評価	化学汚染・毒性解析部門
村上　安則	理工学研究科環境機能科学専攻	准教授	化学物質が発生期の神経系に及ぼす影響の解析	化学汚染・毒性解析部門
鑪迫　典久	農学研究科生物環境学専攻	教　授	工場排水の生物応答を用いた管理手法の開発及び・周辺環境に及ぼす毒性影響評価等	化学汚染・毒性解析部門
座古　保	理工学研究科環境機能科学専攻	教　授	ナノ粒子や生体分子を利用した，新規バイオ分析法の開発	化学汚染・毒性解析部門
中島　敏幸	理工学研究科環境機能科学専攻	准教授	水界微生物群集の種間相互作用の解析	生態系解析部門
井上　幹生	理工学研究科環境機能科学専攻	教　授	河川性魚類の生息環境の解析	生態系解析部門
畑　啓生	理工学研究科環境機能科学専攻	准教授	沿岸魚類群集の解析	生態系解析部門
松原　孝博	南予水産研究センター	教　授	魚類腸内細菌と宿主の相互作用	生態系解析分野

12. 客員研究員名簿

（客員研究員：沿岸環境科学研究センター規則（14章参照）に基づき委嘱された学外の協力研究者）

（平成30年度）

氏　名	所　属	職	研究課題	主として連携する研究分野
高橋　暁	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	主任 研究員	瀬戸内海をはじめとする沿岸海域の環境問題に関する研究	環境動態解析部門
市川　香	九州大学応用力学研究所 地球環境力学部門	准教授	沿岸域の海面高度・流速のリモートセンシング漂流ブイ・ドローンなどを用いた広域現場観測	環境動態解析部門
速水　祐一	佐賀大学低平地沿岸海域研究センター	准教授	貧酸素水塊の形成・変動過程等，沿岸海域における海洋環境の変動機構に関する研究	環境動態解析部門
兼田　淳史	福井県立大学 海洋生物資源学部	准教授	緑辺海および内湾の物理環境に関する研究	環境動態解析部門
奈良　正和	高知大学教育研究部 自然科学系理学部門	教　授	瀬戸内海をはじめとした沿岸域の地質学的研究	環境動態解析部門
山口　一岩	香川大学農学部 応用生物科学科	准教授	沿岸海域における生物活動を介在する親生物元素の循環ならびにエネルギー流の解析	環境動態解析部門
磯辺　篤彦	九州大学応用力学研究所 附属東アジア海洋大気環境研究センター	教　授	沿岸海域における大気海洋相互作用と海洋循環	環境動態解析部門
槻木　玲美	松山大学 法学部	教　授	琵琶湖や瀬戸内海を対象に，湖底・海底の堆積物に残る色素や動物・植物プランクトンの遺骸，遺伝子情報を用いて微生物相とこれら生物間相互作用の長期変化を明らかにする古環境解析	環境動態解析部門
柴田　康行	国立研究開発法人 国立環境研究所 環境計測研究センター	フェロー	残留性有機汚染物質等の分析法開発並びに環境動態の解明等	化学汚染・毒性解析部門
森　千里	千葉大学大学院 医学研究院環境生命医学	教　授	生活習慣病や心の病，環境がもたらす健康影響などを事前に予防する「予防医学」の研究・普及を図っている	化学汚染・毒性解析部門
高田　秀重	東京農工大学 農学研究院	教　授	環境中における微量有機化学物質の分布と輸送過程についての研究等	化学汚染・毒性解析部門
井口　泰泉	横浜市立大学	特任教授	発生途上の動物（マウス，ワニ，カエル，サカナ）へのエストロゲンの影響等	化学汚染・毒性解析部門
大嶋　雄治	九州大学大学院 農学研究院	教　授	化学物質が水生生物の生理・生殖・行動に及ぼす影響	化学汚染・毒性解析部門
有薗　幸司	熊本県立大学 環境共生学部	教　授	環境汚染物質の生態影響に関する研究等	化学汚染・毒性解析部門

國頭　　恭	信州大学理学部 理学科物質循環学コース	教　授	生態系への重金属類の影響 生態系への重金属類の挙動	化学汚染・毒性解析部門
渡邉　　泉	東京農工大学大学院 農学研究院	教　授	生態系における微量元素の動態解析と影響評価等	化学汚染・毒性解析部門
山田　　格	国立科学博物館	名　誉 研究員	海棲哺乳類学	化学汚染・毒性解析部門
板井　啓明	東京大学大学院理学系研究科　地球惑星科学専攻	准教授	北西太平洋各地の生物試料中水銀安定同位体比を計測し，同位体の三次元分布を元に水銀広域動態を解析する。	化学汚染・毒性解析部門
鈴木　　剛	国立研究開発法人 国立環境研究所	主　任 研究員	資源循環研究プログラムにおいて，工業製品廃棄物の健全な資源循環・廃棄処理に資する製品由来化学物質の安全性評価に関する研究等	化学汚染・毒性解析部門
篠原　亮太	熊本県環境センター	館　長	水環境中有害化学物質の動態，中微量化学物質の動態，外因性内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン）の生態系影響，水の高度処理，干潟における多環芳香族炭化水素の光化学反応，医薬品の環境動態，有機性廃棄物の再利用	化学汚染・毒性解析部門
磯部　友彦	国立研究開発法人　国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター	主　任 研究員	主に生体試料を対象とした新規環境汚染物質の分析法開発に関する共同研究	化学汚染・毒性解析部門
飯田　　緑	九州工業大学情報工学部	博　士 研究員	抗生物質曝露による魚類への影響解析	化学汚染・毒性解析部門
木暮　一啓	東京大学 大気海洋研究所	教　授	遺伝子解析手法を用いた海洋細菌の群集構造解析に加え，環境中の発現遺伝子の解析によるその機能の推定，さらに Flavobacteria を中心とした特定機能群の分離培養等	生態系解析部門
永田　　俊	東京大学 大気海洋研究所	教　授	生元素循環という観点から海洋生態系の維持機構や変動要因に関する研究	生態系解析部門
野中　里佐	獨協医科大学 医学部微生物学講座	講　師	薬剤耐性菌とその出現・拡大のメカニズムに関する研究	生態系解析部門
中野　伸一	京都大学 生態学研究センター	教　授	従属栄養細菌と原生生物の食物連鎖である微生物ループの生態学，および原生生物の生態に関連する微細藻類やシアノバクテリアの生態学的研究	生態系解析部門
上田　拓史	高知大学	名誉教授	日本沿岸海域および淡水域におけるカイアシ類および他の動物プランクトンに関する分類学と分布生態学	生態系解析部門
広瀬　裕一	琉球大学理学部海洋自然学科生物系	教　授	ホヤの生物学および形態学	生態系解析部門
柳田　哲矢	山口大学共同獣医学部	准教授	寄生虫の集団遺伝学的解析	生態系解析部門
臼井　　優	酪農学園大学獣医学部	准教授	環境の薬剤耐性菌の衛生学的研究	生態系解析部門
丸山　史人	京都大学大学院医学研究科	准教授	環境ゲノミクスの研究	生態系解析部門

13. 運営委員会

（平成30年度）

委員長	田　辺　信　介	沿岸環境科学研究センター　特別栄誉教授・センター長
委　員	不　破　　茂	法文学部　准教授
委　員	中　村　依　子	教育学部　准教授
委　員	中　島　敏　幸	大学院理工学研究科（理）　教授
委　員	三　宅　吉　博	大学院医学系研究科　教授
委　員	日　向　博　文	大学院理工学研究科（工）　教授
委　員	竹　内　一　郎	農学部　教授
委　員	山　藤　　篤	社会共創学部　助教
委　員	長谷川　和　彦	研究支援部　部長
委　員	武　岡　英　隆	社会連携推進機構　特命教授
委　員	鈴　木　　聡	沿岸環境科学研究センター　教授
委　員	岩　田　久　人	沿岸環境科学研究センター　教授
委　員	国　末　達　也	沿岸環境科学研究センター　教授
委　員	郭　　新　宇	沿岸環境科学研究センター　教授
委　員	森　本　昭　彦	沿岸環境科学研究センター　教授
委　員	北　村　真　一	沿岸環境科学研究センター　准教授
委　員	加　　三千宣	沿岸環境科学研究センター　准教授
委　員	野見山　　桂	沿岸環境科学研究センター　准教授

14. センター規則および運営委員会規程

愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則

平成16年４月１日
規則第197号

（趣旨）
第１条　この規則は，国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第２項の規定に基づき，愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し，必要な事項を定めるものとする。
（目的）
第２条　センターは，沿岸域の環境科学に関する研究及び教育を行うことにより，沿岸環境科学研究の総合的推進を図り，併せて地域社会の発展に貢献することを目的とする。
（研究部門）
第３条　前条の目的を達成するため，センターに次の研究部門を置く。
⑴　環境動態解析部門
⑵　化学汚染・毒性解析部門
⑶　生態系解析部門
⑷　国際・社会連携部門
（組織）
第４条　センターに，次の各号に掲げる職員を置く。
⑴　センター長
⑵　専任教員
⑶　特定職員である教員
⑷　兼任教員
⑸　その他必要な職員（以下「センター職員」という。）
２　センターに，前項のほか，副センター長を置くことができる。
（先端研究推進会議）
第５条　センターの業務に関する重要な事項は，愛媛大学先端研究・学術推進機構先端研究推進会議（以下「先端研究推進会議」という。）において審議する。
（運営委員会）
第６条　センターの運営に関する事項を審議するため，センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。
２　運営委員会に関する規程は，別に定める。
（センター長）
第７条　センター長及び副センター長は，愛媛大学（以下「本学」という。）の専任の教授及び特定職員である教授のうちから先端研究推進会議が推薦し，学長が選考する。
２　センター長及び副センター長の任期は，２年とし，再任を妨げない。ただし，センター長又は副センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は，それぞれ前任者の残任期間とする。
３　前項の規定にかかわらず，副センター長の任期は，センター長の任期の末日を超えることができない。
（専任教員）
第８条　センターの専任教員は，先端研究推進会議が推薦し，学長が選考する。
（兼任教員）
第９条　兼任教員は，本学の専任教員及び特定職員である教員のうちから，センター長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て推薦し，学長が任命する。

2　兼任教員の任期は，２年とし，再任を妨げない。ただし，兼任教員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

3　前項の規定にかかわらず，兼任教員の任期は，センター長の任期の末日を超えることができない。

（職務）

第10条　センター長は，センターの業務を掌理する。

2　副センター長は，センター長の職務を補佐し，センター長が不在又は事故があるときは，その職務を代行する。

3　専任教員及び特定職員である教員は，センター長の職務を助け，センターの業務を遂行する。

4　兼任教員は，専任教員とともにセンターの業務を遂行する。

5　センター職員は，センターの業務に従事する。

（研究員）

第11条　センターに，研究員を置くことができる。

2　研究員は，センターの研究計画に基づき，研究に従事するものとする。

3　研究員は，本学の専任教員のうちからセンターの専任教員が推薦し，運営委員会の議を経て，学長が任命する。

4　研究員の任期は２年以内とし，再任を妨げない。

（客員研究員）

第12条　センターに，客員研究員を置くことができる。

2　客員研究員の選考は，愛媛大学客員研究員規程の定めるところによる。

（利用）

第13条　センターの利用に関する規程は，別に定める。

（生物環境試料バンク）

第14条　センターに，生物・環境試料を収集管理し，学内外の研究に供する生物環境試料バンク（以下「バンク」という。）を置く。

2　バンクに関する規程は，別に定める。

（研究生）

第15条　センターは，研究生を受け入れることができる。

2　研究生の入学選考は，運営委員会で行う。

（事務）

第16条　センターに関する事務は，研究支援部研究支援課において処理する。

（雑則）

第17条　この規則に定めるもののほか，センターに関し必要な事項は，別に定める。

附　則

この規則は，平成16年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成16年６月９日から施行する。

附　則

この規則は，平成16年11月16日から施行する。

附　則

この規則は，平成18年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成20年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成20年10月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成21年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成22年４月１日から施行する。

附　則
この規則は，平成22年４月14日から施行し，平成22年４月１日から適用する。
附　則
この規則は，平成22年９月７日から施行し，平成22年７月７日から適用する。
附　則
この規則は，平成23年４月１日から施行する。
附　則
この規則は，平成25年７月25日から施行する。
附　則
この規則は，平成27年２月18日から施行する。
附　則
この規則は，平成28年４月１日から施行する。
附　則
この規則は，平成29年４月１日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会規程

（平成16年４月１日
規則第26号）

（趣旨）
第１条　この規程は，愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則第６条第２項の規定に基づき，愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し，必要な事項を定めるものとする。
（審議事項）
第２条　運営委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
⑴　愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の運営に係る基本事項に関すること。
⑵　センターの予算及び決算に関すること。
⑶　その他センターの運営に関すること。
（組織）
第３条　運営委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
⑴　センター長
⑵　副センター長（副センター長を置く場合に限る。）
⑶　センターの講師以上の専任教員
⑷　各学部の専任教員　各１人
⑸　研究支援部長
⑹　その他委員長が必要と認めた者
２　前項第４号の委員は，各学部長が推薦し，学長が任命する。
３　第１項第６号の委員は，運営委員会の議を経て委員長が推薦し，学長が任命する。
４　第１項第４号の委員の任期は，２年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員が生じたときはこれを補充し，その任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　運営委員会に委員長を置き，センター長をもって充てる。
２　委員長は，運営委員会を招集し，その議長となる。
３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。
（議事）
第５条　運営委員会は，委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

２　議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。
（委員以外の者の出席）
第６条　委員長が必要と認めるときは，委員以外の者を出席させ，説明又は意見を聴くことができる。
（専門委員会）
第７条　運営委員会は，専門的事項を調査検討するため，専門委員会を置くことができる。
２　専門委員会に関する事項は，運営委員会が定める。
（事務）
第８条　運営委員会に関する事務は，研究支援部研究支援課において処理する。
（雑則）
第９条　この規程に定めるもののほか，運営委員会の運営に関し必要な事項は，運営委員会が定める。

附　則
この規程は，平成16年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成16年11月16日から施行する。
附　則
この規程は，平成18年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成20年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成20年10月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成22年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成27年２月18日から施行する。
附　則
１　この規程は，平成28年４月１日から施行する。
２　この規程施行後，第３条第２項の規定により最初に任命される社会共創学部の同条第１項第４号の委員の任期は，同条第４項の規定にかかわらず，平成29年３月31日までとする。
附　則
この規程は，平成29年４月１日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク内規

（平成16年４月１日
制　定）

（趣旨）
第１条　この内規は，愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）規則第13条第２項の規定に基づき，愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク（以下「試料バンク」という。）の組織及び運営に関し，必要な事項を定めるものとする。
（業務）
第２条　試料バンクは，生物及び環境の試料を収集管理するとともに，学内外の研究に供し，沿岸環境科学の推進に資する業務を処理する。
（組織）
第３条　試料バンクに，次の各号に掲げる職員を置く。
⑴　試料バンク長

⑵　その他必要な職員

第４条　試料バンク長は，センター教員のうちからセンター運営委員会が推薦し，センター長が任命する。

２　試料バンク長の任期は２年とし，再任を妨げない。

３　試料バンク長はセンター長の指示に従い，試料バンクの業務を掌理する。

（専門委員会）

第５条　試料バンクに，試料バンクに関する重要事項を審議するため試料バンク専門委員会を置く。

２　試料バンク専門委員会に関し必要な事項は，別に定める。

（事務）

第６条　試料バンクの事務は，研究支援部研究支援課で処理する。

（雑則）

第７条　この内規に定めるもののほか，試料バンクの運営に関し必要な事項は，別に定める。

附　則

１　この内規は，平成16年４月１日から施行する。

２　この内規の施行後，最初に任命される試料バンク長の任期は，第４条第２項の規定にかかわらず，平成17年３月31日までとする。

附　則

この内規は，平成16年11月16日から施行する。

附　則

この内規は，平成18年４月１日から施行する。

附　則

この内規は，平成20年４月１日から施行する。

附　則

この内規は，平成20年10月１日から施行する。

附　則

この内規は，平成22年４月１日から施行する。

附　則

この内規は，平成29年４月１日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター

調査実習船「いさな」安全管理規程

平成28年４月１日

目　次

第１章　総　則

第２章　安全統括管理者の責務

第３章　安全統括管理者，運航管理者等の選解任

第４章　安全統括管理者等の勤務体制並びに職務及び権限

第５章　運航計画の作成等並びに運航に必要な情報の収集及び伝達

第６章　運航の可否判断

第７章　運航及び調査・実習に伴う作業の安全の確保

第８章　運航施設の点検整備

第９章　海難その他の事故の処理

第10章　安全に関する教育，訓練等

第11章　雑　則

第１章　総　則

（目的）

第１条　この規程は，愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）が調査実習船の運航に当たって，安全最優先意識の徹底を図るとともに，調査実習船の業務を安全，適正かつ円滑に処理するための業務の実施の基準を明確にし，運航の安全を確保することを目的とする。

（用語の意義）

第２条　この規程において，次の各号に掲げる用語の意義は，それぞれ当該各号に定めるところによる。

⑴　安全マネジメント体制：安全統括管理者により，センターで行われる安全管理が，あるべき手順及び方法に沿って確立され，実施され，維持される状態

⑵　安全統括管理者：運航の安全を確保するための管理業務を統括管理する者

⑶　運航管理者：船長の職務権限に属する事項以外の船舶の運航の管理に関する統轄責任者

⑷　運航管理補助者：運航管理者の職務を補佐し，運航管理者が職務を執行できないとき，その職務を代行する者

⑸　陸上連絡員：船舶との連絡を行う者

⑹　運航補助員：乗員の代表者（学生を除く。）

⑺　運航計画：起終点，寄港地，航行経路，航海速力，運航回数，発着時刻，運航の時季等に関する計画

⑻　発航：現在の停泊場所を解らんして次の目的港への航海を開始すること。

⑼　基準航行：基準経路を基準速力により航行すること。

⑽　入港：港の区域内，港湾区域内等において，狭水路，関門等を通航して防波堤等の内部へ進航すること。

⑾　運航：「発航」，「基準経路及び基準速力による航行の継続」又は「着桟」を行うこと。

⑿　反転：目的港への航行の継続を中止し，発航港へ引返すこと。

⒀　運航基準図：航行経路（起終点，寄港地，針路，変針点等），標準運航時間，航海速力，船長が直接操船する区間，その他航行の安全を確保するために必要な事項を記載した図面

第２章　安全統括管理者の責務

（安全統括管理者の主体的関与）

第３条　船舶による運航の安全確保のため，安全統括管理者は次に掲げる事項について主体的に関与し，全体の安全マネジメント体制を適切に運営する。

⑴　関係法令及び学内規程の遵守と安全最優先の原則の徹底

⑵　重大な事故等に対する確実な対応

⑶　安全マネジメント体制を確立し，実施し，維持するために，かつ，運航の安全を確保するために必要な要員，情報，運航施設等を確実に使用できるようにすること。

⑷　安全マネジメント体制の見直し

第３章　安全統括管理者，運航管理者等の選解任

（安全統括管理者の選任）

第４条　センター長は，安全統括管理者を選任又は自ら兼任する。

（運航管理者の選任）

第５条　安全統括管理者は，センターの教職員の中から運航管理者を選任する。

（安全統括管理者及び運航管理者の解任）

第６条　安全統括管理者は，安全統括管理者又は運航管理者が次の各号のいずれかに該当することとなったときは，当該安全統括管理者又は運航管理者を解任する（自ら兼務している場合は兼務を解く。）ものとする。

⑴　身体の故障その他やむを得ない事由により職務を引続き行うことが困難になったとき。

⑵　安全管理規程に違反することにより，その職務を引続き行うことが運航の安全の確保に支障を及ぼすおそれがあると認められるとき。

（運航管理補助者及び陸上連絡員の選任及び解任）

第７条　安全統括管理者は，運航管理補助者及び陸上連絡員を選任及び解任する。

第４章　安全統括管理者等の勤務体制並びに職務及び権限

（安全統括管理者等の勤務体制）

第８条　安全統括管理者，運航管理者及び運航管理補助者は，船舶を運航中は常時連絡できる体制になければならない。

（安全統括管理者の職務及び権限）

第９条　安全統括管理者の職務及び権限は，次のとおりとする。

⑴　安全マネジメント体制に必要な手順及び方法を確立し，実施し，維持すること。

⑵　情報伝達及びコミュニケーションの確保，事故等に関する報告，是正措置及び予防措置の実施状況等，安全マネジメント体制の実施状況及び改善の必要性の有無を記録すること。

⑶　関係法令の遵守と安全最優先の原則を徹底するとともに，安全管理規程の遵守を確実にすること。

（運航管理者の職務及び権限）

第10条　運航管理者の職務及び権限は，次のとおりとする。

⑴　船長の職務権限に属する事項を除き，船舶の運航の管理及び運航の安全に関する業務全般を統轄し，安全管理規程の遵守を確実にしてその実施を図ること。

⑵　船舶の運航に関し，（船長と協力して）運航の安全を図ること。

⑶　運航管理補助者を指揮監督すること。

２　運航管理者の職務及び権限は，法令に定める船長の職務及び権限を侵し，又はその責任を軽減するものではない。

（運航管理補助者の職務）

第11条　運航管理補助者は，運航管理者を補佐するほか，運航管理者がその職務を執行できないときは，その職務を代行するものとする。

第５章　運航計画の作成等並びに運航に必要な情報の収集及び伝達

（使用許可）

第12条　船舶の使用を希望する者は，あらかじめセンター長に調査実習船使用願を提出し，使用許可を受けなければならない。

２　乗船者に学外者が含まれる場合は，前項の使用願とともに，当該者に係る誓約書を提出しなければならない。

３　センター長は，船舶の使用を許可したときは，遅滞なく運航管理者及び船長に通知するものとする。

（運航計画の作成及び変更）

第13条　船長は運航にあたって事前に運航計画書を運航管理者に提出しなければならない。

２　運航計画を作成又は変更する場合は，運航管理者は使用船舶の性能，使用桟橋付近の状況，航路の交通状況及び自然的性質等についてその安全性を検討するものとする。

３　船舶，陸上施設又は港の状況が船舶の運航に支障を及ぼすおそれがあると認められる場合は，運航管理者は，運航休止，寄港地変更等の措置をとらなければならない。

（運航管理者の措置）

第14条　運航管理者は，前条第１項に定める運航計画書の提出があった場合は，遅滞なく安全統括管理者に報告するものとする。

２　運航管理者は，気象・海象に関する情報，港内事情，陸上施設の状況，水路通報，港長公示等官公庁の発する運航に関する情報，乗船した乗員数，船舶の動静，その他航行の安全の確保のために必要な事項を把握するものとする。

（船長の措置）

第15条　船長は，次に掲げる場合には必ず陸上連絡員に連絡しなければならない。

⑴　発航前点検を終え出港するとき。

⑵　現場海域での調査・実習が終了したとき。

⑶　着桟したとき。

⑷　非常連絡事項（別表）に定める事故が発生したとき。

⑸　航行の安全に係わりを有する船体，機関，設備等の修理又は整備を必要とする事態が生じたとき。

２　船長は，次に掲げる事項の把握に努めるものとする。

⑴　気象・海象に関する情報
⑵　航行中の水路の状況

（連絡方法）

第16条　船長と陸上連絡員との連絡は，携帯電話等によるものとする。

（運航基準図等）

第17条　運航基準図に記載すべき事項は次のとおりとする。

⑴　起点，終点及び寄港地の位置並びにこれら相互間の距離
⑵　航行経路（針路，変針点，基準経路等）
⑶　標準運航時間（起点，終点及び寄港地並びに主要地点通過時間）
⑷　通航船舶，漁船等により，通常，船舶がふくそうする海域
⑸　航行経路付近に存在する浅瀬，岩礁等航行の障害となるものの位置
⑹　その他航行の安全を確保するために必要な事項

２　船長は，基準経路，避険線その他必要と認める事項を海図に記入するものとする。

（速力基準等）

第18条　速力基準は，次のとおりとする。

速力区分	速力	毎分機関回転数
最 微 速	２ノット	600rpm（スロークラッチ使用）
微　　速	５ノット	600rpm
半　　速	15ノット	1800rpm
航海速力	21ノット	2400rpm

２　船長は，速力基準表を船橋内の操作する位置から見易い場所に掲示しなければならない。

（特定航法）

第19条　伊予市森港の航法は，次のとおりとする。

船舶は，入港しようとするときは森港栽培漁業研究所取水口灯浮標を右に見て水路に入り，水路の右側を航行しなければならない。

第６章　運航の可否判断

（発航の可否判断）

第20条　船長は，発航前に運航の可否判断を行い，発航地の気象・海象が次に掲げる条件の一に達していると認めるときは，発航を中止しなければならない。

⑴　波浪警報・注意報発令
⑵　風速　10m/s 以上
⑶　波高　1.5m以上
⑷　視程　1,000m以下

２　船長は，発航前において，航行中に遭遇する気象・海象（視程を除く。）に関する情報を確認し，次に掲げる条件の一に達するおそれがあると認めるときは，発航を中止しなければならない。

⑴　波浪警報・注意報発令
⑵　風速　10m/s 以上
⑶　波高　1.5m以上

３　船長は，前２項の規定に基づき発航の中止を決定したときは，乗員の下船，保船措置その他の適切な措置をとらなければならない。

（航行の可否判断）

第21条　船長は，周囲の気象・海象（視程を含む。）に関する情報を確認し，基準航行を継続した場合，船体の動揺等により安全な運航が困難となるおそれがあると認めるとき又は周囲の視程が1,000m以下となったときは，基準航行を中止し，減速，適宜の変針，反転等の適切な措置をとらなければならない。

２　船長は，日の出前及び日没後の航行を避けるよう，運航計画を作成するとともに，万が一運航中遭遇が予想される場合は，運航計画の変更を速やかに行い，避港等の措置を実施する。

（着桟の可否判断）

第22条　船長は，着桟予定地の気象・海象に関する情報を確認し，次に掲げる条件の一に達していると認めるとき

は，着桟を中止し，適宜の海域での待機，臨時寄港その他の適切な措置をとらなければならない。

⑴　波浪警報・注意報発令

⑵　風速　10m/s 以上

⑶　波高　1.5m以上

⑷　視程　1,000m以下

（運航の可否判断等の連絡及び記録）

第23条　船長は，運航中止の措置をとったときは，その旨を陸上連絡員に連絡しなければならない。

2　船長は，基準航行の変更，運航の可否判断，運航中止の措置を運航日誌に記録するものとする。運航中止基準の達した，又は達するおそれがあった場合における運航継続の措置については，判断理由を記載すること。記録は適時まとめて記載してもよい。

（陸上連絡員の援助措置）

第24条　陸上連絡員は，船長から臨時寄港する旨の連絡を受けたときは，当該寄港地における使用桟橋の手配等適切な援助を行うものとする。

第７章　運航及び調査・実習に伴う作業の安全の確保

（作業体制）

第25条　船長は，乗員の中から運航補助員（学生を除く。）を任命する。

2　船長は運航補助員及び乗員を指揮して，乗下船する乗員の誘導，離着桟時における諸作業を実施する。

3　船長は，乗員に対し，乗船前又は乗船後出港前に，安全に関する説明を行う。

（乗船作業）

第26条　着桟後，運航補助員は船長の指示を確認し，乗員に乗船の開始を指示する。

2　運航補助員は乗船乗員数を把握し，乗員定員を超えていないことを確認して船長に報告する。

（離桟作業）

第27条　運航補助員は，乗員の乗船が完了したときはその旨船長に報告し，船長の指示により迅速に離桟作業を行う。

（着桟作業）

第28条　運航補助員は，船長の指示により迅速，確実に係留作業を実施する。

2　運航補助員は，着桟時の衝撃による乗員の転倒事故を防止するため，乗員へ着席や手すりへの掴まりを指示する。

3　運航補助員は，着桟時，乗員が船体着桟側に身を乗り出さないよう注意する。

（係留中の保安）

第29条　船長及び運航補助員は，係留中，乗員の安全に支障のないよう係留方法に十分留意する。

（下船作業）

第30条　船長は，船体が完全に着桟したことを確認したときは，その旨乗員に合図する。

2　運航補助員は，着桟完了合図を確認した後，乗員に下船を指示し，下船完了後，船長に報告する。

（発航前点検）

第31条　船長は，発航前に船舶が航海に支障ないかどうか，その他航海に必要な準備が整っているかどうか等を点検しなければならない。

（船内点検）

第32条　船長は，航海中，船内の状況に留意し，直接状況を見られない場所その他必要と認められる場所については運航補助員及び乗員に点検させるものとする。

（機器点検）

第33条　船長は着桟前，桟橋手前（防波堤手前）300m 等着桟地の状況に応じ安全な海域において，機関の後進，舵等の点検を実施する。一日に何度も離着桟を繰り返す場合もその都度実施する。

（乗船待ち及び調査・実習中の乗員に対する遵守事項等の周知）

第34条　船長は，乗員に対して乗船前又は乗船後出港前において，次の事項を周知しなければならない。

⑴　乗員は乗下船時又は船内においては，船長及び運航補助員の誘導に従うこと。

⑵　乗員は船内においては，乗船中の者に危害を加えるような行為又は迷惑をかける行為をしないこと。

⑶　その他乗員の調査・実習中の安全に関して調査実習船「いさな」使用者の安全心得（別紙）を守ること。

（船内における遵守事項等の掲示）
第35条　船長は，船内の乗員が見やすい場所に次の事項を掲示しなければならない。
⑴　乗員の禁止事項
⑵　救命胴衣の格納場所及び着用方法
⑶　非常の際の避難要領（非常信号，避難経路等）
⑷　病気，盗難等が発生した場合の乗員への通報
⑸　下船及び非常の際には船長及び運航補助員の指示に従うこと。
（乗員に対する救命胴衣及び安全具の着用に関する指示）
第36条　船長は，救命胴衣及び安全具の着用に関し，乗員に対し次の措置を講じなければならない。
⑴　乗員には，常時救命胴衣を着用させるよう徹底させること。
⑵　甲板作業中は，ヘルメット及び手袋の着用を徹底させること。
⑶　特に必要があるときは，防護具が入った安全靴の着用を指示すること。
（飲酒等の禁止）
第37条　船長及び乗員は，呼気１リットル中のアルコール濃度が0.15mg以上であると判断される場合は，船舶の運航及び調査・実習等の作業を行ってはならない。

第８章　運航施設の点検整備

（船舶検査結果の確認）
第38条　運航管理者は，船舶が法令に定める船舶検査を受検したときは，当該検査の結果を確認しておくこと。
（船舶の点検整備）
第39条　船長は，船体，機関，諸設備，諸装置等について，点検簿を作成し，それに従って，原則として運航前に１回以上点検を実施するものとする。ただし，当日，発航前点検を実施した事項については点検を省略することができる。
２　船長は，前項の点検中，異常を発見したときは，修復整備の措置を講じなければならない。
（陸上施設の点検整備）
第40条　船長は，陸上施設チェック表に基づいて，運航前に１回以上，係留施設（岸壁，ビット，防舷材），乗降用施設について点検し，異常のある個所を発見したときは，直ちに修復整備の措置を講じなければならない。

第９章　海難その他の事故の処理

（事故処理にあたっての基本的態度）
第41条　事故の処理にあたっては，次に掲げる基本的態度で臨むものとする。
⑴　人命の安全の確保を最優先とすること。
⑵　事態を楽観視せず常に最悪の事態を念頭におき措置を講ずること。
⑶　事故処理業務は，すべての業務に優先して実施すること。
⑷　陸上連絡員は，陸上でとりうるあらゆる措置を講ずること。
（事故等の範囲）
第42条　この規程において,「事故」とは本学の運航中の船舶に係る第１号から第４号までに掲げる事象をいい,「事故等」とは事故及び第５号の事態（以下「インシデント」という。）をいう。
⑴　乗員，乗員又はその他の乗船者の死亡，行方不明，負傷若しくは疾病又はその他の人身事故（以下「人身事故」という。）
⑵　衝突，乗揚げ，火災，浸水，漂流，行方不明，機関停止等重大な機関故障又はその他の救助を必要とする船舶の海難事故
⑶　航路の障害，港湾施設の損傷又は荒天等による運航の阻害
⑷　強取（乗っ取り），殺人，傷害又は暴行・脅迫等の不法行為による運航の阻害
⑸　前各号の事象に至るおそれの大きかった事態
（船長のとるべき措置）
第43条　船長は，自船に事故が発生したときは，人命の安全の確保のための万全の措置，事故の拡大防止のための措置，乗員の不安を除去するための措置等必要な措置を講ずるとともに，事故の状況及び講じた措置を速やかに海上保安官署及び陸上連絡員等に連絡しなければならない。この場合において措置への助言を求め，援

助を必要とするか否かの連絡を行わなければならない。

2　船長から海上保安官署等への速報は，「官公署連絡表」（別表）により，まず，「118」番に架電し，以後，海上保安官署の指示によるものとする。

3　船長は，自船が重大かつ急迫の危険に陥った場合又は陥るおそれがある場合は，直ちに遭難通信（遭難信号）又は緊急通信を発しなければならない。

4　事故が発生したときに，乗員の安全，船体の保全のために船長が講ずべき必要な措置はおおむね次のとおりである。

⑴　海難事故の場合

①損傷状況の把握及び事故局限の可否の検討

②人身事故に対する早急な救護

③連絡方法の確立

④乗員への正確な情報の周知及び状況に即した適切な乗員の誘導

⑤二次災害及び被害拡大を防止するための適切な作業の実施

⑵　不法事件の場合

①被害者に対する早急な救護

②不法行為者の隔離又は監視

③連絡方法の確立

④乗員に対する現状及び措置状況の周知と乗員の軽率な行為の禁止

⑤不法行為が継続している場合，中止を求める不法行為者への説得

（陸上連絡員のとるべき措置）

第44条　陸上連絡員は，通常連絡，着桟連絡等，船長からの連絡が異常に遅延し連絡がない場合，遅滞なく船舶の動静把握のために必要な措置を講じなければならない。

2　陸上連絡員は，前項の措置を講じたにもかかわらず船舶の動静を把握できないときは，直ちに「118」番により海上保安官署に連絡するとともに，関係者に通報しなければならない。

3　事故の発生を知ったとき又は船舶の動静が把握できないときに陸上連絡員がとるべき必要な措置はおおむね次のとおりである。

⑴　事故の実態把握及び救難に必要な情報の収集

⑵　海上保安官署への救助要請

⑶　行方不明者の捜索又は本船の救助のための捜索船又は救助船等の手配

⑷　必要人員の派遣及び必要物資の補給等

⑸　船長に対する必要事項の連絡

⑹　医師，病院，宿舎の手配等の乗員の救護のための措置

⑺　乗員の氏名の確認及びその連絡先への通知

⑻　損害保険会社への連絡

（安全統括管理者のとるべき措置）

第45条　安全統括管理者は，事故の状況，被害規模等を把握・分析し，適切に対応措置を講じなければならない。また，現場におけるリスクを明確にし，必要な対応措置を講じなければならない。

（医療救護の連絡等）

第46条　船長及び陸上連絡員は，船内に医療救護を必要とする事態が発生したときは，最寄りの医師と連絡をとり，その指示のもとに適切な措置を講じなければならない。

（現場の保存）

第47条　船長及び陸上連絡員は，事故の処理後，関係海上保安官署等と連絡をとりつつ，事故原因の調査を行うとともに，事件捜査の対象となる場所及び物品の保存に努めなければならない。

（事故の原因等の調査）

第48条　運航管理者は，事故原因及び事故処理の適否を調査し，事故の再発防止及び事故処理の改善を図るものとする。

第10章　安全に関する教育，訓練等

（安全教育）

第49条　安全統括管理者は，乗員及び陸上連絡員に対し，安全管理規程，海上衝突予防法等の関係法令その他運航の安全を確保するために必要と認められる事項について理解しやすい具体的な安全教育を定期的に実施し，その周知徹底を図らなければならない。

2　運航管理者は，航路の状況，海難その他の事故及びインシデント（事故等の損害を伴わない危険事象）事例を調査研究し，随時又は前項の教育に併せて乗員に周知徹底を図るものとする。

（訓練）

第50条　安全統括管理者は，事故処理に関する訓練を計画し，年１回以上これを実施しなければならない。訓練は，実践的なものとし，訓練の前後には打合せを行う。

（記録）

第51条　運航管理者は，前２条の教育及び訓練を行ったときは，その概要を記録簿に記録しておくものとする。

（見直し）

第52条　安全統括管理者は，年１回以上船舶及び陸上施設の状況並びに安全管理規程の遵守状況のほか安全マネジメント体制全般にわたり見直しを行うものとする。さらに，重大事故が発生した場合には速やかに実施する。

2　見直しを行うに際し，安全マネジメント体制の機能全般に関し見直しを行い，改善の必要性について評価し，改善に向け作業する。

3　安全統括管理者は，見直しを行ったときは，その内容を記録しておくものとする。

第11章　雑　則

（安全管理規程の変更）

第53条　安全統括管理者は，関係法令の改正，使用船舶の変更等，この規程の内容に係る事項に常に留意し，当該事項に変更が生じたときは，遅滞なくこの規程の改正を行なうものとする。

（安全管理規程等の備付け等）

第54条　安全統括管理者は，安全管理規程及び運航基準図を船舶その他必要と認められる場所に，容易に閲覧できるよう備え付けなければならない。

2　安全マネジメント体制を確立し，実施し，維持するために，作成した各種文書は適切に管理する。

（情報伝達）

第55条　安全統括管理者は，運航の安全の確保に関する情報伝達を行うとともに容易に閲覧できるようにする。

2　安全統括管理者は，安全にかかる意見等の把握に努め，その検討，実現反映状況についてセンター内各員へ周知する。

附　則

この規程は，平成22年６月２日から施行する。

附　則

この規程は，平成23年７月８日から施行する。

附　則

この規程は，平成28年４月１日から施行する。

別紙（第34条第３号関係）

調査実習船「いさな」使用者の安全心得

〈乗船前安全心得〉

１．乗船にあたって，使用責任者は研究室及び事務室に乗船目的や，航海計画を事前に提出して許可を得，乗船時の緊急連絡先を確保して置くこと。また，補助者が学生（正職員で無い場合）の場合は出張届を出して，大学の総合保険を付けて貰うこと（平成17年７月１日から適用）。

２．船は狭くて突起物が多いので，服装は身体にフィットするものとし，長靴又は靴を準備すること（サンダル履き禁止）。

３．体調には十分留意し，持ち込む飲食物にも十分注意を払うこと。

〈乗船時安全心得〉

１．船内においては船長の命令は絶対であるので，指示に従うこと。

２．乗船してすぐに救命胴衣を着用すること。また乗船中は常に着用しておくこと。

３．出港時，入港時は岸壁等で身体を挟まないように特に注意すること。船が重たいので，スピードが出ていなくても，強大な圧力がかかる。また，舫い綱も危険であるので，触る場合は船長の指示どおりに行うこと。

４．救命筏や消火設備，信号紅煙の場所を事前にチェックして，自己の安全を確保しておくこと。船は燃え易い材質なので火気使用は極力避けること。救命浮器は上部甲板後方にある。

５．乗船中はみだりに船舶備品を触らない。特に計器類は航海上重大な危険を伴うので，研究上必要な場合も船長の許可を得てから使用すること。不用意に触ってしまった場合は，必ず船長に申し出ること。

６．船に持ち込んだ調査器具や手回り品は作業や通行に邪魔にならないところに荷崩れを起こさないように積み込むこと。

７．調査時，特にウインチで器具を吊り上げたり下ろしたりしている時は危険であるので，ロープやワイヤーの下にいたり，ロープを踏んだりしないこと。アンカーの上げ下げの時も同様である。

８．船内は全面禁煙である。

〈下船時心得〉

１．船長の指示に従って，船を乗船前の状態に戻すこと。特に持ち込んだものは，ゴミ類に至るまで持ち帰ること。

２．救命胴衣やヘルメットなど，船舶備品は持ち帰らないこと。

補足：〈自分の身は自分で守る〉

１．携帯電話は十分に充電しておき，ビニール袋などに入れて携帯しておく。
　遭難時は，連絡手段の有無が明暗を分けます。常に連絡手段の確保に努めましょう。

２．気象状況を良く確認しておき，それに備えた服装にする。
　体が濡れた状態で風に当たると体力を奪われます。雨具を用意しましょう。また，綿製の衣類は，濡れると体温を奪います。化学繊維製で速乾素材の衣服着用を心がけましょう。（遭難時においても体温保持に相当の効果があるとされています）

３．非常用食料，飲料を少量でよいので準備しておく。

４．船は常に揺れているため，脳や体が徐々に疲れ，船酔いの原因ともなる。こまめな糖分・水分の補給を心がけよう。

５．夏季は大量の紫外線を浴びる。長袖長ズボン，帽子，サングラス，日焼け止めクリームを準備しましょう。

別表（第43条第２項関係）

「官　公　署　連　絡　表」

【非常連絡事項】　事故等が発生した場合の連絡は，原則として次の区分により行うものとする。
(1)　全事故等に共通する事項
　　船名，日時，場所，事故等の種類，死傷者の有無，救助の要否，当時の気象・海象
(2)　事故等の態様による事項

	事故等の種類	連　　絡　　事　　項
a	衝突	①　衝突の状況（衝突時の両船の針路，速力等又は岸壁等への接近状況） ②　船体，機器の損傷状況 ③　浸水の有無（あるときはｄ項） ④　流出油の有無（あるときはその程度及び防除措置） ⑤　自力航行の可否 ⑥　相手船の船種，船名，総トン数，（用）船主・船長名（できれば住所，連絡先） 　　－船舶衝突の場合 ⑦　相手船の状況（船体損傷の状況，死傷者の有無，救助の要否等） 　　－船舶衝突の場合
b	乗揚げ	①　乗揚げの状況（乗揚げ時の針路，速力，海底との接触個所，船体傾斜，吃水の変化，陸岸との関係等） ②　船体周囲の水深，底質及び付近の状況 ③　潮汐の状況，船体に及ぼす風潮及び波浪の影響 ④　船体，機器の損傷状況 ⑤　浸水の有無（あるときはｄ項） ⑥　離礁の見通し及び陸上からの救助の可否 ⑦　流出油の有無（あるときはその程度及び防除措置）
c	火災	①　出火場所及び火災の状況 ②　出火原因 ③　船体，機器の損傷状況 ④　消火作業の状況 ⑤　消火の見通し
d	浸水	①　浸水個所及び浸水の原因 ②　浸水量及びその増減の程度 ③　船体，機器の損傷状況 ④　浸水防止作業の状況 ⑤　船体に及ぼす風浪の影響 ⑥　浸水防止の見通し ⑦　流出油の有無（あるときはその程度及び防除措置）
e	強取，殺人傷害，暴行等の不法行為	①　事件の種類 ②　事件発生の端緒及び経緯 ③　被害者の氏名，被害状況等 ④　被疑者の人数，氏名等 ⑤　被疑者が凶器を所持している場合は，その種類，数量等 ⑥　措置状況
f	人身事故（行方不明を除く）	①　事故の発生状況 ②　死傷者数又は疾病者数 ③　発生原因 ④　負傷又は疾病の程度 ⑤　応急手当の状況 ⑥　緊急下船の必要の有無
g	乗員，乗組員等の行方不明	①　行方不明が判明した日時及び場所 ②　行方不明の日時，場所及び理由（推定） ③　行方不明者の氏名等 ④　行方不明者の遺留品等
h	その他の事故	①　事故の状況 ②　事故の原因 ③　措置状況
i	インシデント	①　インシデントの状況 ②　インシデントの原因 ③　措置状況

発　行　　２０１９年１０月
発行者　　愛媛大学沿岸環境科学研究センター
〒790-8577　松山市文京町２番５号
TEL（089）927-8164
FAX（089）927-8167
E-mail：engan@stu.ehime-u.ac.jp
印　刷　　創風社出版

※今後，年報の送付を希望されない場合や，所属機関，住所等の変更がございましたら，お手数ですが上記発行者までお知らせください。

この年報は，再生紙・大豆インキを使用しています。

EHIME UNIVERSITY

CMES

CENTER FOR MARINE ENVIRONMENTAL STUDIES

愛媛大学

EHIME UNIVERSITY

編集・発行／愛媛大学 沿岸環境科学研究センター　〒790-8577 愛媛県松山市文京町2-5　TEL: 089-927-8164　http://www.ehime-u.ac.jp/~cmes/